

『金色夜叉』本文の国語学的研究*

——前編・中編について——

北 澤 尚 ・ 許 哲

日本語・日本文学**

(2007年 8月31日受理)

1. はじめに

1.1 本稿の目的

明治の文豪尾崎紅葉の畢生の大作『金色夜叉』は、近代文学研究や文芸批評の対象としてばかりでなく、明治時代の言語実態の解明のための資料としても用いられることが多い。

近代日本語の研究分野は、他の時代語の研究と同様に、文字・表記、音韻、語彙、文法、文体、方言など多岐に亘るが、それらの言語事象を、個々の文献からの用例収集に基づく帰納的方法によって明らかにしようとする限り、調査対象とする文献の本文(ほんもん・テキスト)の性格の吟味が不可欠であることは言を俟たない。

本稿が対象としようとする長編小説『金色夜叉』にも又、諸々のテキストが存在する。今日では、主に、岩波書店『紅葉全集 第七巻 金色夜叉』(1993年刊)が流布しているようであるが、実は、それ以前に成立したテキスト間に少なからぬ異同があることが先行研究によって既に指摘されている。

『金色夜叉』の本文批評(textual criticism)についての先行研究としては、塩田良平(1952=1970)、増井典夫(2003)、同(2004)、木川あづさ(2007)の研究成果がある。塩田論文は先駆的な論考と言えるが、断片的な指摘にとどまっている。また、増井論文は「形容語での『可』」の用字法に限定した研究である。なお、木川論文は『金色夜叉』前編を対象として、讀賣新聞初出本文と春陽堂初版本本文との異同箇所を全て調査した、本稿と最も関連の深い研究である。しかし、木川論文は、前編における「初出本文、初版本本文の異同はすべて収集した」と述べつつも、漢字表記の異同、句読点の異同、送り仮名の異同、語形の異同、仮名遣いの異同、漢字表記か平仮名表記かの異同、濁音符の有無の異同、ルビの有無、誤植などについては取り上げないという方針の調査分析であることが注意される。ここで、念のために、この木川論文の調査方針と本稿の調査方針とが著しく異なるものであることに触れておく。木川論文が上記の方針によって収集した前編の異同は全230例であるが、本稿では、木川論文が除外した用字や符号の異同も悉く扱うという新たな調査方針によって、前編のみならず、それに続く中編をも調査した結果、前編だけでも全832例という、木川論文の3倍以上の異同箇所を収集し対比することができた。その全容については、本稿の7頁以降に対校表として掲出する。

1.2 調査範囲

本稿は、讀賣新聞初出本文と春陽堂初版本本文とを、初版単行本全五冊のうち『金色夜叉 前編』『金色夜叉 中編』(但し、(一)~(六)の八まで)という最初の二冊分について調査範囲とし、その異同箇所を全て対校表として示し、本文異同の様相について報告しようとするものである。なお、本稿の執筆者は、今後もこの調査分析を継続し、できるだけ早い時期に『金色夜叉』全編の本文異同の様相を明らかにしたいと考えている。(因

* A Textual Critical Study of "Konjiki-Yasha" / KITAZAWA Takashi, HO Chol

** 東京学芸大学(184-8501 小金井市貫井北町4-1-1)

みに、2007年12月末の時点で、『後編』の最後まで対校の作業を終えている。)

2. 『金色夜叉』の諸本

本節では、晩年の紅葉による未完の長編小説『金色夜叉』の諸本の中で、本文の異同を考察する上で、特に重要と考えられるテキストをその成立の経緯とともに解説する。

① 新聞初出本文

まず、「金色夜叉」は、讀賣新聞に、明治30年1月1日から明治35年5月11日まで六年にわたって断続的に掲載された。(以下のa～fの記号は便宜上本稿の執筆者が付したものである。)

- a 「金色夜叉」(壹)～(八)……………明治30年1月1日～同年2月23日
- b 「後篇 金色夜叉」(壹)～(八)……………明治30年9月5日～同年11月6日
- c 「続 金色夜叉」(壹)～(七)……………明治31年1月14日～同年4月1日
- d 「続々 金色夜叉」(壹)～(六)……………明治32年1月1日～同年5月28日
- e 「続々 金色夜叉」(七)～(十三)……………明治33年12月4日～明治34年4月8日
- f 「続々 金色夜叉 続篇」(壹)～(三)……明治35年4月1日～同年5月11日

(なお、fの(壹)(二)については、紅葉自身が本文を改訂し『新小説』(明治36年1月号・2月号・3月号に「新続金色夜叉」の題名で再掲している。)

② 初版本文

「金色夜叉」初版単行本は、讀賣新聞掲載分について、明治31年7月から明治36年6月にかけて、春陽堂から以下の順で出版された。

- 『金色夜叉 前編』明治31年7月6日発行……(新聞初出本文aと対応)
- 『金色夜叉 中編』明治32年1月1日発行……(同上bと対応)
- 『金色夜叉 後編』明治33年1月1日発行……(同上cと対応)
- 『金色夜叉 続編』明治35年4月28日発行……(同上d及びe(七)(八)と対応)
- 『続々 金色夜叉』明治36年6月12日発行……(同上e(九)～(十三)と対応)

(なお、『続々 金色夜叉』第七版には、①の『新小説』掲載の「新続金色夜叉」の追加がある。)

③ 博文館版全集本文

明治36年10月に紅葉が没した後、博文館より『紅葉全集』が刊行された。その『紅葉全集 第六巻』(明治37年12月18日発行)に「金色夜叉」が収められている。章立ては②と同じであるが、さらに「新続金色夜叉」を追加している。「新続金色夜叉」の第一章、第二章は『新小説』掲載本文を、第三章は新聞初出本文を用いているという。なお、この本文について、塩田良平(1952=1970)が、「紅葉が改めて手を入れ」「全体の統一訂正は紅葉の門弟泉斜汀(鏡花の弟)がした」と述べている点は注意を要する。

④ 中央公論社版全集本文

上記の③の後、春陽堂より幾種類かの「金色夜叉」が出版されているが、未見である。むしろ、ここで注目したいのは、塩田良平が校訂した中央公論社版『尾崎紅葉全集 第六巻』(昭和16年6月発行)所収の「金色夜叉」本文である。塩田良平(1952=1970)によれば、「単行本本文(本稿の上記②の本文を指す、引用者注)に紅葉が手を入れ、更に斜汀が検訂した右全集本(本稿の上記③の本文を指す、引用者注)を底本とし、斜汀の校訂した部分(例えば字体、送仮名、仮名遣など不自然な統一による紅葉用字法の無視部分)を原文に戻し、かつ単行本全集本に犯されてきた本文の組違へなどを正常に復した新しい『金色夜叉』本文が、(中略)中央公論社本『尾崎紅葉全集』第六巻の本文である」とのことである。文字通りそうであるなら「最も原作の俤を伝える」(同上)本文であることになろうが、木川あづさ(2007)の調査結果によると、上記の①②③のいずれの本文とも異なる「塩田氏独自の表現」が散見すると言う。この④の本文は、後に筑摩書房『明治文学全集 第十八巻 尾崎紅葉集』(昭和40年4月10日発行)所収「金色夜叉」の底本として採用されることにもなる。今回、本稿ではこの④の本文に関しては研究対象としていないが、その独自性については、作品全編に亘って、今後、周到に調査検討される必要がある。

3. 本稿における本文異同の調査方法と分類の枠組

3.1

くり返しになるが、本稿は、前節の、①新聞初出本文 a・b と、②『金色夜叉 前編』（以下『前編』と略称）及び『金色夜叉 中編』（正確には、本稿における中編の調査範囲は、(一)～(六)の八までであるが、以下『中編』と略称する）の初版本文の両者を対校し、その異同箇所を掲出することを目的としている。その際、語句の異同だけではなく、句読点や文字表記上の異同をも広く取り上げるといふ調査方針をとるため、異同箇所の掲出のし方は、以下の凡例によるものとする。

- (1) 対校にあたって、讀賣新聞初出本文には「壺の一」のように回数を示し、春陽堂初版本文には異同のある箇所の頁数と行数を算用数字で示した。讀賣新聞初出本文は「明治の讀賣新聞」(CD-ROM 読売新聞社メディア企画局データベース部 1999年刊)を用いた。春陽堂初版本文は、『精選 名著復刻全集 近代文学館』（ほるぷ 昭和55年刊）の複製本を用いた。
- (2) 漢字の掲出にあたっては、本文の字体が正字体以外の異体字・別字体の類であっても、両者の間に異同のある箇所についてはその字体をそのまま残した。それ以外の箇所については、常用漢字表にある文字はその字体を用い、それ以外は正字を使用した。
- (3) 句読点、符号、反復記号、仮名遣い、送り仮名、仮名の清濁については異同の対象とした。ただし、変体仮名については取り上げない。
- (4) ルビの異同については、語形の違いだけでなく、仮名遣いと清濁の違いも取り上げた。なお、本稿の対校表では、ルビは、例えば「誤解(ごかい)」のように、漢字の直後の括弧内に示した。また、「誤解(ご□い)」はルビの二文字目が欠字、もしくは判読不能であることを意味する。
なお、初出本文は総ルビであるのに対して、初版本文はパラルビであるので、初出本文にあったルビが初版本文で欠けている箇所については、異同の対象としていない。
- (5) 異同箇所の掲出は、原則として、30字までを目安としている。
- (6) ある一つ異同箇所が、以下の3.2の分類法における複数の種類の異同として分析しうる場合には、複数の項目に立項した。これは、将来、対校表から各種類ごとに異同一覧を検索できるようにするためである。

3.2

本稿が取り上げた本文異同を分類すると、次のようになる。

まず、「1 符号の異同」「2 表記の異同」「3 語法の異同」「4 語句の異同」の四種類に大別し、さらに、その各々を下位分類した。なお、「金色夜叉」の初出本文と初版本文との間に、具体的にどのような異同が見られるのか、各類に該当する異同箇所を一例ずつ例示しておく。ちなみに、以下の例は、初出「後編」とそれに対応する初版『中編』から掲出している。なお、カギ括弧と下線は、本稿において用例を引用する際に付したものであり、「金色夜叉」本文の一部ではない。用例の直後の番号は、本稿の対校表の通し番号である。

1 符号の異同

- 111 読点の変更 (→句点) : 「是非願(ぜひねが)ひな、」(初出)
→「是非願(ぜひねが)ひな_。」(初版) 1301
- 112 読点の付加 : 「あな可煩(わずらは)しと」(初出) → 「あな可煩(わずらは)しと、」(初版) 1232
- 113 読点の削除 : 「お世話(せわ)になりまして、お蔭様(かげさま)で」(初出)
→「お世話(せわ)になりましてお蔭様(かげさま)で」(初版) 1206
- 121 句点の変更 (→読点) : 「なすつて下(くだ)すつたのに_。」(初出)
→「なすつて下すつたのに、」(初版) 1300
- 122 句点の付加 : 「譯(わけ)だ!」(初出) → 「譯(わけ)だ!_。」(初版) 1698
- 123 句点の削除 : 「塞(ふさが)つてをりますから_。」(初出)
→「塞(ふさが)つてをりますから」(初版) 1415
- 131 その他の符号の変更 : 「五とは情無(なさけな)い、」(初出)
→「五とは情(なさけ)無い!_!」(初版) 1394

- 132 その他の符号の付加：「さあ、那（あれ）で」（初出）→「〔さあ、那（あれ）で」（初版） 1526
 133 その他の符号の削除：「見（み）せて遣（や）りたい！！」（初出）
 →「見せて遣（や）りたい！」（初版） 1665

2 表記の異同

- 210 仮名遣いの変更：「酔（よ）はざらむと欲（ほつ）するに」（初出）
 →「酔（よ）はざらんと欲（ほつ）するに」（初版） 1219
 220 送り仮名の変更：「艱（なや）ましげに」（初出）→「艱（なやま）しげに」（初版） 1246
 231 ルビの仮名遣いの変更：「御愁傷（ごしゅうしやう）のやうな」（初出）
 →「御愁傷（ごしうしやう）のやうな」（初版） 1380
 232 ルビ（無→有）：「一枚（まい）の證文（しょうもん）を」（初出）
 →「一枚（いちまい）の證文（しょうもん）を」（初版） 1663
 240 反復記号の変更：「嗚呼（あゝ）、」（初出）→「嗚呼（あゝ）、」（初版） 1711
 251 濁音符（有→無）：「菟菟玉（こんにやくだま。）」（初出）
 →「菟菟玉（こんにやくたま。）」（初版） 1399
 252 濁音符（無→有）：「従々（づか〜）と」（初出）→「従々（づが〜）と」（初版） 1417
 260 漢字の変更：「苦痛（くるしみ）を齋（もたら）して、」（初出）
 →「痛苦（くるしみ）を齋（もたら）して、」（初版） 1223
 271 平仮名→漢字：「〔ほんに〕」（初出）→「〔本に〕」（初版） 1518
 272 漢字→平仮名：「頭痛（づ、う）が致（いた）すので。』（初出）
 →「頭痛（づつう）がいたすので。』（初版） 1331
 280 誤植：「高利貸（アイス）を」（初出）→「高利貸（アスイ）を」（初版） 1524

3 語法の異同

- 311 助詞の変更：「眩（つぶや）きながら庭下駄（にはげた）を」（初出）
 →「眩（つぶや）きつゝ庭下駄（にはげた）を」（初版） 1311
 312 助詞の付加：「お掛（か）けなさい。』（初出）→「お掛（か）けなさいな。』（初版） 1250
 313 助詞の削除：「心配（しんぱい）はして居（ゐ）る」（初出）
 →「心配（しんぱい）して居る」（初版） 1645
 321 助動詞の変更：「途（みち）に求（もと）めたるなり。』（初出）
 →「途（みち）に求（もと）めしなり。』（初版） 1374
 322 助動詞の付加：「行（い）かうとは何（なに）？」（初出）→「行かうとは何だ！』（初版） 1396
 323 助動詞の削除：「事（こと）の秘密（ひみつ）なるべきを思（おも）へば、』（初出）
 →「事の秘密（ひみつ）なるを思へば、』（初版） 1195
 330 助詞・助動詞間の異同：「過（す）ぎし故（ゆゑ）なりと知（し）りぬ。』（初出）
 →「過（す）ぎし故ぞと知りぬ。』（初版） 1258
 341 用言の活用の変更：「思合（おもひあは）するなるべし。』（初出）→「思合すなるべし。』（初版） 729
 342 用言の音便の変更：「氣（き）の毒（どく）なと思（おも）つて』（初出）
 →「氣（き）の毒（どく）なと思うて』（初版） 41
 351 単文の複文化：「太（いた）く驚（おどろ）けり。』（初出）
 →「太（いた）く驚（おどろ）きて、』（初版） 1255
 352 複文の単文化：「詰（なじ）るが如（ごと）く見返（みかへ）して、』（初出）
 →「詰（なじ）るが如く見返（みかへ）しつ。』（初版） 441
 360 文の成分の語順転倒：「お座敷（ざしき）で先程（さきほど）からお待兼（まちかね）で」（初出）
 →「先程（さきほど）からお座敷ではお待兼（まちかね）で」（初版） 1267

4 語句の異同

- 410 名詞の異同：「三月目毎（みつきめごと）に血（ち）を」（初出）
→「一月隔（ひとつきおき）に血（ち）を」（初版）1470
- 420 動詞の異同：「妻（つま）とすべき以上（いじやう）を」（初出）
→「妻（つま）となすべき以上を」（初版）1891
- 430 形容詞の異同：「うゝ、好（よ）い松茸（まつだけ）だ。」（初出）
→「うゝ、好（い）い松茸（まつだけ）だ、」（初版）1766
- 440 形容動詞の異同：「強慾（がうよく）の事（こと）を」（初出）
→「強慾（がうよく）な事を」（初版）1496
- 450 副詞の異同：「一寸（ちよつと）」（初出）→「些（ちよいと）」（初版）1412
- 460 接続詞の異同：「然（さ）れども」（初出）→「然（しか）れども、」（初版）1939
- 470 感動詞の異同：「風「あ、」（初出）→「風「あゝ」（初版）1615
- 481 語句・文章の変更：「葛（くづ）の花咲（はなさ）きて、」（初出）
→「葛（くづ）の乱（みだ）れ生（お）ひて、」（初版）1235
- 482 語句・文章の付加：「遊佐（ゆさ）は」（初出）
→「少間（しばし）ありて遊佐は」（初版）1430
- 483 語句・文章の削除：「可恐（おそろし）さと」（初出）→ ナシ（初版）1190

4. おわりに

以上、本稿では、「金色夜叉」諸テキストの中でも、特に重要と考えられる、讀賣新聞初出本文と春陽堂初版本文とを取り上げ、初版単行本全五冊のうち『金色夜叉 前編』『金色夜叉 中編』（但し、(一)～(六)の八まで）という最初の二冊分を調査範囲とし、その異同箇所を対校表として全て掲出し、本文異同の様相について報告した。

今、『前編』に限ってみても、今回の調査を通して、両者のテキスト間には本文の異同箇所が832箇所も存在することが明らかになった。（なお、『中編』には約2200の異同箇所がある。）さらに、『前編』の本文の異同を、前節の分類基準にしたがって下類化して示すと、「1 符号の異同」が12%、「2 表記の異同」が59%、「3 語法の異同」が20%、「4 語句の異同」が9%、であることも判明した。とは言え、本稿は未だ『金色夜叉』全体の5分の2ほどの調査報告にすぎない。ひき続き、『金色夜叉』本文の全容解明にむかって邁進したい。

参考文献

- 小平 麻衣子（1998）『NHK 文化セミナー・明治文学を読む 尾崎紅葉〈女物語〉を読み直す』日本放送出版協会
- 嘉部 嘉隆編（1988）『森鷗外「舞姫」諸本研究と校本』桜楓社
- 木川 あづさ（2007）『『金色夜叉』における新聞初出と初版本の本文異同について』
『実践国文学』第71号 実践国文学会
- 塩田 良平（1952）「金色夜叉の本文成立について」『大正大学学報』38
- （1970）『明治文学論考』桜楓社
- 田島 優（1998）『近代漢字表記語の研究』和泉書院
- 土佐 亨（2005）『紅葉文学の水脈』和泉書院
- 飛田 良文（1992）『東京語成立史の研究』東京堂出版
- 増井 典夫（2003）「尾崎紅葉における形容語での「可」の用字について —『金色夜叉』『多情多恨』の場合—」
『愛知淑徳大学国語国文』26
- （2004）「尾崎紅葉における形容語での「可」の用字 —初期作品を中心に—」『愛知淑徳大学国語国文』27
- 松井 栄一（1993）「現代語研究のために —明治期以降の著作物のテキストについて—」
『国語と国文学』10月号

- 松井 栄一 (2005)『国語辞典はこうして作られる 理想の辞書をめざして』港の人
山下 浩 (1993)『本文の生態学 湫石・鷗外・芥川』日本エディタースクール出版部
湯浅 茂雄 (2000)「近代語研究の要点と課題」『日本語学』19

付記 本稿は、北澤が企画立案し、許が収集した用例を北澤が分析検討し、両者による議論と調整を経て、1～4を北澤が執筆し、「讀賣新聞初出本文・春陽堂初版本文 対校表」を許が作成したものである。

讀賣新聞初出本文・春陽堂初版本文 対校表 (前編)

讀賣新聞初出本文	春陽堂初版本文	頁	行
1 壹の一 大道(だいだう)は掃(は)きたるやうに	大道(だいだう)は掃(は)きけるやうに	1	5
2 [明30.1.1]其(その)哀切(あはれさ)に	其(その)哀切(あはれさ)に		9
3 小(ちいさ)き腸(はらわた)は	小(ちひさ)き腸(はらわた)は		10
4 断(た)たれぬべし。	断(た、)れぬべし。		10
5 喃(なあ)吹(ふ)くな」	なあ吹くな」		11
6 憤(いかり)を増(ま)したるやうに	憤(いかり)をも増したるやうに	2	1
7 揉(も)みに揉(も)むで	揉(も)みに揉んで		3
8 散々(さんぜん)に獨(ひとり)り	獨(ひとり)り散々(さんぜん)に		3
9 氷(こほ)るばかりに冷徹(ひえわた)りぬ。	殆(ほとん)と氷らんとすなり。		6
10 一大荒原(いちだいくわうげん)の	一大荒原(いちだいくわうげん)の、		11
11 趣味(しゆみ)も無(な)く、	趣味(しゆみ)も無くて、	3	1
12 唯(たゞ)濫(みだり)に邈(ひろ)く横(よこた)はるに	唯(たゞ)濫(みだり)に邈(ひろ)く横(よこた)はれるに		1
13 垢臭(あかくさ)き悪氣(あくき)の	垢息(あかくさ)き悪氣(あくき)の		11
14 綱曳(つなひき)の車(くるま)あり。	綱引(つなひき)の車あり。	4	1
15 勢籠(いきほひこ)みて角(かど)より	勢(いきほ)ひて角(かど)より		1
16 衝(つ)と曲(まがり)	曲(まがり)		1
17 來(きた)りければ、	來(き)にければ、		1
18 葉卷(はまき)の吸壳(すひがら)の	葉卷(はまき)の吸殻(すひがら)の		4
19 赤(あか)く見(み)えて煙(けふ)りぬ。	赤(あか)く見えて煙(けふ)れり。		5
20 其(その)南側(みなみがは)の	其(その)南側(みなみがは)の	5	3
21 軒燈籠(のきとうろう)を掲(か、)げて、	軒燈(のきらムブ)を掲(か、)げて、		3
22 格子(かうし)は鎖固(さしかた)めたるに、	格子(かうし)は鎖固(さしかた)めたるを、		5
23 取合(とりあ)はむともせざりければ、	取合(とりあ)はんとともせざりければ、		7
24 人(ひと)は出來(いで)きたれり。	人は出で來ぬ。		9
25 色白(いろじろ)き女(おんな)彼(かれ)の	色白(いろじろ)き女(おんな)の、茶微塵(ちやみぢん)の絲織(いとおり)の小袖(こそで)に黒(くろ)の奉書(ほうしょ)袖(そで)の紋付(もんつき)の羽織(はねおり)着(き)たるは、此家(このいへ)の内儀(ないぎ)なるべし。彼の		10
26 内(うち)に入(い)らむとせしが、	内(うち)に入らんとせしが、	6	2
27 躊躇(ためら)ひつ。彼(かれ)は	遅(ためら)へるを、彼(かれ)は		3
28 壹(いち)の二(に) 客間(きやくま)と八疊(やふ)の中(なか)の間(ま)を	客間(きやくま)と八疊(やふ)の中の間とを	7	1
29 [明30.1.2]燭臺(しよくだい)を据(す)ゑて、	燭臺(しよくだい)を据(す)ゑ、		2
30 今(いま)を盛(さかり)と	今(いま)を盛(さかり)と		7
31 多人数(たにんず)の熱蒸(いさ)れと、混(こん)じたる	多人数(たにんず)の熱蒸(いさ)れと混(こん)じたる		8
32 皆(みな)赤(あか)くなりて、	皆(みな)赤(あか)くなりて、		10
33 煙(けむり)の渦(うづ)も、	煙(けむり)の渦(うづ)も、	8	5
34 絶間無(たえまな)き騒動(さうどう)の中(うち)に	絶間無(たえまな)き騒動(さうどう)の中(うち)に		7
35 航路(かうろ)に澆(そ、)げば、	航路(かうろ)に澆(そ、)げば、		10
36 九死(きうし)を出(い)づべきなり。	九死(きうし)を出(い)づべしとよ。		11
37 今(いま)此(この)如何(いか)にとも	今(いま)此(この)如何(いか)にとも	9	1
38 畏(おそれ)を懐(いだ)きぬ。	畏(おそれ)を懐(いだ)けり。		4
39 始(は)じめて彼(かれ)を見(み)しものは	始めて彼(かれ)を見るものは		9
40 宮(みや)と云(い)ふ名(な)は	宮(みや)といふ名(な)は		10
41 五十人並(にんなみ)なるもありき。	五十人並(にんなみ)優(すぐ)れたるもありき。	10	2
42 中(ちゆう)の位(くらゐ)を過(す)ぎず。	中(ちゆう)の位(くらゐ)に過ぎず。		3
43 極(きは)めて遺憾(ゐかん)なしと	極(きは)めて遺憾(ゐかん)なしと		4
44 繡珍(しゆちん)に	七絲(しちん)に		6
45 彼(かれ)の整(と、の)ひたる面(おもて)は	彼の整(と、の)へる面(おもて)は		10
46 如何(いかな)る麗(うるは)しき織物(おりもの)よりも	如何(いかな)る麗(うるは)しき織物(おりもの)よりも		10
47 如何(いかに)に着飾(きかざ)らむとも	如何(いかに)に着飾(きかざ)らんとも		11
48 其(その)醜(みにく)きを	其(その)醜(みにく)きを		11
49 一箇(ひとり)は、	一個(ひとり)は、	11	4
50 遂(つひ)に思堪(おもひた)へざらむやうに	遂(つひ)に思堪(おもひた)へざらんやうに		5
51 馬士(まご)にも衣裳(いしやう)と云(い)ふけれど、	馬士(まご)にも衣裳(いしやう)と謂(い)ふけれど、		6
52 美(い)いのは	美しいのは		6
53 美(い)いもの、	美しいもの、		7
54 此(この)強(つよ)き合槌(あひづち)撃(う)つは、	此(この)強(つよ)き合槌(あひづち)撃(う)つは、		10
55 壹(いち)の三(さん) 導(みちび)かれて入來(いりきた)りぬ。	導(みちび)かれて入來(いりきた)りつ。	12	1
56 [明30.1.3]勝負(しようぶ)の最中(さいちゆう)なれば、	勝負(しようぶ)の最中(さいちゆう)なれば、		3

57	緒禿(あかうは)げたる頭顱(つむり)は	緒禿(あかは)げたる頭顱(つむり)は	7
58	小(ちひ)さからぬ鼻(はな)に	小からぬ鼻に	13 3
59	五寸(ごすん)の	六寸の	5
60	繡珍帯(しゅちんおび)に	七絲帯(しちんおび)に	5
61	實(げ)に大立者(おほだても)の揚幕(あげまく)を出(い)で、驚破喝采(さはぐかつさい)を博(はく)さむと待(ま)つの概(がい)ありき。彼(かれ)の立(た)てる姿(すがた)は光(ひかり)を發(はな)つらむやうに	實(げ)に光を發(はな)つらんやうに	6
62	此(この)團樂(まと)の中(うち)に	此(この)團樂(まと)の中に	7
63	美々(びび)しく装(よそほ)ひ居(を)るは	美々(びび)しく装(よそほ)ひたるは	8
64	一箇(ひとり)は	一個(ひとり)は	10
65	故(わざ)と面(おもて)を背(そむ)けぬ。	故(わざ)と面(おもて)を背(そむ)けつ。	14 1
66	其娘(そのむすめ)をば手招(てまね)きぬ。	其娘(そのむすめ)を手招(てまね)きぬ。	2
67	小腰(こごし)を屈(かゞ)めつ。	小腰(こごし)を屈(かゞ)めしのみ。	7
68	「どうぞ此方(これら)へ。」	「どうぞ此方(こちら)へ。」	8
69	娘(むすめ)は案内(あない)	娘(むすめ)は案内(あない)	9
70	せむと待構(まちかま)へけれど、	せんと待構(まちかま)へけれど、	9
71	「あの、見事(みごと)な	「あの、見事(みごと)な、	11
72	まあ御年玉(おとしだま)を	まあ、御年玉(おとしだま)を	11
73	まあ入(い)らつしやいまし。」	まあ、被入(いらつしや)いまし。」	15 2
74	主(あるじ)の勸(すゝ)むる傍(そば)より	主(あるじ)の勸(すゝ)むる傍(そば)より、	3
75	介添(かいぞい)に附(つ)きたり。	介添(かいぞへ)に附(つ)きたり。	5
76	極(きは)めて鄭重(ていちょう)なるを	極(きは)めて鄭重(ていちょう)なるを	6
77	殆(ほとむ)と正(たゞ)しく視(み)る能(□た)はざる	殆(ほとん)と正(たゞ)しく見(み)る能(あた)はざる	9
78	眼(まなこ)を射(い)られたる二人(ふたり)は呆(あき)れ惑(まど)ひぬ。	眼(まなこ)を射(い)られたるに呆(あき)れ惑(まど)へり。	10
79	壹(せき)に復(かへ)ると	席(せき)に復(か)へると	16 3
80	[明30.1.7]「大(おほき)いのねえ。」	「大きいのねえ。」	8
81	隣(となり)より伸來(のびきた)りたる猿臂(ゑんぴ)は彼(かれ)の鼻(はな)の	隣(となり)より伸來(のびきた)れる猿臂(ゑんぴ)は鼻(はな)の	17 4
82	前(さき)なる一枚(まい)の骨牌(かるた)を引攫(ひきさら)ひぬ。	前(さき)なる一枚(まい)の骨牌(かるた)を引攫(ひきさら)へば、	5
83	一旦(いつたん)金剛石(ダイヤモンド)の強(つよ)き	一旦(いつたん)金剛石(ダイヤモンド)の強(つよ)き	10
84	光(ひかり)に焼(や)かれたる彼(かれ)の心(こゝろ)は	光に焼(や)かれたる心(こゝろ)は	10
85	知覚(ちかく)を失(う)しなひけむやうにて、	知覚(ちかく)を失(う)しなひけんやうにて、	11
86	味方(みかた)になりぬ。	味方(みかた)となれり。	18 2
87	「成程(なるほど)金剛石(ダイヤモンド)！」	成程(なるほど)金剛石(ダイヤモンド)！」	7
88	人々(ひと)の迭交(かたみがはり)に	人々の更互(かたみがはり)に	19 5
89	形好(かたちよ)く葉卷(シガー)を持(も)たせて、	好(よ)く葉卷(シガア)を持たせて、	6
90	袖口(そでぐち)に右手(みぎて)を差入(さしい)れ、	右手を袖口(そでぐち)に差入(さしい)れ、	6
91	眼鏡(めがね)の下(した)より	目鏡(めがね)の下より	7
92	下界(げかい)を見遍(みわた)すらむやうに	下界(げかい)を見遍(みわた)すらんやうに	7
93	其父(そのち)の私設(しせつ)する所(ところ)にして、	其父(そのち)の私設(しせつ)する所(ところ)にして、	20 1
94	彼(かれ)の名(な)は直(たゞ)ちに	彼(かれ)の名(な)は直(たゞ)ちに	4
95	世(よ)に愛(め)でたき寶石(ほうせき)に	世(よ)に愛(め)でたき寶石(ほうせき)に	5
96	彼等(かれら)の心(こゝろ)に	彼等(かれら)の心(こゝろ)に	6
97	彼(かれ)に咫尺(しせき)するの榮(えい)を得(え)ば、	彼(かれ)に咫尺(しせき)するの榮(えい)を得(え)ば、	7
98	其目(そのめ)の類無(たぐひ)なく	其目(そのめ)の類無(たぐひ)なく	7
99	楽(たの)しまさるゝ	楽(たの)しまさるゝ	7
100	其鼻(そのはな)までも	其鼻(そのはな)までも	7
101	壹(その)の清(すゞ)しき眼色(まなざし)は	其(その)の清(すゞ)しき眼色(まなざし)は	21 2
102	[明30.1.8]金剛石(ダイヤモンド)と光(ひかり)を争(あらそ)はむやうに、	金剛石(ダイヤモンド)と光(ひかり)を争(あらそ)はんやうに、	2
103	引剥(ひきむ)かむと、	引剥(ひきむ)かんと、	6
104	引剥(ひきむ)かむと、	引剥(ひきむ)かんと、	6
105	日月(につげつ)を並懸(ならべか)けたるやうなりき。	日月を並懸(ならべか)けたるやうなり。	7
106	富山(とみやま)は誰(たれ)と組(く)むらむとは、	富山は誰(たれ)と組(く)むらむとは、	8
107	目指(めざ)されし紳士(しんし)と美人(びじん)は	目指(めざ)されし紳士(しんし)と美人(びじん)とは	10
108	一(ひと)つの大(おほい)なる	一(いつ)つの大(おほい)なる	11
109	隣合(となりあはせ)に坐(すわ)りければ、	隣合(となりあひ)に坐(すわ)りければ、	22 1
110	來(き)にけむやう	來(き)にけんやうに	2
111	來(き)にけむやう	來(き)にけんやうに	2
112	妨害(ぼうがい)せむと為(す)るなり。	妨害(ぼうがい)せんと為(す)るなり。	5
113	遠征軍(ゑんせいぐん)を組織(そしき)して、	遠征軍(ゑんせいぐん)を組織(そしき)し、	7
114	挫(くち)かむと	挫(くじ)かんと	8
115	挫(くち)かむと	挫(くじ)かんと	8

116	顔(かほ)を赤(あか)めて、	顔を赧(あか)めて、	10
117	面皮(めんび)を缺(か)かされたり。	面皮(めんび)を缺(か、)されたり。	11
118	蹂躪(じゅうりん)されたる富山(とみやま)は、	蹂躪(じゅうりん)されし富山は、	23 3
119	這(こ□)文明的(ぶんめいてき)ならざる	這(この)文明的(ぶんめいてき)ならざる	4
120	逃歸(にげかへ)るなりけり。	逃歸(にげかへ)れるなりけり。	5
121	月(つき)を捉(とら)へむとする状(かたち)して	月を捉(とら)へんとする状(かたち)して	7
122	遙曳(ぶら〜)と	遙曳(ぶら〜)と	8
123	垂(さが)れる。	垂(さが)れり。	8
124	主(あるじ)は此為體(こ□ていたらく)を見(み)るより	主(あるじ)は見るより	8
125	あゝ、	おゝ、	9
126	忽(ゆるがせ)にすべからざらむやうに	忽(ゆるかせ)にすべからざらんやうに	10
127	身(み)を起(おこ)しぬ。	身を起(おこ)せり。	11
128	為様(しやう)が無(な)い。	為様(しやう)が無い、	24 1
129	馬鹿(ばか)にしてゐる!	馬鹿(ばか)にしてゐる	3
130	頭(あたま)を	頭(あたま)を	3
131	二(ふた)つばかり撲(ぶ)たれた。」	二つばかり撲(ぶた)れた。」	3
132	二(ふた)つばかり撲(ぶ)たれた。」	二つばかり撲(ぶた)れた。」	3
133	「それは奈何(どう)も	「それは如何(どう)も	9
134	お怪我(けが)は御座(ござ)いませんでしたか。」	お怪我(けが)はございませんでしたか。」	9
135	主(あるじ)は苦笑(にがわらひ)せり。	主(あるじ)も苦笑(にがわらひ)せり。	25 1
136	御座(ござ)いませんが、	ございませんが	5
137	御座(ござ)いませんが、	ございませんが	5
138	何卒(どうぞ)御寛縦(ごゆるり)。」	何卒御寛(どうぞごゆるり)。」	5
139	へえ、又行(また)いらつしやいますか。」	「へえ、又被入(いらつしや)いますか。」	7
140	破顔(はがん)せる主(あるじ)の目(め)は	破顔(はがん)せる主(あるじ)の目は、	9
141	壹(ひと)の六(む)笑(ゑみ)を湛(たゞ)へて居(ゐ)たり。	笑(ゑみ)を湛(たゞ)へたり。	26 1
142	[明30.1.9]「御坐(ござ)いましたらう、	「ございましたらう、	2
143	然(さ)うで御坐(ござ)いませうとも。」	然(さ)うでございませうとも。」	2
144	「何故(なぜ)も無(な)いもので御坐(ござ)います。	「何故(なぜ)も無いものでございます。	4
145	御坐(ござ)いせんか。」	ございせんか。」	4
146	蒼皇(あたふた)入來(いりきた)りたる	倉皇(あたふた)入來(いりきた)れる	27 2
147	此方(こちら)に、お在(いで)あそばしたので	此方(こちら)にお在(いで)あそばしたので	3
148	彼(かれ)は前(さき)の程(ほど)より	彼は先(さき)の程(ほど)より	4
149	指圖(さしづ)して	指圖(さしづ)などして	4
150	居(ゐ)たりしなりけり。	居(ゐ)たるなりき。	5
151	好(よ)く逃(に)げて入(い)らつしやいました。」	好(よ)く逃(に)げて被入(いらつしや)いました。」	7
152	入(い)らつしやいました。」	被入(いらつしや)いました。」	7
153	環(くわん)の失(う)せたるを知(し)るより、	環(くわん)の失(う)せたりと知るより、	9
154	起(た)たむとせり。	起(た)たんとせり、	10
155	起(た)たむとせり。	起(た)たんとせり、	10
156	可(い)いと謂(い)ふのに。」	可(い)いと言(い)ふのに。」	28 3
157	彼(かれ)は廣間(ひろま)の方(かた)へ出(いで)行(ゆ)きぬ。	彼は廣間(ひろま)の方(かた)へ出(いで)行(ゆ)けり。	3
158	「が	「が、	7
159	奈何(どう)したのさ。」	如何(どう)したのさ。」	7
160	「が	「が、	8
161	大(たい)した事(こと)は御坐(ござ)いません。」	大(たい)した事はございません。」	8
162	地所(ぢしよ)や家作(かさく)などで暮(くら)して	地所(ぢしよ)や家作(かさく)などで暮(くら)して	11
163	居(を)るやうで御坐(ござ)います。	居(を)るやうでございます。	11
164	小躰(こてい)に遣(や)つて居(を)るので御坐(ござ)います。」	小體(こてい)に遣(や)つて居(を)るのでございます。」	29 2
165	「はあ、知(し)れたものだね。」	「はあ、知(し)れたもんだね。」	3
166	「私(わたくし)は精(くは)しい事(こと)は	「私(わたくし)は悉(くは)しい事は	8
167	一(ひと)つ聞(き)いて見(み)ませう。」	一つ聞(き)いて見(み)ませうで。」	8
168	知(し)りたらむを、	知るらんを、	30 1
169	知(し)りたらむを、	知るらんを、	1
170	頻(しきり)に觴(さかづき)を侑(すゝ)めぬ。	頻(しきり)に觴(さかづき)を侑(すゝ)めけり。	2
171	今宵(こよひ)此(こゝ)に來(きた)れるは、	今宵(こよひ)此(こゝ)に來(き)りしは、	3
172	娘(むすめ)の多(おほ)く集(あつま)れるを機(き)として、	娘(むすめ)の多(おほ)く聚(あつま)れるを機(き)として、	4
173	嫁選(よめえらび)	嫁選(よめえらみ)	4
174	せむとて	せんとて	4
175	なりけり。	なり。	4
176	歸朝(きてう)するや否(いな)や	歸朝(きてう)するや否(いな)や、	5
177	今日(けふ)が日迄(ひまでも)	今日(けふ)が日までも	7
178	齷齪(あくさく)して已(や)まざるなり。	齷齪(あくさく)して已(や)まざるなり。	7

179	はや日(ひ)に黒(くろ)く、	はや日に黒み、	9
180	額(ひたひ)を鳩(あつ)めては	額(ひたひ)を鳩(あつ)めては、	10
181	二の一 勝負(しようぶ)を續(つゞ)けたりき。	勝負(しようぶ)を續(つゞ)けたり。	31 4
182[明30.1.11]	知(し)らざるものは、	知らざる者(もの)は、	5
183	歸(かへ)りしならむと想(おも)へり。	歸りしならんと想(おも)へり。	5
184	終極(をはり)まで居(ゐ)たり。	終(をはり)まで居たり。	6
185	彼若(かれもし)疾(と)く還(かへ)りたらむには、	彼若(もし)疾(と)く還(かへ)りたらんには、	6
186	三分(ぶん)の一弱(じやく)に過(す)ぎざりけむを、	三分(ぶん)の一弱(じやく)に過(す)ぎざりけんを、	7
187	我願(われねがは)くは何處(いづく)までも送(おく)らむと、	我願(ねがは)くは何處(いづく)までも送(おく)らんと、	10
188	健(したゝ)か思(おも)ひに思(おも)ひけれど、	絶(したゝ)か念(おも)ひに念(おも)ひけれど、	10
189	一人(ひとり)の男(おとこ)附添(つきそ)ひて出(い)でぬ。	一人(ひとり)の男(男)附添(つきそ)ひたり。	11
190	彼(かれ)の挙動(きよどう)の目指(めざ)されしは、	彼の挙動(きよどう)の目指(めざ)れしは、	32 2
191	此(この)一事(いちじ)の外(ほか)は	此(この)一事(いちじ)の外(ほか)は	3
192	躁(さわ)がず、	躁(さわ)かず、	4
193	此(この)両箇(ふたり)の同伴(つれ)なりとは	此(この)両個(ふたり)の同伴(つれ)なりとは	5
194	露見(ろけん)せざりき。	露顕(ろけん)せざりき。	5
195	然(さ)あらむには	然(さ)あらんには	6
196	焦茶(こげちや)の外套(オーバーコート)を	焦茶(こげちや)の外套(オバコート)を	10
197	後(おく)れし宮(みや)の迪着(たど□つ)くを待(ま)ちて	遅(おく)れし宮(みや)の迪着(たどりつ)くを待(ま)ちて	11
198	奴(やつ)は如何(どう)だい。可厭(いや)に	奴(やつ)は如何(どう)だい、可厭(いや)に	33 2
199	然(さ)うねえ。だけれど	「然(さ)うねえ、だけれど	4
200	目(め)の敵(かたき)にして乱暴(らんぼう)を為(す)るので	目の敵(かたき)にして乱暴(らんぼう)するので	4
201	隣合(となりあ)つて居(ゐ)たものだから	隣合(となりあ)つて居(ゐ)たもんだから	5
202	私(わたし)まで酷(ひど)い目(め)に遭(あ)はされて。」	私(わたし)まで酷(ひど)い目(め)に遭(あ)はされてよ。」	6
203	女(おんな)には如何(どう)だらうね。那麼(あんな)のが	女(おんな)には如何(どう)だらうね、那麼(あんな)のが	11
204	「那麼(そんな)無理(むり)な事(こと)を言(い)つて！」	「那樣(そんな)無理(むり)な事(こと)を言(い)つて！」	34 11
205	直(ひた)と彼(かれ)に寄添(よりそ)ひぬ。	直(ひた)と彼(かれ)に寄添(よりそ)へり。	35 5
206	宮(みや)は歩(あゆ)み得(え)ぬまでに笑(わら)ひぬ。	宮(みや)は歩(あゆ)み得(え)ぬまでに笑(わら)ひて、	36 7
207	此(この)間貫(はざまくわん)いち)は、	此(この)間貫(はざまくわん)いち)は、	37 1
208	宮(みや)が妻(めあは)さるべき人(なり)。	宮(みや)が妻(めあは)せらるべき人(なり)。	1
209	三(の)の壹(いち) 間貫(はざまくわん)一(いち)の	間貫(はざまくわん)一(いち)の	38 1
210[明30.1.14]	彼(かれ)の幼(いと)なかりし頃(ころ)	彼の幼(いと)けなかりし頃	2
211	哀歎(なげき)の中(うち)に	哀嘆(なげき)の中に	4
212	葬(はうむ)ると與(とも)に	葬(はうむ)ると與(とも)に、	4
213	望(のぞみ)をさへ	望(のぞみ)みをさへ	4
214	月謝(げつしや)の支出(し、ゆつ)の	月謝(げつしや)の支出(ししゆつ)の	5
215	瘦所帯(やせじよたい)なりけるを、	瘦世帯(やせぜたい)なりけるを、	7
216	看護醫藥(くわんごいやく)の	看護醫藥(かんごいやく)の	10
217	自活(じくわつ)すべからざる	自活(じくわつ)すべくもあらぬ	11
218	拯得(すくひえ)しか。固(もと)より	救得(すくひえ)しか、固(もと)より	39 1
219	月謝(げつしや)をさへ	月謝(げつしや)をさへ	5
220	生時(せいじ)を以(も)て	生時(せいじ)を以(も)つて	7
221	天晴人(あつぱれひと)に成(な)して、	天晴(あつぱれ)人と成(な)して、	8
222	繼(つ)がむとなり。	繼(つ)がんとせるなり。	9
223	繼(つ)がむとなり。	繼(つ)がんとせるなり。	9
224	上(かみ)に立(た)たしめむ。	上(かみ)に立(た)たしめん。	40 1
225	警(いまし)められぬ。	警(いまし)められ、	2
226	又(また)	亦(また)	2
227	唧(かこ)たれぬ。	唧(かこ)たれしなり。	3
228	違(いとま)だに無(な)く	違(いとま)だに無(な)くて	3
229	然(さ)れば貫(はざまくわん)いち)が	然(さ)れば貫(はざまくわん)いち)が	5
230	境遇(きやうぐう)は	境遇(きやうぐう)は、	5
231	厄介者(やくかいもの)として	厄介者(やくかいもの)として	5
232	生(うま)れたらむよりは、	生(うま)れたらんよりは、	7
233	恁(か)くて	恁(か)くて	7
234	在(あ)りなむこと	在(あ)りなんこそ	7
235	在(あ)りなむこと	在(あ)りなんこそ	7
236	多(おほ)からむよ、と	多(おほ)からんよ、と	8
237	知(し)れる人(ひと)は	知る人(ひと)は	8
238	噂(うはさ)しあへり。	噂(うはさ)し合(あ)へり。	8
239	婿(むこ)にせむとすならむと思(おも)へる	婿(むこ)にせむとすならんと想(おも)へる	11
240	始(は)じめて定(さだま)りたり。	始めて定(さだま)りぬ。	41 3
241	冠(かんむり)を戴(いたゞ)かむには、	冠(かんむり)を戴(いたゞ)かんには、	5

242	私(ひそか)に打喜(うちよろこ)びぬ。	私(ひそか)に喜(よろこ)びたり。	6
243	屈辱(くつじよく)を忍(しの)ばむは、	屈辱(くつじよく)を忍(しの)ばんは、	7
244	何(なに)か有(あ)らむと、	何か有らんと、	9
245	過(す)ぎざらむ、	過(す)ぎざらん。	11
246	過(す)ぎざらむ、	過(す)ぎざらん。	11
247	其(その)色好(いろよ)きを	其(その)色好(いろよ)きを	42 1
248	其(その)色好(いろよ)きを	其の色好を	2
249	謂(い)ふ可(べ)くむば、	謂(い)ふ可(べ)くんば、	3
250	夫(をつと)に有(も)たむは、	夫(をつと)に有(も)たんは、	5
251	三の二 微賤(びせん)より出(い)でたる例(ためし)	微賤(びせん)より出(い)でし例(ためし)	6
252	[明30.1.15]明治音楽院(めいしおんがくゐん)に	明治音楽院(めいしおんがくゐん)に	43 3
253	プロフェッサーなる獨逸人(ドイツじん)は	プロフェッサーなる獨逸人(どいつじん)は	3
254	艶書(えんしよ)を	艶書(えんしよ)を	4
255	彼(かれ)を娶(めと)らむとて、	彼を娶(めと)らんとて、	7
256	胸(むね)は破(やぶ)れむとするばかり	胸(むね)は破(やぶ)れんとするばかり	9
257	已(おのれ)の	已(おのれ)の	11
258	男子部(だんしぶ)の	男子部(だんじぶ)の	44 3
259	彼(かれ)を見(み)むとて	彼を見んとて	3
260	彼(か)の	彼(か)の	5
261	プロフェッサーに	プロフェッサーに	5
262	添(そ)はむか、	添(そ)はんか、	5
263	院長(みんちやう)に従(したが)はむか、	院長(みんちやう)に従(したが)はんか、	5
264	鳴澤(しぎさは)の	鳴澤(しぎさは)の	6
265	あらざらむと、	あらざらんと、	7
266	彼(かれ)の	(なし)	7
267	一旦(ひとたび)	一旦(いつたん)	7
268	年と、もに	年と共に	7
269	玉(たま)の輿(こし)を昇(か)かせて	玉(たま)の輿(こし)を昇(か)せて	9
270	天縁(てんえん)の	天縁(てんえん)の、	10
271	廻到(めぐりいた)らむことを	廻到(めぐりいた)らんことを	10
272	楽(たの)しからむとは	楽(たの)しからんとは	45 2
273	怠(おこた)らず貫一(くわんいち)を	怠(おこだ)らず貫一を	4
274	愛(あい)する外(ほか)に	愛(あい)する外には	5
275	其(その)胸(むね)の中(うち)には	其の胸の中に	5
276	四の一 入來(いりきた)りけるが、	入來(いりき)にけるが、	46 5
277	[明30.1.17]鉄瓶(てつびん)も	お鐵瓶(てつ)も	8
278	人氣(ひとげ)の	人氣(ひとげ)の	10
279	一間(ひとま)の寒氣(さむさ)は、	一間(ひとま)の寒(さむさ)は、	10
280	直(たゞ)ちに咬(か)まむとする如(ごと)く	直(たゞ)ちに咬(か)まんとするが如く	11
281	梢(こずえ)に月(つき)のうつろひたるが如(ごと)く、	梢(こずえ)に月のうつろへるが如く、	47 5
282	背後(うしろ)の壁(かべ)に	背後(うし)の壁(かべ)に	6
283	匂(にほひ)滴(こぼ)る、やうなり。	香滴(にほひこぼ)る、やうなり。	6
284	寒氣(さむさ)の	寒(さむさ)の	48 1
285	甚(はなはだ)しきを	太甚(はなはだ)しきを	1
286	裊(しとね)の上(う)に	裊(しとね)の上に	2
287	這(こ)は	箇(こ)は	3
288	貫一(くわんいち)の常(つね)に敷(し)くをば	貫一の敷くをば	3
289	今夜(こんや)彼(かれ)の敷(し)きたるなり。	今夜彼の敷くなり。	4
290	停(とま)りぬ。	停(とま)りぬ。	6
291	起(た)たむとしたり。	起(た)たんとする時、	6
292	歸(かへ)りし事(こと)あらざれば、	歸りし事あらざれば、	8
293	はや十一時(じ)に垂(なり)なむとす。	早や十一時(じ)に垂(なん)んとす。	9
294	持(も)ちて(い)出(で)ぬ。	持ちて出(で)ぬ。	11
295	出合(いであ)ひたり。	出合(いであ)へり。	49 1
296	帽(ぼう)は落(お)ちなむばかりに	帽(ぼう)は落(お)ちなむばかりに	2
297	ハンカチーフに	ハンカチーフに	3
298	舌(した)の乾(かは)くに	舌(した)の乾(かわ)くに	5
299	這麼所(こんなところ)へ	這麼所(こんなところ)に	11
300	手(て)を牽(ひ)かむとせしに、	手を牽(ひ)かんとせしに、	50 7
301	彼(かれ)は跣(よろめ)きつ、	彼は跣(よろめ)きつ、	8
302	其身一(そのみひと)つさへ	其の身一(そのみひと)つさへ	8
303	やう〜彼(かれ)を扶(たす)けて	やう〜扶(たす)けて	9
304	「君(きみ)に勸(すす)む	「君(きみ)に勸(すす)む、	51 1

305	須(すべか□)く	須(すべから)く	1
306	四の二 宮(みや)さん、	宮(みい)さん、	5
307	[明30.1.18] 苦(くる)しいほど	苦しいほど	8
308	大(おほ)いに事情(わけ)が有(あ)るのだ。	大いに譯(わけ)が有るのだ。	9
309	可(いい)事情(わけ)が有(あ)るのだ。	可(いい)譯(わけ)が有るのだ。	10
310	何故(なぜ)那麼(そんな)に	何故(なぜ)那樣(そんな)に	11
311	飲(の)むだの。	飲んだの。	11
312	誰(だれ)に飲(の)まされたの。	誰に飲されたの。	52 1
313	附(つ)いて居(ゐ)ながら、	附い居ながら、	2
314	多謝(メニーサンクス)!	多謝(メニイサンクス)!	5
315	握緊(にぎりし)めたり。	握緊(にぎりし)めつ。	8
316	笑(ゑむ)を	笑(ゑみ)を	53 4
317	餘念無(よねんな)く	餘念(よねん)なく	4
318	美人(びじん)と一所(いつしよ)に居(ゐ)て	美人(ひじん)と一所(いつしよ)に居て	5
319	一箇人(いつこじん)の	一個人(いつこじん)の	9
320	恥辱(ちじよく)ばかりでは無(な)い、	恥辱(ちじよく)ばかりではない、	10
321	朋友(□ういう)ばかりでは無(な)い、	朋友ばかりではない、	11
322	是非(ぜひ)彼(あの)美人(びじん)を	是非(ぜひ)彼(あ)の美人(びじん)を	54 1
323	心(こゝろ)を一(いつ)にして	心を一(□つ)にして	2
324	呶々(ぐいゝ)	呶々(ぐひゝ)	5
325	此頃(このごろ)小父(をち)さんや	此頃(このごろ)翁(をち)さんや	55 2
326	那麼(そんな)事(こと)は	「那樣(そんな)事は	4
327	小父(をち)さんや	翁(をち)さんや	5
328	「然(さ)うか知(し)らん？」	「然(さ)うか知らん□」	8
329	彼(かれ)の火(ひ)の如(ごと)き頬(ほゝ)に、	彼が火の如き頬(ほゝ)に、	10
330	額(ひたひ)に	額(ひたひ)に、	11
331	あれ又(また)	あれ、又	56 1
332	あらざらむやうに其(その)力(ちから)を	あらざらんやうに、其の力を	4
333	富(とみ)も貴(たうと)きも名(な)も、	富(とみ)も貴(たうと)きも、	4
334	其(その)膝(ひざ)に覺(おほ)ゆる	其の膝(ひざ)に覺(おほ)ゆる	5
335	微温(びおん)の	微温(びをん)の	5
336	前後(ぜんご)を知(し)らざるなりけり。	前後(ぜんご)をも知らざるなりけり。	7
337	此(この)夜(よ)の如(ごと)く	此(こ)の夜(よ)の如く	8
338	此(この)明(あきら)かなる	此の明(あきら)かなる	10
339	感(かん)じたるなり。	感(かん)ずるなり。	11
340	五の壹 往來(わうらい)したりけれど、	往來(ゆきゝ)したりけれども、	57 2
341	[明30.1.23] 疎(うと)くなれるに及(およ)びて、	疎(うと)くなりけるに及(およ)びて、	5
342	此(この)珍(めづら)しき	此の珍(めづら)しき	10
343	客來(きやくらい)のありけるを知(し)らず、	客來(きやくらい)のありしを知らず、	11
344	敢(あへ)て告(つ)げずして、	敢(あへ)て告(つ)げずして、	11
345	告(つ)げむとは	告(つ)げんとは	58 2
346	談合(だんがふ)しては、	談合(たんがふ)しては、	3
347	見出(みいだ)さむは	見出(いだ)さんは	6
348	云(い)ふまでにはあらねど、	謂(い)ふまでにはあらねど、	10
349	打傾(うちかたふ)きたるが、	打傾(うちかたむ)きたるが、	59 3
350	擴(ひろ)げて、	披(ひろ)げて、	5
351	多(おほ)く眠(ねむ)らずなりてよりは、	多(おほ)く眠(ねむ)らずなりてよりは、	7
352	仔細(しさい)を知れるなるべく、	仔細(しさい)を知れるにや、	8
353	怪(あやし)まむともせで、	怪(あやし)まんともせで、	9
354	早(は)やく歸來(かへりき)にけるが、	早く歸來(かへりき)にけるが、	11
355	咳(しはぶ)くして聲(こゑ)、	咳(しはぶ)く聲(こゑ)して、	60 1
356	我(わが)歸(かへ)れるを知らざるよと	我が歸(かへ)しを知らざるよと	2
357	思凝(おもひこら)すなるべし。	何をか思凝(おもひこら)すなるべし。	6
358	驚(おどろ)きつゝも	異(あやし)みつゝも	8
359	彼(かれ)の為(せ)むやうを	彼の為(せ)んやうを	8
360	見(み)むと	見んと	8
361	火燵(こたつ)に入(い)りけるが、	火燵(こたつ)に入りけるが。	9
362	貫一(くわんいち)は柱(はしら)に身(み)を倚(よ)せて、斜(なゝめ)に内(うち)を窺(うかが)ひつゝ、	柱(はしら)に身を倚(よ)せて、斜(なゝめ)に内(うち)を窺(うかが)ひつゝ、貫一は	11
363	煩(わづら)ふならむ。	煩(わづら)ふならん。	61 2
364	明(あか)さざるならむ。	明(あか)さざるならん。	3
365	覺(おぼえ)ざると與(とも)に、	覺(おぼえ)ざると與(とも)に、	4
366	自(おのづか)ら俯(うつむ)きぬ。	自(おのづか)ら俯(うつむ)きぬ。	6

367	打俯(うちふ)して居(ゐ)たり。	打俯(うちふ)して居たり、	8
368	蒔繪(まきゑ)の櫛(くし)の	蒔繪(まきゑ)の櫛(くし)の	8
369	五の二 振仰(ふりあふ)ぐ時(とき)、	振仰(ふりあふ)く時、	10
370	[明30.1.24]思顔(おもひくづ)ほるゝ	思顔(おもひくづ)をゝるゝ	11
371	敵(おほ)はむとしたるが如(ごと)し。	敵(おほ)はんとしたるが如し。	11
372	御歸(おかへ)んなすつたの。」	御歸(おかへ)んなすつて。」	62 1
373	連(しきり)に	頻(しきり)に	4
374	這麼(そんな)に	那樣(そんな)に	5
375	裁片疊(きれた、う)の	裁片疊(きれた、ふ)の	6
376	「何(なん)とも無(な)いのよ。	「何(なん)ともないのよ。	9
377	言ふのだ。	言ふんだ。	63 1
378	其(それ)に違(ちがひ)無(な)いぢやないか。」	それに違(ちがひ)無いぢやないか。」	2
379	何(なん)とも有(あ)りもしないものを……………」	何(なん)ともありもしないものを……………」	3
380	「何(なん)とも無(な)いものが、	「何(なん)ともないものが、	4
381	見(み)て居(ゐ)たのだよ。	見て居(ゐ)たんだよ。	6
382	徼(わづか)に	僅(わづか)に	10
383	頭(かしら)を掉(ふ)りぬ。	頭(かしら)を掉(ふ)れば、	64 1
384	如何(いか)に答(こた)へむとさへ惑(まど)へるに	如何(いか)に答(こた)へんとさへ惑(まど)へるに、	6
385	詰(な)じらむと待(ま)つよと思(おも)へば、	詰(な)じらんと待(ま)つよと思(おも)へば、	7
386	身(み)は絞(しぼ)らるゝやうに	身(み)は搾(しぼ)らるゝやうに	7
387	瞬(また、き)もせで	瞬(また、)もせで	65 4
388	好(い)い事(こと)は無(な)く、	好(い)い事は無し、	8
389	考(かむ)がへれば	考(かむ)れば	8
390	私(わたし)は自分(じぶん)でも	自分(じぶん)でも	10
391	聴居(き、ゐ)たりし貫一(くわんいち)は	聴居(き、ゐ)りし貫一(くわんいち)は	66 1
392	打菱(うちしお)れて	打菱(うちしお)をれて	4
393	氣(き)に為(し)ては	氣(き)に為(し)しては	5
394	五の三 這樣(そんな)事(こと)を	那樣(そんな)事(こと)を	10
395	[明30.1.27]這樣(そんな)	那樣(そんな)	67 3
396	了簡(れうけん)を	了簡(れうけん)を	3
397	滿(つま)らんものでは無(な)いよ。	滿(つま)らんものではないよ。	11
398	引向(ひきむ)けむとすれば、	引向(ひきむ)けんとすれば、	68 8
399	連(しきり)に揺(ゆ)するゝを、	連(しきり)に揺(ゆ)するゝを、	69 1
400	一件(ひとつ)の大(おほ)きな	一件(ひとつ)大きな	8
401	愉快(ゆくわい)で耐(た)まらんの。	愉快(ゆくわい)で愉快(ゆくわい)で耐(た)まらんの。	8
402	其(その)たのしむを	其(その)たのしみを	10
403	打顫(うちふる)ひぬ。此(この)心(こゝろ)の	打顫(うちふる)ひしが、此(この)心(こゝろ)の	70 5
404	外套(オウバーコート)の	外套(オバコート)の	11
405	袋(ふくろ)の口(くち)は弛(ゆる)みて紅白(こうはく)の	袋(ふくろ)の口(くち)は弛(ゆる)みて、紅白(こうはく)の	71 1
406	六の壹 憂(うき)に堪(た)へざらんやうなる	憂(うき)に堪(た)へざらんやうなる	72 6
407	[明30.1.28]懼(おそれ)れたり。	恐(おそれ)れたり。	73 2
408	生(せい)を求(もと)むれども得(え)ざるやうに、	生(せい)を求(もと)むれども得(え)ざるやうに、	5
409	悩乱(なうらん)して其(その)	悩乱(なうらん)して幾(ほと)ほと其(その)	5
410	両親(りやうしん)に訴(う)つたへしにやあらむ、	両親(りやうしん)に訴(う)つたへしにやあらん、	7
411	母(は、)と娘(むすめ)は	母(は、)と娘(むすめ)とは	7
412	一箇(ひとつ)の	一個(ひとつ)の	9
413	旅鞆(たびカバン)を	旅鞆(たびかばん)を	9
414	一軒屋(ひとつや)の立(た)てるが如(ごと)く	孤屋(ひとつや)の立(た)てるが如(ごと)く	10
415	碁経(きけい)を披(ひら)きて居(ゐ)たり。	碁経(きけい)を披(ひら)きて居(ゐ)たり。	11
416	眉目温厚(びもくおんかう)にして、	眉目温厚(びもくおんかう)にして	74 3
417	湯治(たうち)が	湯治(たうち)が	7
418	良(い)いと	良(よい)と	7
419	云(い)つて	言(い)うて	7
420	有(あ)る可(べ)からざる事(こと)のやうに	有(あ)る可(べ)からざる事(こと)のやうに	11
421	「さあ、	「はあ、	75 2
422	私(わし)も這樣(そんな)	私(わし)も那樣(そんな)	2
423	塩梅(あんばい)で。」	塩梅(あんばい)で。」	6
424	何(なん)に	何(なん)に	6
425	飽(あ)きて了(しま)うて、	飽(あ)きて了(しま)うて、	6
426	内養生(うちやうじやう)の方(ほう)が楽(らく)だ、	内(うち)養生(やうじやう)の方(ほう)が楽(らく)だ、	7
427	着更(きか)へむとて	着更(きか)へんとて	9
428	筆(ふで)の蹟(あと)などあらむかと思(おも)ひて、	筆(ふで)の蹟(あと)などあらんかと思(おも)ひて、	10
429	必(かならず)便(たより)あらむと	必(かならず)便(たより)あらんと	76 1

430	机(つくえ)に向(むか)ひぬ。	机(つくゑ)に向へり。	4
431	行(い)つたのぢや無(な)し、	行つたのぢやなし、	7
432	彼人(あのひと)は平氣(へいき)なのか知(し)らん。」	彼人(あのひと)は平氣(へいき)なのか知らん。	77 1
433	六の二 貫一(くわんいち)は猶(なほ)も思統(おもひつづ)けつ。	(なし)	2
434[明30.1.31]	「女(をんな)と云(い)ふ者(もの)は	女と云ふ者は	2
435	一体(いつたい)	一體(いつたい)	2
436	豈(まさか)に彼人(あのひと)が	豈(まさか)に彼人(あのひと)が	4
437	這樣(そんな)事(こと)は無(な)い。	那樣(そんな)事は無い。	4
438	疑(うたが)はざるを得(え)ない!	疑はざるを得ない!	78 1
439	溺(おぼ)れてゐる!	溺(おぼ)れてゐる!	4
440	情(じやう)が篤(あつ)くなければならんのだ。	情が篤(あつ)くなければならんだ。	6
441	實(じつ)に憎(にく)いよ。	實(じつ)に憎(にく)い。	8
442	親(おや)の目(め)を忍(しの)むで	親の目を忍(しの)んで	10
443	此(この)鳴澤(しぎさは)の世話(せわ)に	此(この)鳴澤(しぎさは)の世話(せわ)に	79 1
444	氣(き)を揉(もま)して。	氣(き)を揉(もま)して、	4
445	時々(とき々)	時々(とき々)	11
446	侮(あなど)つてゐるのでは	侮(あなど)つてゐるのでは	80 1
447	家付(いへつき)の娘(むすめ)だ、因(そこで)自(おのづから)主(しゆう)と	家附(いへつき)の娘(むすめ)だ、因(そこで)自(おのづから)主(しゆう)と	2
448	能(よく)云(い)はれる事(こと)だ、	能(よく)言(いは)れる事(こと)だ、	3
449	恁(かうい)ふ譯(わけ)に……………。	恁(かうい)ふ譯(わけ)に、……………	5
450	那樣(そんな)根性(こんじやう)が	那樣(そんな)根性(こんじやう)が	8
451	愛情(あいじやう)の俘(とり)こにはなつても、	愛情(あいじやう)の俘(とり)ことはなつても、	10
452	此縁(このえん)を切(き)つたなら、	此縁(このえん)を切つたなら	11
453	死(し)なん迄(までも)發狂(はつきやう)するかも知(し)れん。	死(し)なんまでも發狂(はつきやう)するかも知れん。	81 1
454	管(かま)はない!	管(かま)はん!	2
455	其点(そのてん)は	其點(そのてん)は	5
456	だから冷淡(れいたん)であるから	だから、冷淡であるから	6
457	之(これ)が研究(けんきう)すべき問題(もんだい)だ。」	之(これ)が、研究(けんきう)すべき問題(もんだい)だ。」	9
458	意(こゝろ)に満(み)たぬ事(こと)ある毎(ごと)に此問題(このもんだい)を	意(こゝろ)に満(み)たぬ事(こと)ある毎(ごと)に、必ず此(この)問題(もんだい)を	10
459	研究(けんきう)せざる事(こと)無(な)けれども、	研究(けんきう)せざるけれども、	10
460	曾(かつ)て	未(いま)だ曾(かつ)て	11
461	解釋(かいしやく)し得(え)たる事(こと)はあらざるなり。	解釋(かいしやく)し得ざるなりけり。	11
462	解釋(かいしやく)せむとすらむ。	解釋(かいしやく)せんとすらん。	82 1
463	六の三 一枚(まい)の端書(はがき)をもて	一枚の端書(はがき)をもて	83 2
464[明30.2.2]	齊(ひと)しく片々(きれ々)に	齊(ひと)しく片々(きれ々)に	5
465	而(しか)も言解(いひと)くもの、	而(しか)も言解(いひと)く者の	10
466	燃(や)くやうなり。	燎(や)くやうなり。	11
467	一人(ひとり)の侘(わび)しければ	一人の侘(わび)しければ	84 1
468	留(とゞ)めて物語(もの)かたらはむとてなるべし。	留(とゞ)めて物語(もの)かたらはんとてなるべし。	2
469	「頂戴(ちやうだい)します。」	「頂戴(ちやうだい)します。」	9
470	人(ひと)に移(うつ)さむは、	人に移(うつ)さんは、	10
471	甚(はなは)だ謂(いは)れなき事(こと)なりと	甚(はなは)だ謂(いは)れ無(な)き事(こと)なり、と	10
472	心(こゝろ)を傷(いた)めむより、	心を傷(いた)めんより、	11
473	努(つと)めて寛(くつろ)がむとしたれども、	努(つと)めて寛(くつろ)がんとしたれども、	85 2
474	細々(こま々)と優(やさ)しき事(こと)など	細々(こま々)、と優(やさ)しき事(こと)など	4
475	我(われ)は嬉(うれ)しからむ。	我(われ)は嬉(うれ)しからん。	5
476	顔(かほ)を見(み)るに替(か)へて其(その)樂(たのしみ)は	顔(かほ)を見るに易(か)へて、其(その)樂(たのしみ)は	6
477	二夜三夜(ふたよみよ)は遠(とおざ)かりて	二夜三夜(ふたよみよ)は遠(とほざ)かりて、	7
478	せめて其(その)文(ふみ)を形見(かたみ)に思(おも)ひつづけむ	せめて其(その)文(ふみ)を形見(かたみ)に思(おも)ひつづけんも	8
479	如何(いか)に我(われ)の本意(ほんい)無(ほいな)く思(おも)はむかは	如何(いか)に本意(ほんい)無(ほいな)く我(われ)の思(おも)ふらんかは	9
480	我(われ)を慰(なぐさ)めむとは為(せ)ざる。	我(われ)を慰(なぐさ)めんとは為(せ)ざる。	9
481	其(その)一筆(ひととび)を如何(いか)に我(われ)の嬉(うれ)しく思(おも)はむかも	其(その)一筆(ひととび)を如何(いか)に我(われ)の嬉(うれ)しく思(おも)ふらんかも	11
482	然(さ)は為(せ)ざるにやあらむ。	然(さ)は為(せ)ざるにやあらん。	86 2
483	恁(かく)くまでに	恁(かく)くまでに	2
484	我(われ)に復(かへ)れり。	吾(われ)に復(かへ)れり。	4
485	隆三(りゆうざう)の顔(かほ)は燈火(ともしび)に	隆三(りゆうざう)の顔(かほ)は、燈火(ともしび)に	7
486	頭(あらは)せるやうに	頭(あらは)せるやうに、	8
487	貫一(くわんいち)は覺(おぼ)えたり。	貫一(くわんいち)は覺(おぼ)ゆるなりき。	8
488	先(まづ)打出(うちい)ださむ語(ことば)を	先(まづ)打出(うちい)ださん語(ことば)を	11
489	又(また)猶(なほ)予(また)めらひぬ、其(その)髻(ひげ)は	又(また)遅(ためら)ひぬ、其(その)髻(ひげ)は	87 2
490	虻(あぶ)に苦(くる)しむ	虻(あぶ)に苦(くる)しむ	3
491	六の四 勉強(べんきやう)してくれんでは困(こま)る、なう。	勉強(べんきやう)してくれんでは困(こま)るなう。	8
492[明30.2.3]	忘(わす)れむと為(す)る平生(へいぜい)を	忘(わす)れんと為(す)る平生(へいぜい)を	88 6

493	御禮(おれい)の申(まを)しやうも御座(ござ)いません。	御禮(おれい)の申しやうもございません。	8
494	何(なに)に成(な)つて居(を)りますか。	何(なに)に成(な)つて居(を)りますか、	89 2
495	大人(おとな)びたる己(おのれ)を見(み)て、	大人(おとな)びたる己(おのれ)を見て、	5
496	其(その)着(き)たる衣(きぬ)を見(み)て、	其(その)着(き)たる衣(きぬ)を見て、	5
497	其(その)座(すわ)れる裯(しとね)を見(み)て、	其(その)坐(すわ)れる裯(しとね)を見て、	6
498	風呂敷(ふろしき)に提(ひさ)げて、其影(そのかげ)の如(ごと)く	風呂敷(ふろしき)に提(さ)げて、其(その)影(かげ)の如(ごと)く	9
499	「お前(まへ)が	お前(まへ)が	11
500	然(さ)う思(おも)つてくれ、ば	然(さ)う思(おも)うてくれ、ば	11
501	何(なん)でも致(いた)します。」	何(なん)なりと致(いた)します。」	90 2
502	潔(いさぎよ)く答(こた)ふるに憚(は)からざりけれども、	潔(いさぎよ)く答(こた)ふるに憚(は)からざりけれど、	4
503	せめて乱(みだ)さむと	せめて乱(みだ)さんと	8
504	いつそ彼(あれ)は遣(や)つて了(しま)つての、	いつそ彼(あれ)は遣(や)つて了(しま)うての、	11
505	身(み)を固(かた)めるとしたら如何(どう)だ。」	身(み)を固(かた)めるとしたら如何(どう)かな。」	91 2
506	汝(なんぢ)の命(いのち)を	汝(なんぢ)の命(いのち)を	3
507	六(む)の五(ご) 貫一(くわんいち)の言(ことば)を出(いだ)さざれば、	貫一(くわんいち)の言(ことば)を出(いた)さざれば、	11
508	[明30.2.4]主(あるじ)は寡(すくな)からず惑(まど)ひたり。	主(あるじ)は寡(すくな)からず惑(まど)へり。	11
509	縁(えん)を切(き)つ了(しま)ふと云(い)ふのではない、可(い)いかい。	縁(えん)を切(き)つ了(しま)ふと云(い)ふのではない、可(い)いかい。	92 2
510	お前(まへ)に譲(ゆづ)るのだ。	お前(まへ)に譲(ゆづ)るのだ、	3
511	承知(しょうち)してくれなければ困(こま)る、	承知(しょうち)してくれなければ困(こま)る、	8
512	誤解(ごくわい)されては困(こま)る。	誤解(ごくわい)されては困(こま)る。	9
513	然(さ)うだろう。	然(さ)うだろう、	93 1
514	頼(たのみ)が有(あ)ると言(い)つたのは	頼(たのみ)が有(あ)ると言(い)うたのは	3
515	益(ます)〜)お前(まへ)の	益(ます)〜)	4
516	世話(せわ)をせうから、	世話(せわ)をせうからなう、	4
517	其處(そこ)に免(めん)じて、此頼(このたのみ)は	其處(そこ)に免(めん)じて、お前(まへ)も此頼(このたのみ)は	5
518	常(つね)に變(かは)りたり。	常に變(かは)れり。	7
519	お前(まへ)の意(い)は如何(どう)だ、	お前(まへ)の意(い)は如何(どう)だ。	11
520	這樣(そんな)貪着(どんぢやく)は無(な)しに、	那樣(そんな)貪着(どんぢやく)は無(な)しに、	94 1
521	何(なん)でも恚(か)でも	何でも恚(か)でも	1
522	貫一(くわん)が心(むね)には、	貫一(くわん)が胸(むね)には、	6
523	罵(の、し)るべき事(こと)、	罵(の、し)るべき、	7
524	敢(あへ)て言(い)はじと覚悟(かくご)しつ。	敢(あへ)て言(い)はじと覚悟(かくご)せるなり。	10
525	如此(かのごと)く逼(せま)れども、	如此(かのごと)く逼(せま)れども、	11
526	割(さ)かむとすらむ。	割(さ)かんとすらん。	95 2
527	割(さ)かむとすらむ。	割(さ)かんとすらん。	2
528	我思(わがおも)ふま、には	我(わ)が思(おも)ふま、に	2
529	我(われ)を棄(す)てざらむには、	我(われ)を棄(す)てざらんには、	4
530	頼(た)のまる、も宮(みや)が心(こゝろ)なりと、	頼(た)のまる、も宮(みや)が心(こゝろ)なりと、	5
531	慍(いかり)を和(やはら)げむと勉(つと)めたり。	慍(いかり)を和(やはら)げんと勉(つと)めたり。	6
532	善(よ)し善(よ)し、	善(よ)し〜、	8
533	遇(あ)はずむば。	遇(あ)はずんば。	9
534	六(む)の六(む) 未(ま)だ耽(しか)とは	未(ま)だ確(しか)とは	11
535	[明30.2.5]自(みづか)ら笑(わら)ひぬ、	自(みづか)ら笑(わら)ひぬ。	96 5
536	我(わ)が宮(みや)の如(ごと)く	吾(わ)が宮(みや)の如(ごと)く	6
537	誰(たれ)かは戀(こ)ひざらん。	誰(たれ)かは戀(こ)ひざらん。	7
538	獨(ひとり)り怪(あや)しとも怪(あや)しきは	獨(ひとり)り怪(あや)しとも怪(あや)しきは	7
539	輕(かる)々(ろ)しく破(やぶ)るべきにあらず、	輕々(かるろ)しく破(やぶ)るべきにあらず、	8
540	嫁(か)せしめむとするなり。	嫁(か)せしめんとするなり。	9
541	狂(きやう)せるにはあらずや。	心狂(くる)へるにはあらずや。	10
542	真意(しんい)に出(い)でたるを疑(うたが)はむより	真意(しんい)に出(い)でしを疑(うたが)はんより	11
543	辱(はづかし)められたらむやうに怒(いかり)を為(な)せしかど、	辱(はづかし)められたらんやうにも怒(いかり)を作(な)せしかど、	97 2
544	看(み)むと思(おも)へば、	看(み)んと思(おも)へば、	3
545	心(こゝろ)稍(やゝ)落居(おちゐ)たり。	心(こゝろ)稍(やゝ)落居(おちゐ)ぬ。	4
546	約束(やくそく)を變換(へんが)するもの、	約束(やくそく)を變易(へんがへ)するもの、	98 5
547	約束(やくそく)を變換(へんが)するもの、	約束(やくそく)を變易(へんがへ)するもの、	5
548	思(おも)ふより外(ほか)は	思(おも)ふより外(ほか)は	6
549	疎(おろそか)には為(せ)まい、	疎(おろそか)には為(せ)まい。	10
550	随分(ずぶん)事(こと)を分(わ)けた話(はなし)で	随分(ずぶん)事(こと)を分(わ)けた話(はなし)で。	99 2
551	欲(よく)では無(な)いが、	慾(よく)ではないが、	3
552	お前(まへ)が此(これ)から	お前(まへ)が是(これ)から	7
553	年効(としがひ)も無(な)く事(こと)を好(この)むで、	年効(としがひ)も無(な)く事(こと)を好(この)んで、	100 1
554	最少(も)うすこ)しの所(ところ)を	最少(も)うすこ)しの所(ところ)を	7
555	思(おも)ひのまゝに説畢(ときを)はせたる面色(おも、ち)して、	思(おも)ひのまゝに説完(ときおほ)せたる面色(おも、ち)して、	10

556 六の七 千言萬言(げんまんげん)の舌(した)を	千言(げん)萬語(ご)の舌(した)を	101	2
557[明30.2.6]弄(らう)して倦(う)まざるは、	弄(らう)して倦(う)まざるは		2
558 利(り)の一字(いちじ)を掩(おほ)はむが為(ため)のみ。	利(り)の一字(いちじ)を掩(おほ)はんが為(ため)のみ。		3
559 仍(なほ)盜(ぬす)まむとする乎(か)。	仍(なほ)盜(ぬす)まんとする乎(か)。		4
560 自(みづか)ら瀆(けが)すべきや。	自(みづか)ら穢(けが)すべきや。		7
561 妻(つま)を賣(う)りて	妻(つま)を賣(う)りて		7
562 人(ひと)は穢(けが)れたれども、	人(ひと)は穢(けが)れたれども		9
563 奈何(いか)にせむ。	奈何(いか)にせん。	102	3
564 此(この)穢(けが)れたる世(よ)を喜(よろこ)ばむ乎(か)。	此(この)穢(けが)れたる世(よ)を喜(よろこ)ばん乎(か)。		4
565 世界無雙(せかいぶさう)の大金剛石(だいこんがうせき)をもて	世界無雙(せかいぶさう)の大金剛石(だいこんがうき)をもて		8
566 購(あがな)はむとすとも、	購(あがな)はんとすとも、		9
567 穢(けが)れたるを忘(わす)れむ。	穢(けが)れたるを忘れん。		11
568 扞(ま)げて然(さ)あらぬ躰(てい)に	扞(ま)げて然(さ)あらぬ體(てい)に	103	2
569 漸(やう)やく得心(とくしん)がいつたのだ。」	漸(やう)やく得心(とくしん)がいつたのだ。」		11
570 思(おも)ひながら、	思(おも)ひながら、	104	1
571 仍(なほ)貫一(くわんいち)の胸(むね)は	貫一(くわんいち)の胸(むね)は		1
572 承知(しょうち)してくれ。	承知(しょうち)してくれ、		8
573 なう、なう、貫一(くわんいち)。」	なう。なう、貫一(くわんいち)。」		8
574 それではお前(まへ)も	「それではお前(まへ)も		11
575 七の壹 地(ち)は平(たひらか)に	地(ち)は坦(たひらか)に	106	6
576[明30.2.9]芝(しば)の生(お)ふる外(ほか)は一物(ぶつ)も無(な)き	芝生(しばふ)の		7
577 麗(うら、か)に霽(は)れたる	麗(うら、か)に霽(は)れたる		9
578 懶(ものう)げに懸(か、)れる雲(くも)は	懶(ものう)げに懸(か、)れる雲(くも)は		9
579 思出(おもひだ)しては務(つと)めて	思出(おもひだ)しては努(つと)めて	107	5
580 如何(どう)せうねえ。」	如何(どう)しませうねえ。」		7
581 お前(まへ)が適(いき)たいといふから	お前(まへ)が適(いき)たいといふから、		11
582 然(さう)いふ都合(つがふ)にしておくれな。	然(さう)いふ都合(つがふ)にして下さいな。	108	9
583 美(うつく)しき目(め)は濕(うるほ)ひたり。	美(うつく)しき目は濕(うるほ)へり。		11
584 其(その)涙(なみだ)を拭(ぬぐ)へる	其(その)涙(なみだ)を拭(ぬぐ)へる	109	1
585 ハンカチーフは	ハンカチーフは		1
586 再(ふた、)び逢(あ)はざらむとする	再(ふた、)び逢(あ)はざらんとする		1
587 自分(じぶん)から適(いき)きたいと	自分(じぶん)から適(いき)きたいと		3
588 然(さ)う何時(いつ)まで	然(さ)う何時迄(いつまで)も		4
589 今(いま)になつて断(ことわ)るといつたつて……………」	今(いま)になつて断(ことわ)ると云つたつて……………」		8
590 「善(い)いわ。	「可(い)いわ。		10
591 私(わたし)は適(ゆ)くことは適(ゆ)くだけけれど、	私(わたし)は適(い)くことは		10
592 情無(なさげ)な)くやつて……………」	情無(なさげ)な)くやつて……………」		11
593 喜(よろこ)ぶことを得(え)ざるなり。	喜(よろこ)ぶを得(え)ざるなり。	110	3
594 慰(なぐさ)めむと試(こ、ろ)みつ。	慰(なぐさ)めんと試(こ、ろ)みつ。		4
595 「御父(おとつ)さんから	「お父(とつ)さんから		6
596 御互(おたがひ)の仕合(しあはせ)と	お互(たがひ)の仕合(しあはせ)と		8
597 逢(あ)はずに行(ゆ)くなんて、	遇(あ)はずに行(ゆ)くなんて、		11
598 矢張(やつぱり)	矢張(やつぱり)		11
599 半(なとば)は聴(き)き、	半(なとば)は聴(き)き、		1
600 七の貳 誰(たれ)をや見出(みいだ)しけむ、	誰(たれ)をや見出(みいだ)しけん、	112	6
601[明30.2.10]五六歩(いつあしむあし)進行(す、みゆ)きしを、	五六歩(いつあしむあし)進行(す、みゆ)きしが、		2
602 「其處(そこ)に御出(おいで)でしたか。」	「其處(そこ)に御出(おいで)でしたか。」		4
603 はい、唯今(だ、いま)し方(がた)	「はい、唯今(だ、いま)し方(がた)		7
604 宮(みや)は其方(そなた)を見向(みむ)きもやらで、	宮(みや)は其方(そなた)を見向(みむ)きもやらで、		10
605 其(その)誰(たれ)なるやを説(と)かずもあらなむ、	其(その)誰(たれ)なるやを説(と)かずもあらなん、	113	1
606 獅子頭(し、がしら)に刻(きざ)みて、	獅子頭(し、がしら)に彫(きざ)みて、		2
607 倨(を)ごり高(たか)ぶることを忘(わす)れざりき。	倨(を)ごり高(たか)ぶるを忘れざりき。		8
608 其(その)張(はり)たる腮(あぎと)とへの字(じ)に	其(その)張(はり)たる腮(あぎと)と、への字(じ)に		8
609 彼(かれ)が尊大(そんたい)の風(ふう)に彫(すく)なからざる光彩(くわうさい)を	彼(かれ)が尊大(そんたい)の風(ふう)に彫(すく)なからざる光彩(くわうさい)を		10
610 賣込(うりこ)む會社(くわいしや)、是(これ)は	賣込(うりこ)む會社(くわいしや)。是(これ)は	114	7
611 明(あす)の朝(あさ)	翌(あす)の朝(あさ)		10
612 宮(みや)は物言(ものい)はむ	宮(みや)は物言(ものい)はん	115	3
613 氣色(けしき)も無(な)くて	氣色(けしき)もなくて		3
614 何(なん)の難(わけ)は無(な)い事(こと)です、	何(なん)の難(わけ)は無(な)い事(こと)です。		8
615 それで無(な)くては	それですらなくて		10
616 實(じつ)は保養(ほやう)にはならん。	實(じつ)は保養(ほやう)には成(な)らん。		10
617 どうせ毎日(まいにち)用(よう)は無(な)いだから、	どうせ毎日(まいにち)用(よう)は無(な)いだから、	116	6
618 遊(あそ)ぶです。船(ふね)は	遊(あそ)ぶです。船(ふね)は		7

619	は、あ、	は、あ。	7
620	七の三 遊(あそ)びに御出下(おいでくだ)さい、ねえ。	遊びにお出下さい、ねえ。	11
621	[明30.2.11]這麼(こんな)若(わか)い、野梅(のうめ)、	這麼(こんな)若(わか)い野梅(のうめ)、	117 3
622	御目(おめ)に	お目に	5
623	懸(か)けたいのでありますね。	懸(か)けたいでありますね。	5
624	何(なに)が所好(すき)ですか、え、。	何(なに)が所好(すき)ですか、え、。	7
625	宮(みや)と語(かた)らむことを	宮と語らんことを	8
626	望(のぞ)めるなり。	望めるなり、	8
627	御發足(おたち)にはなれませんか。	御發足(おたち)にはなりません。	10
628	と云(い)ふ次第(しだい)では無(な)いのでせう、	と云(い)ふ次第(しだい)ではないのでせう、	118 1
629	そんなら一所(いつしょ)に御立(おた)ちなすつたら	そんなら一所(いつしょ)にお立ちなすつたら	1
630	「はい、難有(ありがた)うございますが、	「はい、有難(ありがた)うございますが、	3
631	歸(かへ)ることに致(いた)して御座(ござ)いますものですから、	歸(かへ)ることに致(いた)してございますものですから、	5
632	如何(どう)もな。	如何(どう)もな。」	7
633	獅子頭(し、かしら)を撫廻(なでまは)しつゝ、	獅子頭(し□がしら)を撫廻(なでまは)しつゝ、	8
634	少時(しばらく)思案(しあん)する躰(てい)なりしが、	少時(しばらく)思案(しあん)する體(てい)なりしが、	9
635	ハンカチーフを取出(とりい)だして、	ハンカチーフを取出(とりい)だして、	10
636	其(その)鋭(すど)き匂(にほひ)に	其(その)鋭(すど)き匂(にほひ)に	119 1
637	景色(けしき)が好(い)いさう。	景色(けしき)が好(よ)いさう。	4
638	二時間(にじかん)ばかり	二時間(にじかん)ばかり	5
639	散歩(さんぽ)は極(きは)めて薬(くすり)。	散歩(さんぽ)は極(きは)めて薬(くすり)、	7
640	起(た)たむとす。	立たんとす。	9
641	起(た)たむとす。	立たんとす。	9
642	「はい、難有(ありがた)うございます。	「はい、有難(ありがた)うございます。	10
643	宮(みや)の踟躕(ためら)ふを見(み)て、	宮(みや)の遅(ためら)ふを見て、	11
644	如何(いか)にとも為(せ)む術(すべ)を	如何(いか)にとも為(せ)ん術(すべ)を	120 4
645	知(し)らざるやうに	知らざらんやうに	4
646	己(おのれ)の仇(はした)なきやうに	己(おのれ)の仇(はした)なきやうに	5
647	慙(は)ちたる	慙(は)づる	6
648	なり。	なりけり。	6
649	其(その)仇無(あどな)さの身(み)に	其(その)の仇無(あどな)さの身に	7
650	此(この)仇無(あどな)き、可憐(いと)しらしき、	此(この)の仇無(あどな)き悦(いと)しらしき、	8
651	如何(いか)□ばかり楽(たの)しからむよと、	如何(いか)ばかり楽(たの)しからんよと、	10
652	御許(おゆるし)が出(で)たから、可(い)いではありませんか。	御許(おゆるし)が出(で)たから可(い)いではありませんか、	121 1
653	「お前(まい)お出(いで)かい。	「お前(まい)お出(いで)かい、	4
654	後(おく)れじと笑(わら)へん。	後(おく)れじと笑(わら)へり。	7
655	七の四 「私(わたし)かい。	「私(わたし)かい、	122 4
656	[明30.2.12]之(これ)を防(ふせ)がむと、	之(これ)を防(ふせ)がんと、	6
657	御母(おつか)さんには却(かへ)つて御迷惑(ごめいわく)です。	御母(おつか)さんには、却(かへ)つて御迷惑(ごめいわく)です。	7
658	一寸(ちよつと)其處(そこ)まで、可(い)いから	一寸(ちまつと)其處(そこ)まで、可(い)いから	123 1
659	七八間(けん)彼方(あなた)なる木陰(こかげ)に	七八間(けん)彼方(あなた)なる木蔭(こかげ)に	6
660	様子(やうす)を窺(うかが)へるなり。	様子(やうす)を窺(うかが)ふなるを、	7
661	高等中学(かうとうちゅうがく)の制服(せいふく)の上(うへ)に	高等中学(かうとうちゅうがく)の制服(せいふく)の上(うへ)に	8
662	其(その)驟(にはか)なると近(ちか)きとに	其(その)の驟(にはか)なると近(ちか)きとに	10
663	三人(ふたり)は始(はじ)めて	三人(みたり)は始めて	10
664	学生(がくせい)は帽(ぼう)を取(と)りて、	学生(がくせい)は帽(ぼう)を取りて。	124 1
665	殆(ほと)んど人心地(ひとこゝち)を失(うしな)ひぬ。	殆(ほと)んど人心地(ひとこゝち)を失(うしな)ひぬ。	3
666	あはれ生(いき)てあらむより忽(たちま)ち消(き)えて	あはれ生(いき)てあらんより忽(たちま)ち消(き)えて	5
667	此土(このつち)と成(なり)を(は)らむことの、	此土(このつち)と成(なり)を(は)らんことの、	6
668	唇(くちびる)を喰(く)ひさかむとすばかりに	唇(くちびる)を啖(く)ひさかんとすばかりに	7
669	其(その)殺(ころ)せし人(ひと)の	其(その)の殺(ころ)せし人の	8
670	會(あ)へるが如(ごと)きものならむ。	會(あ)へるが如(ごと)きものならん。	9
671	彼(かれ)の目(め)に触(ふ)れざらむやうにと	彼の目(め)に触(ふ)れざらんやうにと	125 1
672	木陰(こかげ)に身(み)を側(そば)めて、	木蔭(こかげ)に身(み)を側(そば)めて、	2
673	ハンカチーフに口元(くちもと)を掩(おほ)ひて、	ハンカチーフに口元(くちもと)を掩(おほ)ひて、	3
674	又(また)唯繼(たゞつぐ)の氣色(けしき)とも	又(また)唯繼(たゞつぐ)の氣色(けしき)をも	5
675	彼等(かれら)の心々(こゝろ)に	彼等(かれら)の心々(こゝろ)に	6
676	後(のち)にぞ犇(ひし)と言(い)はむ、	後にぞ犇(ひし)と言(い)はん、	11
677	やう〜鎮(しづ)めて、	やう〜鎮(しづ)めて、	126 1
678	ハンカチーフを咬緊(かみし)めたり。	ハンカチーフを咬緊(かみし)めたり。	4
679	「あ、大(おほ)きに良(よ)いので、	「あ、大(おほ)きに良(よ)いので、	5
680	七の五 母親(は、おや)の絶體絶命(ぜつたいぜつめい)は、	母親(は、おや)の絶體絶命(ぜつたいぜつめい)は、	10
681	[明30.2.15]沈(しづ)みも果(は)てず、	沈(しづ)みも果(は)てず、	11

682	其(そ)の免(のが)るまじきを知(し)りて、	其(そ)の免(まぬが)るまじきを知りて、	127	3
683	「は、あ。それでは	「は、あ、それでは		9
684	「はい、話(はなし)の模様(もやう)に	はい、話(はなし)の模様(もやう)に		11
685	歸(かへ)つてお待(まち)申(まを)して居(ゐ)ますから、	歸(かへ)つてお待(まち)申(まを)して居(ゐ)ますから、	128	3
686	彼(かれ)は行(ゆ)かむとして、	彼(かれ)は行(ゆ)かんとして、		6
687	宮(みや)の傍(そば)近(ちか)く寄(よ)りきて、	宮(みや)の傍(そば)近(ちか)く寄(よ)りきて。		6
688	貫一(くわんいち)は瞬(また)きも為(せ)で	貫一(くわんいち)は瞬(また)きも為(せ)で		8
689	舌(した)忘(わす)れたるきまでに語(ことば)を和(やはら)げて、	舌(した)忘(わす)れたるきまでに語(ことば)を和(やはら)げて。	10	
690	必(かなら)ず然(さ)あるべきを想(おも)ひて	必(かなら)ず然(さ)あるべきを想(おも)ひて	129	3
691	如何(いか)なることを言(い)ひて	如何(いか)なることを言(い)ひて		5
692	幾許(いかに)ばかりの幸(さいは)ひなりけむ、	幾許(いかに)ばかりの幸(さいは)ひなりけん、		6
693	半點(はんてん)の疑(うたが)ひをも容(い)れず、	半點(はんてん)の疑(うたが)ひをも容(い)れず、		7
694	可憐(いと)しき宮(みや)に心(こゝろ)を遣(こ)して	婉(いと)しき宮(みや)に心(こゝろ)を遣(こ)して		7
695	其後(そのご)影(かげ)を	其後(そのご)影(かげ)を		9
696	血(ち)の色(いろ)を失(う)しなへる面上(おもて)に、	血(ち)の色(いろ)を失(う)しなへる面上(おもて)に	130	2
697	多(おほ)からむとすれども	多(おほ)からむとすれども		2
698	此躰(このてい)を見(み)て	此體(このてい)を見て		6
699	「あ、そんなら可(よ)いけれど。	「あ、そんなら可(い)いけれど。	131	2
700	未(まだ)御(ご)午(ご)餐(さん)前(まへ)おひるまへなのでせう。」	未(まだ)御(ご)午(ご)餐(さん)前(まへ)おひるまへなのでせう。」		6
701	外套(オヴアコート)の肩(かた)を拂(はら)はれて、	外套(オヴアコート)の肩(かた)を拂(はら)はれて、		8
702	八(や)の壹(いち)打(うち)霞(かすみ)みたる空(そら)ながら、	打(うち)霞(かすみ)みたる空(そら)ながら、	132	2
703	[明30.2.16]月(つき)の色(いろ)は勾(か)滴(てつ)にほひこぼる、やうにて、	月(つき)の色(いろ)は勾(か)滴(てつ)にほひこぼる、やうにて		2
704	微(ほ)白(しろ)き海(うみ)は縹(へうべう)として眼(かざり)を知(し)らず、	微(ほ)白(しろ)き海(うみ)は縹(へうべう)として眼(かざり)を知(し)らず、		3
705	人(ひと)を酔(よ)はしめむとす。	人(ひと)を酔(よ)はしめんとす。		5
706	打(うち)連(つ)れて此(こ)濱(なまべ)を	打(うち)連(つ)れて此(こ)濱(なまべ)を		5
707	貫一(くわんいち)と宮(みや)なりけり。	貫一(くわんいち)と宮(みや)なりけり。		6
708	今(いま)更(さら)誤(あやま)ることは無(な)いよ、	今(いま)更(さら)誤(あやま)ることは無(な)いよ。	10	
709	一(いつ)体(たい)今(いま)度(ど)の事(こと)は	一(いつ)體(いつたい)今(いま)度(ど)の事(こと)は	10	
710	翁(おきな)さん(を)恨(うら)むである。	翁(おきな)さん(を)恨(うら)むである。	134	4
711	遠(と)く烟(け)むり、	遠(と)く烟(け)むり、	135	2
712	二人(ふたり)の姿(すがた)は	二人(ふたり)の姿(すがた)は		4
713	昨夜(ゆふべ)は夜(よ)一(いつ)夜(よ)寐(ね)はしない。	昨夜(ゆふべ)は夜(よ)一(いつ)夜(よ)寐(ね)はしない、	136	3
714	種々(いろいろ)言(い)はれる為(ため)に	種々(いろ〜)言(い)はれる為(ため)に		4
715	八(や)の二(に)「お、其(それ)ばかりは？」	「お、其(それ)ばかりは？」	137	6
716	[明30.2.17]尻(しり)目(め)に挂(か)けて、	尻(しり)目(め)に挂(か)けて。		9
717	知(し)つてゐるのかい。	知(し)つてゐるのかい、		10
718	宮(みい)さん、是(これ)が	宮(みい)さん。是(これ)が		10
719	……………貫一(くわんいち)は……………貫一(くわんいち)は、	……………貫一(くわんいち)は……………貫一(くわんいち)は	138	1
720	此(こ)地(ち)のちへ來(く)るに就(つ)いて	此(こ)地(ち)のちへ來(く)るに就(つ)いて		3
721	正(しやう)體(たい)も無(な)く泣(な)顔(が)づれつゝ、	正(しやう)體(たい)も無(な)く泣(な)顔(が)づれつゝ、		11
722	寄(よ)らむとするを	寄(よ)らんとするを		11
723	「操(みさ)を破(やぶ)れば	「操(みさ)を破(やぶ)れば	139	2
724	歴(れき)とした夫(をと)を(も)ちながら、其(その)を(つと)を	歴(れき)とした夫(をと)を(も)ちながら、其(その)を(つと)を		5
725	命(いのち)までも己(おのれ)の欲(ほつ)する儘(ま)ならむことを	命(いのち)までも己(おのれ)の欲(ほつ)する儘(ま)ならんことを	140	4
726	設(よ)し信(しん)ぜざりけむも、	設(よ)し信(しん)ぜざりけんも、		5
727	心(こ)陰(いん)こゝろひそかに望(のぞ)みたりしならむ。	心(こ)陰(いん)こゝろひそかに望(のぞ)みたりしならん。		6
728	此(こ)熱(ねつ)騰(とう)このねつちやうを冷(さ)まさんとも思(おも)へり。	此(こ)熱(ねつ)騰(とう)このねつちやうを冷(さ)まさんとも思(おも)へり。	141	1
729	頭(づな)腦(のう)の裂(さ)けむとするを覺(おぼ)えて、	頭(づな)腦(のう)の裂(さ)けんとするを覺(おぼ)えて、		2
730	胸(むね)の響(ひび)きを傳(つた)へぬ。	胸(むね)の響(ひび)きを傳(つた)ふ。		7
731	宮(みや)は彼(かれ)の背(せ)後(ご)より	宮(みや)は彼の背(せ)後(ご)より		7
732	顫(おの)く聲(こゑ)を励(はげ)ませば、	戰(をの)く聲(こゑ)を励(はげ)ませば、		7
733	更(さら)に顫(おの)きぬ。	更(さら)に戰(をの)きぬ。		8
734	いと懇(ねむ)むごろに拭(ぬぐ)ひたり。	いと懇(ねむ)むごろに拭(ぬぐ)ひたり。		11
735	八(や)の三(さん)「呼(あ)、宮(みい)さん、恚(かう)して	「呼(あ)、宮(みい)さん恚(かう)して	142	1
736	[明30.2.18]介(かい)抱(ほう)をしてくれるのも今夜(こんや)限(ぎり)り、	介(かい)抱(ほう)をしてくれるのも今夜(こんや)限(ぎり)り、		2
737	必(かなら)ず月(つき)は曇(くも)らして見(み)せるから。	必(かなら)ず月(つき)は曇(くも)らして見(み)せるから、		9
738	お前(まへ)を恨(うら)むで	お前(まへ)を恨(うら)んで、		10
739	お前(まへ)を恨(うら)むで	お前(まへ)を恨(うら)んで、		10
740	言(い)ひたい事(こと)は澤(たく)山(さん)あるのだけれど、	言(い)ひたい事(こと)が澤(たく)山(さん)あるのだけれど、	143	5
741	餘(あんな)り言(い)ひにく(にく)い事(こと)ばかりだから、	餘(あんな)り言(い)ひにく(にく)い事(こと)ばかりだから、		5
742	「だから私(わたし)は	「だから、私(わたし)は	144	1
743	もう少(すこ)し辛(しん)抱(ほう)して其(それ)を――	最(も)少(すこ)し辛(しん)抱(ほう)して其(それ)を――		1
744	狼(ろう)狽(た)へて行(く)だらむことを言(い)ふな。	狼(ろう)狽(た)へて行(く)だらんことを言(い)ふな。		4

745	身(み)を賣(う)らなければならんのぢや無(な)し、	身を賣(う)らなければならんのぢやなし、	5
746	何(なに)を苦(くる)しむで嫁(よめ)に歸(ゆ)くのだ。	何を苦(くる)しんで嫁(よめ)に歸(ゆ)くのだ。	5
747	而(さう)して婿(むこ)まで極(きま)つてゐるのぢやないか。	而(さう)して婿(むこ)まで極(きま)つてゐるのぢやないか。	7
748	其婿(そのむこ)は四五年(ねん)の後(のち)には	其婿(そのむこ)も四五年の後には	7
749	其婿(そのむこ)を生涯(しやうがい)忘(わす)れられないほどに	其婿(そのむこ)を生涯(しやうがい)忘(わす)れられないほどに	9
750	婿(むこ)が不足(ふそく)なのか、	婿(むこ)が不足(ふそく)なのか、	145 4
751	「それぢや婿(むこ)が不足(ふそく)なのだね。」	「それぢや婿(むこ)が不足(ふそく)なのだね。」	10
752	それは餘(あんま)りだわ。	それは餘(あんま)りだわ、	11
753	「婿(むこ)に不足(ふそく)は無い？」	「婿(むこ)に不足(ふそく)は無い？」	146 2
754	富山(とみやま)は財(かね)があるからか。	富山(とみやま)は財(かね)があるからか、	2
755	して見(み)れば此結婚(このけつこん)は	して見ると此結婚(このけつこん)は	3
756	僕(ぼく)の考(かむがへ)で	僕の考(かむがへ)で	6
757	幾許(いくら)もある、	幾許(いくら)もある。	6
758	打壊(ぶちこは)して了(しま)ふことは出来(でき)る。	打壊(ぶちこは)して了(しま)ふことは出来る、	8
759	思悩(おもひなや)める宮(みや)の顔(かほ)を	思悩(おもひなや)める宮(みや)が顔を	11
760	八(や)の四(よ)口(くち)を開(ひら)かざらむかと打案(うちあん)じつ、も、	口を開(ひら)かざらんかと打按(うちあん)じつ、も、	147 4
761	[明30.2.20]彼(かれ)は乱(みだ)る、胸(むね)を寛(ゆる)うせむが為(ため)に、	彼は乱(みだ)る、胸(むね)を寛(ゆる)うせんが為(ため)に、	5
762	仍(なほ)得堪(えた)へずやありけむ、	仍(なほ)得堪(えた)へずやありけん、	6
763	又(また)言(い)はむとして顧(かへりみ)れば、	又(また)言(い)はんとして顧(かへりみ)れば、	7
764	風(かぜ)に吹(ふ)かれて、	風に吹(ふ)かれて、	9
765	立迷(たちまよ)へるに、	立ち迷(まよ)へるに、	10
766	宮(みや)と互(たがひ)に知(し)らで行合(ゆきあ)ひたり。	宮(みや)と互(たがひ)に知らで行合(ゆきあ)ひたり。	148 5
767	お前(まへ)は些(ち)とも泣(な)くことは無(な)いぢやないか。	お前は些(ち)つとも泣(な)くことは無いぢやないか。	6
768	空涙(そらなみだ)！」	空涙(そらなみだ)！」	7
769	お前(まへ)それで自分(じぶん)に愛想(あいそ)は盡(つ)きないかい。	お前はそれで自分(じぶん)に愛想(あいそ)は盡(つ)きないかい。	149 2
770	見(み)るが可(いい)、無念(むねん)と謂(い)はうか、	見るが可(いい)、無念(むねん)と謂(い)はうか、	5
771	それを恠(こら)へて、お前(まへ)を	それを恠(こら)へてお前(まへ)を	7
772	一躰(いつたい)貫(くわん)一(くわん)いち)は	一體(たい)貫(くわん)一(くわん)いち)は	11
773	厄介者(やくかいもの)の居候(ゐさふらふ)でも、	厄介者(やくかいもの)の居候(ゐさふらふ)でも、	150 1
774	お前(まへ)の男妾(をとこめかけ)になつた覺(おぼえ)は無(な)いよ。	お前の男妾(をとこめかけ)になつた覺(おぼえ)は無(な)いよ、	2
775	富山(とみやま)如(ごと)き百人寄(にんよ)つても	富山(とみやま)如(ごと)き百人寄(にんよ)つても	151 4
776	愛(あい)することは出来(でき)まい。	愛(あい)するとは出来(でき)まい、	5
777	此愛情(このあいじやう)で争(あ)らそつて見(み)せる。	此(こ)の愛情(あいじやう)で争(あ)らそつて見(み)せる。	6
778	此愛情(このあいじやう)の力(ちから)、	此(こ)の愛情(あいじやう)の力(ちから)、	7
779	己(おのれ)の身(み)に換(か)へて	己(おのれ)の身に換(か)へて	9
780	無理(むり)も無(な)いだろう、からして僕(ぼく)は其(それ)は答(とが)めまい。	無理(むり)も無いだろう、からして僕(ぼく)は其(それ)は答(とが)めない。	152 6
781	善(よ)く考(かむがへ)て御覽(ごらん)な、其(その)財(かね)が——	善(よ)く考(かむがへ)て御覽(ごらん)な、其(その)財(かね)が——	6
782	あるのかと云(い)ふことを。」	あるのかと謂(い)ふことを。」	8
783	あるのかと云(い)ふことを。」	あるのかと謂(い)ふことを。」	8
784	八(や)の五(ご)一度(いちど)に一俵(いつべう)食(く)へるものぢやない。	一度(ど)に一俵(いつべう)食(く)へるものぢやない、	10
785	[明30.2.21]十粒(じゅうりゅう)か二十粒(にじゅうりゅう)の米(こめ)に	十粒(とじゅうりゅう)か二十粒(にじゅうりゅう)の米(こめ)に	11
786	お前(まへ)に餛(ひもじ)い思(おも)ひを為(さ)せるやうな	お前に餛(ひもじ)い思(おも)ひを為(さ)せるやうな、	153 1
787	其(その)十粒(じゅうりゅう)か二十粒(にじゅうりゅう)の工面(くめん)が	其(その)十粒(じゅうりゅう)か二十粒(にじゅうりゅう)の工面(くめん)が	2
788	栄曜(ええう)も出来(でき)やうし、	栄曜(ええう)も出来(でき)やうし、	7
789	栄曜(ええう)が何(なん)だ!	栄曜(ええう)が何(なん)だ!	11
790	馬車(ばしや)へ乗(の)つて	馬車(ばしや)に乗(の)つて	11
791	人出入(ひとでいり)も劇(はげ)し、	人出入(ひとでいり)も、劇(はげ)し、	154 3
792	何(なに)を楽(たの)しみに生(い)きてゐるのだ。	何を楽(たの)しみに生(い)きてゐるのだ。	6
793	十粒(じゅうりゅう)か二十粒(にじゅうりゅう)に過(す)ぎんのぢやないか。	十粒(とじゅうりゅう)か二十粒(にじゅうりゅう)に過(す)ぎんのぢやないか。	8
794	設(よし)むば那(あ)の財産(ざいさん)が	設(よし)むば那(あ)の財産(ざいさん)が	9
795	お前(まへ)の自由(じゆう)になるとした所(ところ)で、	お前の自由(じゆう)になるとした所で、	10
796	其夫(そのをつと)が寶(たから)と為(す)るに足(たり)らんものであつたら、	其夫(そのをつと)が寶(たから)と為(す)るに足(たり)らんものであつたら、	155 4
797	好(す)きな真似(まね)が出来(でき)る、	好(す)きな真似(まね)も出来る、	156 3
798	那(あ)の富山(とみやま)の財産(ざいさん)が	那(あ)の富山(とみやま)の財産(ざいさん)が	5
799	猶且(やつぱり)可哀(かあい)さうでならんから、	猶且(やつぱり)可哀(かあい)さうでならんから、	10
800	究竟(つまり)自他(じた)の後悔(こうくわい)だよ、	究竟(つまり)自他(じた)の後悔(こうくわい)だよ。	157 5
801	此場(このば)のお前(まへ)の分別(ふんべつ)一つで、お前(まへ)の	此場(このば)のお前(まへ)の分別(ふんべつ)一つで、お前(まへ)の	5
802	最(もう)一度(いちど)分別(ふんべつ)を為(な)しなほしてくれないか。	もう一度(いちど)分別(ふんべつ)を為(な)しなほしてくれないか。	7
803	二人(ふたり)は幸福(かうふく)ではないか。	二人(ふたり)は幸福(かうふく)ではないか、	10
804	富山(とみやま)の財産(ざいさん)などを可羨(うらやまし)いとは	富山(とみやま)の財産(ざいさん)などを可羨(うらやまし)いとは	11
805	彼(かれ)は危(あやう)きを拯(すく)はむとする如(ごと)く	彼は危(あやう)きを拯(すく)はんとする如(ごと)く	158 3
806	八(や)の六(ろく)それ聞(き)かして下(くだ)さいな。」	それを聞(き)かして下(くだ)さいな。」	8
807	[明30.2.23]「それぢや断然(いよゝ)お前(まへ)は嫁(ゆ)く氣(き)だね!	「それぢや断然(いよゝ)お前(まへ)は嫁(ゆ)く氣(き)だね!	10

808	学問(がくもん)も何(なに)ももう廃(やめ)だ、	学問(がくもん)も何(なに)ももう廃(やめ)だ。	159	8
809	生(い)きながら悪魔(あくま)となつて、	生きながら悪魔(あくま)になつて、		9
810	其顔拳(そのかはあ)げて、	其顔を拳(あ)げて、		11
811	一目(め)會(あ)つて	一目(ひとめ)會(あ)つて	160	2
812	子細(しさい)あつて貫一(くわんいち)は	仔細(しさい)あつて貫一(くわんいち)は		3
813	一月十七日の晩(ばん)氣(き)が違(ちが)つて、	一月十七日の晩(ばん)に氣(き)が違(ちが)つて、		7
814	立(た)たむと為(す)れば	立(た)たんと為(す)れば		9
815	貫一(くわんいち)の脚(あし)に紐(すが)りつき、	貫一(くわんいち)の脚(あし)に紐(すが)りつき、		10
816	聲(こえ)を涙(なみだ)と争(あそ)ひて、	聲(こえ)と涙(なみだ)と争(あそ)ひて、		10
817	貴方(あなた)是(これ)から何(ど)………何處(どこ)へ	貴方(あなた)是(これ)から何(ど)………何處(どこ)へ	161	1
818	宮(みや)の衣(きぬ)の披(はだ)けて	宮(みや)が衣(きぬ)の披(はだ)けて		3
819	夥(おびたゞ)しく血(ち)に染(そ)みて顫(ふる)へるなり。	夥(おびたゞ)しく血(ち)に染(そ)みて顫(ふる)ふなりき。		4
820	寄(よ)らむとするを宮(みや)は支(さ)へて、	寄(よ)らんとするを宮(みや)は支(さ)へて、		6
821	「え、這麼(こんな)事(こと)は	「え、這麼(こんな)事(こと)は		7
822	「私(わたし)は放(はな)さない！」	「私(わたし)は放(はな)さない。」	162	2
823	幾度(いくたび)か仆(たふ)れむとしつゝも	幾度(いくたび)か仆(たふ)れんとしつゝも		8
824	後(あと)を追(お)ひて、	後(あと)を慕(した)ひて、		8
825	遂(つひ)に倒(たふ)れたる宮(みや)は	遂(つひ)に倒(たふ)れし宮(みや)は		11
826	貫一(くわんいち)の影(かげ)の一散(いつさん)に	貫一(くわんいち)の影(かげ)の一散(いつさん)に	163	1
827	宮(みや)は身悶(みもだ)いして	宮(みや)は身悶(みもだ)へして		2
828	旋(やが)て其黒(そのくろ)き影(かげ)の	旋(やが)て其の黒(くろ)き影(かげ)の		2
829	此方(こなた)を目成(まも)れるならむと、	此方(こなた)を目成(まも)れるならんと、		3
830	宮(みや)は聲(こゑ)の限(かぎり)に呼(よ)べば、	宮(みや)は聲(こゑ)の限(かぎり)に呼(よ)べば、		4
831	男(おとこ)の聲(こゑ)は遥(はるか)に來(きた)りぬ。	男(おとこ)の聲(こゑ)は遥(はるか)に來(きた)りぬ。		4
832	目(め)を瞪(み)はりて眺(なが)むれども、	目(め)を瞪(み)はりて眺(なが)むれども、		7

読賣新聞初出本文・春陽堂初版本文 対校表 (中編)

読賣新聞初出本文	春陽堂初版本文	頁	行
1 (一) 新橋停車場(しんばしステーション)の	新橋停車場(しんばステーション)の	1	4
2 [明30.9.5] 烟(けむり)を	烟(けふり)を		5
3 噴(ふ)かせつゝ、	噴(ふか)せつゝ、		5
4 横(よこた)はりたるが、	横(よこた)はりたるが、		6
5 燃(も)えむとすばかりに	燃(も)えんとすばかりに		7
6 右往(うわう)	右往(うわう)		7
7 左往(さわう)に	左往(さわう)に		7
8 老(ら□)	老(らう)		8
9 歐羅巴人(イワローブじん)は	歐羅巴(エウロッパ)人は		8
10 麥酒樽(ビールだる)を	麥酒樽(ビールたる)を		9
11 麥酒樽(ビールだる)を	麥酒樽(ビールたる)を		9
12 腹突出(はらつきだ)して、	腹突出(はらつきいだ)して、		9
13 後(おく)れじと	遅(おく)れじと		12
14 所体類(しよたいくづ)して	所體類(しよたいくづ)して		12
15 崇高(かさだか)なる	嵩高(かさたか)なる		13
16 風呂敷包(ふろしきづ、み)を	風呂敷包(ふろしきつ、み)を		13
17 何處(いづこ)の扉(とびら)も	何處(どこ)の扉(とびら)も	2	1
18 安心(あんしん)の地(ち)を得(え)し間(ま)も無(な)く、	安堵(あんど)せる間(ま)も無(な)く、		2
19 往(ゆ)きつ復(もと)りつせし揚句(あげく)	往(ゆ)きつ復(もと)りつせし揚句(あげく)、		3
20 若(わか)き紳士(しんし)は	若(わか)き紳士等(しんしらは)		7
21 他(た)は皆(み)な横濱迄(よこはままで)とも	他(た)は皆横濱迄(よこはままで)とも		8
22 見(み)ゆる服装(いでたち)にて、	見ゆる扮装(いでたち)にて、		9
23 着(き)たるもあれば	着たるもあれば、		9
24 フロツクコートを着(き)て、	フロツクコートを着(き)て、		11
25 網棚(あみだな)の上(うへ)に	網棚(あみたな)の上に		12
26 停車場(ステーション)の	停車場(ステーション)の		13
27 方(かた)をば	方(かた)をば、		13
28 晩霽(ばんせい)の空(そら)を打仰(うちあふ)ぎて、	晩霽(ばんせい)の空(そら)を仰(あふ)ぎて、	3	1
29 好(いい)天氣(てんき)に成(な)つたなあ。	好(いい)天氣(てんき)に成(な)つた、なあ。		2
30 此(こ)の分(ぶん)なら	此分(このぶん)なら		2
31 大丈夫(だいぢやうぶ)だ。」	大丈夫(だいぢやうぶ)じや。」		2
32 ねえ甘糟(あまかす)。」	ねえ、甘糟(あまかす)。」		3
33 答(こた)ふるに先(さきだ)ちて	答(こた)ふるに先(さきだ)ちて、		7
34 丁(ちやう)と洞察(どうさつ)して居(を)るのだ。」	丁(ちやん)と洞察(どうさつ)して居(を)るのだ。」		10
35 「これは憚様(はゞかりさま)です。」	「これは憚様(はゞかりさま)です。」		12
36 「何(なん)だい、	「何(なん)じやい、	4	6
37 何(なん)だい!	何(なん)じやい!		6
38 此(こ)の二人(ふたり)に	此の二人(ふたり)に		6
39 僕(ぼく)は四人(よにん)の爲(ため)に賣(う)られたのだ。	僕は四人の爲に賣(う)られたんじや。		7
40 是非(ぜひ)濱迄(はま、で)見送(みおく)ると云(い)うで、	是非(ぜひ)濱(はま)迄見送(みおく)ると言(い)うで、		8
41 氣(き)の毒(どく)なと思(おも)つて	氣(き)の毒(どく)なと思(おも)うて		8
42 其方(そのほう)は	其の方(ほう)は		10
43 勉強(べんきやう)した	勉強(べんきやう)しをつた		10
44 君達(きみたち)の事(こと)だから、	君達の事(こと)ぢやから、		10
45 肩書(かたがき)を辱(はづか)しめん限(かぎり)は	肩書(かたがき)を辱(はづかし)めん限(かぎり)は		11
46 注意(ちゆうい)はしたまへよ、本當(ほんた)に。」	注意(ちゆうい)はしたまへよ、本當(ほんたう)に。」		12
47 此(こ)の老實(らうじつ)の言(げん)を作(な)すは、	此の老實(らうじつ)の言(げん)を作(な)すは、		13
48 今(いま)は四年(よとせ)の	今は四年(よいせ)の		13
49 間貫(はざまくわん)一(いち)が	間貫一(はざまくわんいち)が		13
50 深慮(しんりよ)と篤義(とくぎ)との	深慮(しんりよ)と誠實(せいじつ)との	5	3
51 故(ゆゑ)を以(もつ)て、他(た)の	故(ゆゑ)を以(もつ)て、彼(か)は他(た)の		4
52 意見(いけん)の言納(いひをさめ)だ。	意見(いけん)の言納(いひをさめ)じや。		5
53 急駛(きふし)せる車(くるま)の逆風(むかふかぜ)に	急駛(きふし)せる車の逆風(むかひかぜ)に		8
54 (壹)の二「いや、	「いや		11
55 [明30.9.6] 然(さ)う言(い)はれると	然(さ)う言(い)はれると		11
56 慄然(ぞつ)とするよ。	慄然(ぞつ)とするよ、		11
57 實(じつ)は先之(さつき)	實(じつ)は嚮(さつき)		11
58 停車場(ステーション)で	停車場(ステーション)で		11

59	「美人(びじん)クリイム」	「美人(びじ)クリイム」	11
60	高利貸(かうりかし)を戯稱(ぎしやう)せるなり	高利貸(かうりかし)を戯稱(きしやう)せるなり	12
61	蜥蜴(とかげ)くらふかと	蜥蜴(とかげ)啖(くら)ふかと	13
62	思(おも)ふね。	思ふね、	13
63	今日(けふ)は艶粧(めか)して居(を)つたが、	今日(けふ)は治(めか)して居つたが、	6 1
64	那奴(あいつ)に絞(しば)られちや	那奴(あいつ)に搾(しば)られちや	2
65	「見(み)たかつたね、其(それ)は。	「見たかつたね、それは。	4
66	大鳥袖(おほしまつむぎ)の猶(なほ)續(つゞ)けむとするを	大鳥袖(つむぎ)の猶(なほ)續(つゞ)けんとするを	5
67	其奴(そいつ)が	其奴(そいつ)か	6
68	好(い)い女(をんな)ださうだね。金(きん)の	好(い)い女(だ)さうだね、黄金(きん)の	7
69	禪(ふんどし)を緊(し)めて掛(か)かるが可(い)いぜ。」	禪(ふんどし)を緊(し)めて掛(か)るが可(い)いぜ。」	11
70	尻押(しりおし)が有(あ)るのだらう。	尻押(しりおし)が有(あ)るのだらう。	12
71	卒然問(そつぜん)とひを	卒然(そつぜん)として此の間(とひ)を	7 1
72	發(はつ)せり。	發(はつ)せるなり。	1
73	此奴(こいつ)が	此奴(こいつ)が、	3
74	君(きみ)	君、	3
75	我々(われ々)の一世紀前(いつせいきまへ)に	我々(われ々)の一世紀前(いつせいきぜん)に	3
76	いや、無法(むはふ)な強慾(がうよく)で、	いや無法(むはふ)な強慾(がうよく)で、	4
77	相触(あひふ)れたので、	相触(あひふ)れたので	6
78	得意(とくい)の謔浪(まぜかへし)に	得意(とくい)の謔浪(まぜかへし)に、	7
79	已(や)むを得(え)ざらむやうに	已(や)むを得(え)ざらんやうに	8
80	破顔(はがん)せるなり。	破顔(はがん)しつ。	8
81	「美人(びじん)クリイム」	「美人(びじ)クリイム」	11
82	是(これ)も其手(そのて)に罹(かゝ)つたので、	是(これ)も其手に罹(かゝ)つたので、	11
83	貧乏士族(びんぼふしぞく)の娘(むすめ)で、	貧乏士族(びんぼふしぞく)の娘(むすめ)で	12
84	何(なに)とも言(い)はずに後(あと)から	何(なに)とも言(い)はずに、後(あと)から	8 1
85	困(こま)るから半月(はんつき)ばかり	困(こま)るから、半月(はんつき)ばかり	3
86	仲働(なかばたらき)に娘(むすめ)を	仲働(なかばたらき)に	3
87	よしむば	縦(よ)んば	4
88	奴(やつ)の胸中(きょうちゆう)が	奴(やつ)の胸中(きょうちゆう)が	4
89	断(ことわり)かねる人情(にんじやう)だらう。	辞(ことわり)かねる人情(にんじやう)だらう。	4
90	娘(むすめ)が十九(じゅう)の年(とし)、	娘(むすめ)が十九(じゅう)の年(とし)	5
91	老猾(おやち)は六十(むそ)ばかりの	老猾(おやち)は六十(むそ)約(ばかり)の	5
92	そこで内(うち)へ引張(ひつぱ)つて來(き)て	因(そこ)で内(うち)へ引張(ひつぱ)つて來(き)て	6
93	居(を)つたのだ。	居(を)つたのだが、	8
94	其内(そのうち)に不知娘(いつかむすめ)は	其内(そのうち)にいつか娘(むすめ)は	8
95	妾同様(めかけどうやう)になつて了(しま)つたのは	妾同様(めかけどうやう)になつたのは	9
96	如何(どう)だい!	奈何(どう)だい!	9
97	思(おも)ふ所(ところ)あるが如(ごと)く打額(うちうなづ)きて、	思(おも)ふ所(ところ)ありげに打額(うちうなづ)きて、	10
98	那樣(そんな)ものだよ。」	那樣(そんな)ものじやて。」	11
99	其面(そのおもて)を振仰(ふりあふ)ぎつゝ、	其面(そのおもて)を振仰(ふりあふ)ぎつゝ、	12
100	「何故(なぜ)かい。」	「何為(なぜ)かい。」	9 2
101	速力(そくりよく)を加(く)はへたり。	速力(そくりよく)を加(く)はへぬ。	3
102	風(かぜ)「さあ順(じゆん)に	風(かぜ)「さあ、御順(ごじゆん)に	5
103	吭(のど)が渴(かわ)いた。	喉(のど)が渴(かわ)いた。	6
104	是(これ)からが	これからが	6
105	好(い)い菓(たばこ)を吃(す)つて	好(い)い菓(たばこ)を吃(す)つて	9
106	「そら、御出(おいで)だ。	「そら、お出(いで)だ。	12
107	「一寸(ちよつと)点(つ)けてくれ。」	「些(ちよつと)と點(つ)けてくれ。」	10 1
108	「一寸(ちよつと)点(つ)けてくれ。」	「些(ちよつと)と點(つ)けてくれ。」	1
109	(壹)の三 ハツナの紫(むらさき)を吹(ふ)きて、	ハツナの紫(むらさき)を吹(ふ)きて、	2
110	[明30.9.7]徐(しづか)に語(ことば)を繼(つ)ぐ。	徐(おもむろ)に語(ことば)を繼(つ)ぐ、	2
111	壓(あつ)して、娘(むすめ)の	壓(あつ)してからに、娘(むすめ)の	4
112	様子(やうす)が知(し)れたもので、	様子(やうす)が知(し)れた者(もの)で、	7
113	騷(さわぎ)になつた。	騷(さわぎ)になつたね。	8
114	するとね、禿(はげ)の	すると禿(はげ)の	8
115	するとね、禿(はげ)の	すると禿(はげ)の	8
116	それで逢(あ)つて見(み)ると、	それで逢(あ)つて見(み)ると	10
117	娘(むすめ)も	娘(むすめ)も、	10
118	阿父(おとつ)さん	阿父(おとつ)さん、	10
119	不服(ふふく)だ。けれども天魔(てんま)に	不服(ふふく)だ。けれども、天魔(てんま)に	12
120	魅入(みい)られたもの	魅入(みい)られたもの	12
121	唯一人(たつたひとり)の娘(むすめ)を	唯(たゞ)一人(ひとり)の娘(むすめ)を	12

122	十歳許(とをばかり)も	十歳約(とをばかり)も	13
123	老爺(おやぢ)の	老漢(おやぢ)の	13
124	見(み)て居(ゐ)る内(うち)に、不知(いつか)	見て居る内に、いつか	11 4
125	此(この)商賣(しやうばい)が	此の商賣(しやうばい)が	4
126	此身代(このしんだい)我物(わがもの)と	此の身代(しんだい)我物(わがもの)と	5
127	金錢(かね)の方(ほう)が大事(だいじ)といふ	金錢(かね)の方(ほう)が大事(だいじ)、といふ	6
128	不敵(ふてき)な了簡(れうけん)が	不敵(ふてき)な了簡(りようけん)が	6
129	吞込(のみこ)むで、	吞込(のみこ)んで、	9
130	中氣(ちゆうき)が出(で)て、未(いま)だに	中氣(ちゆうき)が出て未(いま)だに	12
131	其前年(そのぜんねん)かに	其の前年(ぜんねん)かに	13
132	其上(そのうえ)で	其の上で	12 2
133	往生(わうじやう)したと云(い)ふ位(くらゐ)の	往生(わうじやう)したと云(い)ふくらゐの	2
134	云(い)つても	云(い)つても、	3
135	如何(どう)	何(どう)	3
136	いふのだから	云(い)ふのだから	3
137	餘(あまり)氣(き)が知(し)れんぢやないかな——	餘り氣(き)が知れんぢやないかな——	3
138	其通(そのとほり)の病人(びやうにん)だから、	其の通(とほり)の病人(びやうにん)だから、	5
139	益(ます)〜盛(さかん)に	益(ます)す盛(さかん)に	5
140	「美人(びじん)クリイム」	「美人(びじん)クリイム」	6
141	細(ほそ)い聲(こゑ)をして、物柔(ものやはらか)に、	細い聲(こゑ)をして物柔(ものやはらか)に、	8
142	書替(かきかへ)だの、振出(ふりだ)し手形(てがた)に	書替(かきかへ)だの、手形(てがた)に	10
143	巧妙(こうめう)な具合(ぐあひ)と來(き)たら、	巧妙(かうめう)な具合(ぐあひ)と來(き)たら、	11
144	美人(びじん)が妙(めう)。	美人(びじん)が妙(めう)！	13
145	「では	「では、	13 4
146	今(いま)は其(その)	今は其の	4
147	禿顛(はげあたま)は	禿顛(はげ)は	4
148	中風(ちゆうふう)で	中風(ちゆうふう)で	4
149	寐(ね)たつきり	寐(ね)たつきり	4
150	なのだね。	なのだね、	4
151	何(なに)か虫(むし)があるだらう。	何か虫(むし)かあるだらう。	5
152	神妙(しんめう)にして居(を)るものか。	神妙(しんめう)にして居るものか、	6
153	然(しか)し、壯(さかん)な女(おんな)だな。」	然(しか)し、壯(さかん)な女(おんな)だな。」	7
154	後(うしろ)に靠(もた)れつゝ、	後様(うしろさま)に靠(もた)れつゝ、	9
155	一判(いつぱん)取交(とりま)ぜ	一判(いつぱん)、取交(とりま)ぜ	12
156	六百四十何圓(なにえん)の	六百四十何(なん)圓の	12
157	乗客(じようかく)は、	乗客(じようきやく)は、	14 4
158	幸(さいは)ひに	幸(さいは)ひに	4
159	無聊(ぶりやう)を	無聊(ぶれう)を	4
160	謝(しや)すらむやうに	謝(しや)すらんやうに、	5
161	懇(ねむ)ごろに	懇(ねんごろ)に	5
162	下車(げしや)せり。」	此(こゝ)に下車(げしや)せり。	5
163	(壹)の四 其目(そのめ)を	其の目を	6
164	[明30.9.8] 皷(た)の聲(こゑ)は	皷(た)の聲(こゑ)は	9
165	皷(た)の聲(こゑ)は	皷(た)の聲(こゑ)は	9
166	「おゝ、	「おゝ、	10
167	誰(だれ)やらだつたねえ、	誰(だれ)やらぢやつたね、	10
168	我意(わがい)を得(え)つと	我(わ)が意(い)を得(え)つと	15 2
169	謂(い)はむやうに	謂(い)はんやうに	2
170	思(おも)ひに沈(しづ)みて居(ゐ)たり。	思(おも)ひに沈(しづ)み居(ゐ)たり。	2
171	其比(そのころ)一級(いつきふ)先(さきだ)ちて	其頃(そのころ)一級(いつきふ)先(さきだ)ちて	3
172	相識(あひし)らざるなりけり。	相識(あひし)らざるなりき。	4
173	如何(どう)も妄(うそ)ぢやらう。	奈何(どう)も妄(うそ)ぢやらう。	5
174	今居(いま)をると……………」	今居(いま)なら……………」	7
175	太息(ためいき)を泄(もら)しぬ。	太息(ためいき)を泄(もら)せり。	7
176	今逢(あ)つても	今逢(あ)うても	8
177	ピンと	峭然(びんと)	9
178	魚尾(めじり)の	外背(めじり)の	9
179	頰杖(ほ、づゑ)を支(つ)いて、	頰杖(ほ、づゑ)を拄(つ)いて、	12
180	肖(に)て居(を)つたさ。」	肖(に)て居(を)つたさ。」	13
181	仰(あふ)ぎて笑(わら)ひぬ。	仰(あふ)ぎて笑(わら)へり。	16 2
182	毎(いつ)でも妙(めう)な事(こと)を言(い)ふ	毎(いつ)も妙(めう)な事(こと)を言(い)ふ	3
183	人(ひと)だよ。	人(ひと)ぢやね。	3
184	奇想天外(きさうてんぐわい)だ。	奇想天外(きさうてんぐわい)だ。	4

185	蒲「成程(なるほど)君(きみ)は	蒲「成程(なるほど)、君は	6
186	始終(しじゆう)	始終(しじゆう)	6
187	憶出(おもひだ)すだらうな。」	憶(おも)ひ出(だ)すだらうな。」	6
188	死(し)んだ弟(おとゝ)よりは	死(し)んだ弟(おとゝ)よりも	8
189	荒尾(あらを)に差(さ)したり。	荒尾に差(さ)しつ。	10
190	一番(ひとつ)間(はざま)の	一番(いちばん)間(はざま)の	11
191	溢(あふ)るゝ	實(げ)に溢(あふ)るゝ	12
192	「蒲田(かまだ)は如才(じよさい)ないね、	「蒲田(かまだ)は如才(じよさい)ないね、	17 5
193	拾物(ひろひもの)を為(す)るのだ。	拾(ひろ)ひ物を為(す)るのだ。	5
194	あゝ	那(あゝ)	6
195	言(い)はれて見(み)ると、	言(い)はれて見ると	6
196	誰(だれ)でも一寸(ちよつと)	誰(だれ)でも些(ちよつと)	6
197	誰(だれ)でも一寸(ちよつと)	誰(だれ)でも些(ちよつと)	6
198	甘(かん)「流石(さすが)は	甘(かん)「遠(さすが)は	7
199	立(た)つて、泣(な)きに行(ゆ)く……………」	立(た)つて泣(な)きに行く……………」	9
200	停車場(ステーション)で	停車場(ステーション)で	12
201	其健康(そのけんくわう)を	其の健康(けんくわう)を	18 1
202	拍子(へうし)を抜(ぬか)して	拍子(ひやうし)を抜(ぬか)して	1
203	一寸(ちよつと)顔(かほ)が見(み)えたのじや。	些(ちよつと)と顔(かほ)が見(み)えたのじや。	4
204	一寸(ちよつと)顔(かほ)が見(み)えたのじや。	些(ちよつと)と顔(かほ)が見(み)えたのじや。	4
205	意外(いぐわい)ぢやつたから	意外(いぐわい)ぢやつたから、	5
206	長椅子(ソーフワア)を	長椅子(ソーフワア)を	5
207	歩場(プラトフォーム)へ入(はい)る	歩場(プラトフォーム)へ入(はい)る	9
208	迄(まで)	まで	9
209	見(み)えなかつたのぢやが、	見(み)えなかつたのぢやが、	9
210	如何(どう)も氣(き)になるから	奈何(どう)も氣(き)になるから	10
211	振返(ふりかへ)つて見(み)ると、欄(さく)の傍(そば)の	振返(ふりかへ)つて見ると、傍(そば)の	10
212	違(ちが)ひないぢやないか。」	違(ちが)ひないぢやないか。」	12
213	横濱(よこはま)!横濱(よこはま)!横濱(よこはま)!と	横濱!横濱!と	13
214	叫(さけ)ぶ聲(こゑ)は	叫(さけ)ぶ聲(こゑ)の	13
215	窓(まど)の外(そと)を	窓の外(そと)を	13
216	おもちゃ(●●●)箱(ばこ)を覆(かへ)したる如(ごと)く、	玩具(おもちゃ)箱(ばこ)を覆(かへ)したる如(ごと)く、	19 1
217	此響(このひびき)と混雑(こんざつ)との	此の響(ひびき)と混雑(こんざつ)との	2
218	(二)の壺(つぼ)生死(しやうし)を詳(つまびら)かに	生死(しやうし)を詳(つまびら)かに	20 3
219	[明30.9.9]生死(しやうし)を詳(つまびら)かに	生死(しやうし)を詳(つまびら)かに	3
220	親友(しんいう)の前(まへ)に	親友(しんゆう)の前に	3
221	影(かげ)を晦(くら)まし、	影(かげ)を晦(くら)まし、	4
222	其消息(そのせうそく)をさへ	其の消息(せうそく)をさへ	4
223	参事官(さんじくわん)	其(そ)の参事官(さんじくわん)	5
224	参事官(さんじくわん)たりし事(こと)も、	参事官(さんじくわん)たる事(こと)も、	5
225	瀛車(きしや)にて赴任(ふにん)する事(こと)をも	列車(れいしや)にて赴任(ふにん)する事(こと)をも	6
226	姿(すがた)をも見(み)むと思(おも)ひて、	姿(すがた)をも見(み)むと思(おも)ひて、	8
227	舊友(きういう)と相見(あひみ)て	舊友(きうゆう)と相見(あひみ)て	10
228	別(べつ)を取(と)らざりしか。	別(べつ)を為(な)さざりしか。	10
229	此疑問(このぎもん)は	此の疑問(ぎもん)は	11
230	瀛車(きしや)の行(ゆ)くを	列車(れいしや)の行(ゆ)くを	12
231	其許(そのもと)に會(つど)ひし	其許(そのもと)に聚(つど)ひし	13
232	何(なに)とも	或(あるひ)は何(なに)とも	21 1
233	久(ひさ)しう立盡(たちつく)せるものは	久(ひさ)しう立盡(たちつく)せるは	3
234	やがて重(おも)き物(もの)など	旋(やが)て重(おも)き物(もの)など	4
235	引(ひ)くらむやうに	引(ひ)くらむやうに	4
236	踵(きびす)を旋(めぐ)らせし時(とき)には、	踵(きびす)を旋(めぐ)らせし時(とき)には、	4
237	柵際(さくぎ)はに會(つど)ひし衆(ひと)は	柵際(さくぎ)はに聚(つど)ひし衆(ひと)は	5
238	殆(ほとむ)ど散果(ちりは)てゝ、	殆(ほとん)ど散果(ちりは)てゝ、	5
239	さしぐまるゝ涙(なみだ)を	差含(さしぐま)るゝ涙(なみだ)を	7
240	後(おく)れたるを驚(おどろ)きけむ、	後(おく)れたるを驚(おどろ)きけん、	7
241	蓬莱橋口(ほうらいばしぐち)より	蓬莱橋口(ほうらいばしぐち)より	8
242	出(い)でむと、	出(い)でんと、	8
243	聲(こゑ)を懸(か)けられぬ。	聲(こゑ)を懸(か)けぬ。	9
244	慌(あわ)てゝ見向(みむ)く	慌(あわ)てゝ、彼(かの)の見向(みむ)く	11
245	「一寸(ちよつと)。」	「些(ちよつと)と。」	12
246	「一寸(ちよつと)。」	「些(ちよつと)と。」	12
247	金(きん)の腕環(うでわ)の	黄金(きん)の腕環(うでわ)の	12

248	絹(きぬ)ハンカチーフに	絹(きぬ)ハンカチーフに	13
249	婦人(ふじん)の笑(ゑみ)をもて	婦人の笑(ゑみ)もて	22 4
250	急(きふ)に御話(おはなし)を	急(きふ)にお話を	6
251	一寸(ちよつと)此方(こちら)へ。」	些(ちよつ)と此方(こちら)へ。」	7
252	長椅子(ソーフワア)に	長椅子(ソーフワア)に	8
253	掛(か)くれば、	掛(かく)れば、	8
254	已(や)む無(な)く	止(や)む無く	9
255	其傍(そのそば)に	其の側(そば)に	9
256	件(けん)なのでございますがね、	件なのでございますがね。」	10
257	金側時計(きんがはどけい)を	金側時計(きんかはとけい)を	11
258	金側時計(きんがはどけい)を	金側時計(きんかはとけい)を	11
259	取出(とりだし)、	取出(とりいだし)、	11
260	在(あら)つしやいませう。	被在(みらつしや)いませう。	13
261	在(あら)つしやいませう。	被在(みらつしや)いませう。	13
262	此(これ)ぢや	此(こゝ)では	13
263	此(これ)ぢや	此(こゝ)では	13
264	お話(はなし)も出来(でき)ませんから、	お話も出来(できません)ですから、	13
265	「何方(どちら)でもお宜(よろ)しい所(ところ)へ。」	「何方(どこ)でも、	23 5
266	「何方(どちら)でもお宜(よろ)しい所(ところ)へ。」	「何方(どこ)でも、	5
267	解(わか)りませんから	解(わか)りませんですから	5
268	貴方(あなた)のお宜(よろ)しい所(ところ)へ。」	貴方(あなた)のお宜(よろ)しい所(ところ)へ。」	5
269	宜(よろ)しいのでございます。」	宜(よろ)しいのでございます。」	7
270	その宜(よろ)しき方(かた)を	其(その)の宜(よろ)しき方(かた)を	9
271	「然(さゝ)やう。」	「然(さ)やう。」	11
272	其足尖(そのつまさき)を	其の足尖(つまさき)を	13
273	驚(おどろ)きて	驚(おどろ)き	13
274	見(み)れば、	見(み)れば	13
275	満枝(みつえ)が色香(いろか)に	満枝(みつえ)の色香(いろか)に	24 1
276	麴相(そさう)をしたる	麴相(そさう)をせる	2
277	なりき。	なりけり。	2
278	老紳士(らうしんし)は	彼は	2
279	此目覚(このめざま)しき	此の目覚(めざま)しき	2
280	(二)の貳 停車場(ステーション)を出(い)で、	停車場(ステーション)を出(い)で、	4
281	[明30.9.10]新橋(しんばし)へ	新橋(しんばし)へ	4
282	向(むか)ひぬ。	向(むか)へり。	4
283	在(みら)しつては	被在(みらし)つては	7
284	在(みら)しつては	被在(みらし)つては	7
285	好(い)い加減(かげん)に	好(よ)い加減(かげん)に	8
286	極(き)めやうぢや	極(き)めやうでは	8
287	ございせんか。」	御坐(ござ)いせんか。」	8
288	吾意(わがい)に従(したが)はしめむと	吾意(わがい)に従(したが)はしめんと	10
289	無遇(ぶあしらひ)をも甘(あま)むじて、	無遇(ぶあしらひ)をも甘(あま)んじて、	11
290	やりますよ。」	遣(や)りますよ。」	13
291	宜(よろ)しうございます。」	宜(よろ)しうございます」	25 1
292	「何故(なぜ)ですか。」	「何為(なぜ)ですか。」	4
293	其(その)	其の	6
294	言(い)はむとせる	言(い)はんとせる	6
295	「まあ、何故(なぜ)でも	「まあ、何為(なぜ)でも	10
296	宜(よろ)しうございますから、	宜(よろ)しうございますから、	10
297	鶏肉(とり)に致(いた)しませうか。」	鶏肉(とり)に致(いた)しませうか」	11
298	磨硝子(す□ガラス)の	光澤消硝子(つやけしガラス)の	26 1
299	解(わけ)ありげに二人(ふたり)は	解(わけ)あるらう二人(ふたり)は	2
300	いと奥(おく)まりて	いと奥(おく)まりて、	3
301	一間(ま)に案内(あない)されしも	案内(あない)されしも	4
302	然(さ)にあらざるにもあらざらむ氣色(けしき)にて、	然(さ)にあらざるにもあらざらん氣色(けしき)にて、	6
303	可慎(つゝまし)げに黙(もく)して	可慎(つゝしま)げに黙(もく)して	6
304	此人(このひと)と共(とも)にとは	此の人(ひと)と共(とも)にとは	7
305	満枝(みつえ)が好(よ)きに計(はから)ひて、	満枝(みつえ)が好(よ)きに計(はから)ひて、	8
306	二人(ふたり)が中(なか)に置(お)かれたる	二人(ふたり)が中(なか)に置(お)かれたる	9
307	仔細(しさい)らう一炷(ちゆう)の百和香(ひやくわかう)を	子細(しさい)らう一炷(ちゆう)の百和香(ひやくわかう)を	9
308	「はい、是(これ)が勝手(かつて)で。」	「はい、これが勝手(かつて)で。」	12
309	「まあ那樣(そんな)事を有仰(おつしや)らずに、	「まあ、那樣(そんな)事を有仰(おつしや)らずに、	13
310	よう何卒(どうぞ)。」	よう、どうぞ。」	13

311	此通(このとほり)なのですから。」	此の通(とほり)なのですから。」	27	1
312	恁(か)くても	恁(かく)ても		3
313	手(て)を鳴(なら)さむとするを、	手を鳴(なら)さんとするを、		4
314	召上(めしあがり)まし。」	召上(めしあがり)ましな。」		5
315	御守殿持(ごしゆでんもち)と與(とも)に	御主殿持(ごしゆでんもち)と與(とも)に		6
316	其(その)	其の		9
317	心(こゝろ)は	心も		9
318	金(かね)！と、貫(くわん)一は	金！ と貫一は		9
319	「や、私(わたくし)は	「いや、私は		10
320	其吸口(そのすひくち)を	其の吸口(すひくち)を	28	1
321	譯(わけ)ぢやありません。私(わたくし)は	譯(わけ)ぢやありません、私は		3
322	善(よ)く遊(あそ)はせよ。」	善(よ)く遊(あそ)ばせよ。」		6
323	「先日(せんじつ)鰐淵(わにぶち)さんへ	「先日鰐淵(はにぶち)さんへ		8
324	上(あが)つた節(せつ)	上(あが)つた節(せつ)、		8
325	在(ゐら)しつたではございませんか。」	被在(ゐらし)つたではございませんか。」		8
326	在(ゐら)しつたではございませんか。」	被在(ゐらし)つたではございませんか。」		8
327	「瓢箪(へうたん)のやうな恰好(かくかう)の	「瓢箪(へうたん)のやうな恰好(かつかう)の		11
328	一寸(ちよつと)紙(かみ)の	些(ちよつ)と紙の		11
329	一寸(ちよつと)紙(かみ)の	些(ちよつ)と紙の		11
330	卷(ま)いてございました……………」	卷(ま)いてございました。」		11
331	頓(とみ)に塞(ふた)がざりき。	頓(とみ)に塞(ふさ)がざりき。		13
332	頓(とみ)に塞(ふた)がざりき。	頓(とみ)に塞(ふさ)がざりき。		13
333	此爵(このぼつ)として	此の爵(ぼつ)として	29	1
334	貫(くわん)一は直(たゞ)ちに	貫一は直(たゞ)ちに		1
335	(二)の三 とかくする間(ま)に	左右(とかく)する間(ま)に		3
336	[明30.9.11] 麥酒(ビール)に致(いた)ませうか。」	麥酒(ビール)に致(いた)ませうか。」		9
337	おのれ辞(じ)せむとならば、	おのれ辞(じ)せんとならば、		11
338	他(た)に	必(かならず)他(た)に		11
339	酌(しやく)せむとこそあるべきに、	酌(しやく)せんとこそあるべきに、		12
340	甚(はなはだ)しい哉(かな)	甚(はなはだ)しい哉(かな)、		12
341	會釋(えしやく)せるや。	會釋(えしやく)せるや、		13
342	可笑(をか)しと思(おも)ひぬ。	可笑(をか)しと思(おも)へり。		13
343	不調法(ぶてうほふ)なのでございますよ、	不調法(ぶてうほふ)なのでございますよ。	30	1
344	已(や)む無(な)く	止(や)む無(な)く		3
345	其一盞(そのひとつ)を	其の一盞(ひとつ)を		3
346	酒(さけ)になりたれども、	酒になりけれども、		3
347	いひし用談(ようだん)に	言(い)ひし用談(ようだん)に		4
348	一盞(ひとつ)召上(めしあがり)れ。	一盞(ひとつ)召上(めしあがり)れ、		6
349	「いや、那樣(そんな)に。」	「いや那樣(そんな)に。」		9
350	戴(いたゞ)きませう。恐入(おそれい)りますが	戴(いたゞ)きませう、恐入(おそれい)りますが		10
351	其件(そのけん)の外(ほか)に	「其の件(けん)の外(ほか)に		12
352	私(わたくし)少々(せうせう)酔(よ)ひますから。	私(わたくし)少々(せうせう)酔(よ)ひますから、	31	1
353	句(にほひ)など溢(こぼ)れぬべく、	句(にほひ)など零(こぼ)れぬべく、		6
354	丸帶(まるおび)、華麗(はなやか)に紅(べ)にの	全帶(まるおび)、華麗(はなやか)に紅(べ)にの		8
355	搔上(かきあぐ)る左(ひだり)の	搔上(かきあ)ぐる左(ひだり)の		9
356	爽(さはやか)に晁(きらめ)きわたりぬ。	爽(さはやか)に晁(きらめ)き遍(わた)りぬ。		10
357	面影(おもかげ)は少(すくな)からず	面影(おもかげ)は黝(すくな)からず	32	2
358	相結(あひむす)びて、常(つね)に	相結(あひむす)びて常(つね)に		4
359	色(いろ)は自(おのづ)から	色(いろ)は、自(おのづ)から		4
360	折(を)るべからざる堅忍(けんじん)の氣(き)は、	折(を)るべからざる堅忍(けんじん)の氣(き)は、		5
361	表(おもて)に動(うご)けども、	表(おもて)に動(うご)けども、		6
362	其眼(そのまなこ)に輝(かゞや)かざりぬ。	其の眼(まなこ)に輝(かゞや)かざりぬ。		6
363	同業者(どうげふしや)は誰(だれ)も	同業者(どうげふしや)は誰も		9
364	焉(いづく)んぞ知(し)らむ、	焉(いづく)んぞ知らん、		10
365	何(なん)ぞ狂人(きやうじん)たらざりしかを	いかで狂人(きやうじん)たらざりしかを		10
366	(二)の四 笑(ゑむ)を濛(たゞ)ふる眸(まなじり)は	笑(ゑみ)を濛(たゞ)ふる眸(まなじり)は	33	2
367	[明30.9.12] 私(わたくし)は酔(よ)ひますよ。」	私(わたくし)は酔(よ)ひますよ。」		6
368	其(その)	其の		7
369	半(なかば)を傾(かたむ)けつ。	半(なかば)を傾(かたむ)けしが、		7
370	半(なかば)を傾(かたむ)けつ。	半(なかば)を傾(かたむ)けしが、		7
371	彼は手(て)以(ても)て掩(おほ)ひつゝ、	彼は手(て)もて掩(おほ)ひつゝ、		8
372	「あ、酔(よ)ひましたこと。」	「あ、酔(よ)ひましたこと。」		9
373	「間(はざま)さん……………」	「間(はざま)さん、……………」		11

374	お話し申(はなしまを)したいことが	お話し申したいことが	13
375	あるのでございますが、	あるので御坐います、	13
376	貴方(あなた)聴(き)いて下(くだ)さいませうか。」	貴方(あなた)お聴(き)き下さいますか。」	34 1
377	「其(それ)をお聞(き)き申(まを)す為(ため)に	「それをお聞き申す為に	2
378	満枝(みつえ)は嘲(あざ)むが如(ごと)く微笑(ほゝゑ)みて、	満枝は嘲(あざけら)むが如く微笑(ほゝゑ)みて。	3
379	然(しか)し御酒(ごしゆ)の	然(しか)し、御酒(ごしゆ)の	5
380	其(その)御意(おつもり)で、宜(よろ)しうございますか。」	其のお意(つもり)で、宜(よろ)しうございますか。」	6
381	事難(ことむづか)しくなりぬべし。	事難(むづか)しうなりぬべし。	10
382	克(かな)はむまでも	克(かな)はぬまでも	10
383	累(るゐ)を免(まぬ)がれむと、	累(るゐ)を免(まぬ)かれんと、	10
384	累(るゐ)を免(まぬ)がれむと、	累(るゐ)を免(まぬ)かれんと、	10
385	手(て)を拱(こまぬ)きつゝ	手を拱(こまぬ)きつゝ	11
386	關(かゝは)らざらむやうに	關(かゝは)らざらんやうに	11
387	持成(もてな)せるを、	持成(もてな)すを、	11
388	「是(これ)	「これ	13
389	一盞(ひとつ)で後(あと)は決(けつ)して	お一盞(ひとつ)で後(あと)は決(けつ)して	13
390	お強(し)ひ申(まを)しませんから、	お強(し)ひ申しませんですから、	13
391	其猪口(そのちよく)を受(う)けつ。	其の猪口(ちよく)を受けつ。	35 2
392	あはや出(い)でむとせし	あはや出(い)でんとせし	4
393	苦笑(くせう)して巳(や)みぬ。	苦笑(くせう)して止(や)みぬ。	5
394	鰐淵(わにおち)さんの方(ほう)には	鰐淵(わにおち)さんの方(ほう)に	8
395	未(ま)だお長(なが)く在(ゐ)らつしやる	未(ま)だお長く被在(ゐらつし)やる	9
396	未(ま)だお長(なが)く在(ゐ)らつしやる	未(ま)だお長く被在(ゐらつし)やる	9
397	獨立(どくりつ)あそばすので	獨立(どくりつ)あそばすので	9
398	ございませう。」	御坐いませう。」	9
399	「而(さう)してまづ何日頃(いつごろ)	「而(さう)して、まづ何頃(いつごろ)	12
400	物思(ものおも)はしげに俯(うつむ)きて、	物思(ものおも)はしげに差俯(さしうつむ)き、	36 2
401	舊(もと)の如(ごと)く	又舊(もと)の如く	4
402	煙管(きせる)を捨(すて)ゝ	煙管を捨てゝ	5
403	彼方(あちら)に在(ゐ)らつしやるよりは、	彼方(あちら)に被在(ゐらつし)やるよりは、	7
404	彼方(あちら)に在(ゐ)らつしやるよりは、	彼方(あちら)に被在(ゐらつし)やるよりは、	7
405	宜(よろ)しいでは	宜(よろ)しいでは	7
406	ございませうか。	御坐いませうか。	7
407	然(さ)うと云(い)ふ	然(さ)うと云(い)ふ	8
408	御考(おかむがへ)で	御考(おかむがへ)で	8
409	在(ゐ)らつしやるならば、	被在(ゐらつし)やるならば、	8
410	在(ゐ)らつしやるならば、	被在(ゐらつし)やるならば、	8
411	をこがましいので	烏辭(を)こがましいので	9
412	ございませう、	御坐います、	9
413	申(まを)してあげたいのでございませう、	申(まを)して上げたいのでございませう、	11
414	(二)の五「それは	「其(それ)れは	37 2
415	[明30.9.14]「それは	「其(それ)れは	2
416	如何(どう)	何(どう)	2
417	いふ	云(い)ふ	2
418	理(わけ)ですか。」	譯(わけ)ですか。」	2
419	實(げ)に貫(くわん)一(は)	實(じつ)に貫(くわん)一(は)	3
420	「理(わけ)ですか？」	「譯(わけ)ですか？」	4
421	然(さ)う	然(さ)う	6
422	いふ	云(い)ふ	6
423	理(わけ)なのでございませう。」	譯(わけ)なのでございませう。」	6
424	蓆(たばこ)を拈(ひね)りて居(ゐ)たり。	蓆(たばこ)を拈(ひね)り居(ゐ)たり。	10
425	引寄(ひきよ)せむとするを、	引寄(ひきよ)せんとするを、	12
426	私(わたくし)が致(いた)します。」	私(わたくし)が致(いた)します。」	13
427	我(わが)	我が	38 2
428	傍(そば)に取寄(とりよ)せしが、	側(そば)に取寄(とりよ)せしが、	2
429	茶椀(ちやわん)をば其上(そのうへ)に	茶椀(ちやわん)を其(それ)れに	2
430	「未(ま)だお早(はや)うございませうよ。	「未(ま)だお早(はや)うございませうよ、	4
431	「おひもじい所(ところ)を御飯(ごはん)を	「お飯(ひもじ)い所(ところ)を御飯(ごはん)を	7
432	「知(し)れた事(こと)ですわ。」	「知(し)れた事(こと)ですわ」	8
433	「然(さ)うでございませう。」	「然(さ)うでございませう。」	9
434	ひもじいのに	餓(ひもじ)いのに	10
435	御飯(ごはん)を食(た)べないのより	御飯(ごはん)を食(た)べないのよりは	10
436	遥(はるか)に	復(はるか)に	10

437	おひもじければ御飯(ごはん)を	お飯(ひも)じければ御飯(ごはん)を	11
438	おつけ申(まをし)ますから、	お附(つ)け申しますから、	11
439	「返事(へんじ)と言(いは)れたつて、	「返事と言はれたつて、	13
440	「何故(なぜ)お了解(わかり)に	「何為(なぜ)お了解(わかり)に	39 2
441	詰(なじ)るが如(ごと)く見返(みかへ)して、	詰(なじ)るが如く見返(みかへ)しつ。	3
442	親(した)しい御交際(ごかうさい)の間(あひだ)でも	親(した)しい御交際(ごかうさい)の間(あひだ)でも	4
443	其理(そのわけ)はと云(い)へば、	其の譯(わけ)はと云へば、	5
444	金(きん)を	金(かね)を	10
445	出(だ)していたゞく……………」	出して戴(いたゞ)く……………」	10
446	「あれ、其事(そのこと)では	「あれ、其の事では	11
447	猶(なほ)解(げ)せざる躰(てい)を	猶(なほ)解(かい)せざる躰(てい)を	40 2
448	為(つく)りて、	作(な)して、	2
449	言(ことば)もあらざりければ、	言(ことば)もあらざるに、	5
450	「然(さ)ういふやうなお方(かた)が	「然云(さうい)ふやうなお方(かた)が	7
451	お在(あん)なさらなければ……………、貴方(あなた)に	お在(あん)なさらなければ、……………私貴方(あなた)に	7
452	貫(くわん)一(いち)は今(いま)は	貫一(くわんいち)今は	9
453	「あゝ、お解(わかり)りに	「あゝ、お了解(わかり)りに	11
454	「あゝ、お解(わかり)りに	「あゝ、お了解(わかり)りに	11
455	なりまして?!」	なりまして?!」	11
456	心(こゝろ)に言(い)へらむやうの氣色(けしき)にて、	心に言へらんやうの氣色(けしき)にて、	12
457	其盃(そのさかづき)を衝(つ)と	其の盃(さかづき)を衝(つ)と	13
458	貫(くわん)一(いち)に差(さ)したり。	貫一(くわんいち)に差(さ)せり。	13
459	受(う)くると齊(ひと)しく	受(う)くると齊(ひと)しく	41 3
460	盈々(なみ々)注(つ)がれて、	盈々(なみ々)注(つ)がれて、	3
461	下(した)にも置(お)かれず一口(ひとくち)付(つ)くるを	下(した)にも置(お)かれず一口(ひとくち)附(つ)くるを	4
462	「その	「其の	5
463	御盃(おさかづき)は	お盃(さかづき)は	5
464	一々(いちいち)底意(そこい)ありて忽(ゆる)かせに	一々(いちいち)底意(そこい)ありて忽(ゆる)かせに	6
465	「其事(そのこと)なら、	「其の事なら、	9
466	(二)の六 巖(おごそ)かに沈黙(ちんもく)したり。	巖(おごそ)かに沈黙(ちんもく)しつ。	10
467	[明30.9.15] 可耻(はづか)しい事(こと)を	可耻(はづか)しい事を、	13
468	一旦(たん)	一旦(いつたん)	13
469	どうぞ十分(ぶん)に私(わたくし)が	どうぞ十分(じふぶん)に私が	42 4
470	私(わたくし)も座興(ざきよう)で	私座興(ざきよう)で	5
471	ですから其(その)御深切(ごしんせつ)に對(たい)して	ですから、其の御深切(ごしんせつ)に對(たい)して、	8
472	自分(じぶん)の考(かむがへ)をお話(はな)し	自分(じぶん)の考量(かむがへ)をお話(はな)し	9
473	けれど私(わたくし)は	けれど、私は	9
474	考(かむがへ)が違(ちが)つて居(を)ります。	考量(かむがへ)が違(ちが)つて居(を)ります。	10
475	第(だい)一(いち)に、私(わたくし)は一生(しやう)妻(さい)といふ	第一(だいいち)私は一生(いつしやう)妻(さい)といふ	11
476	元(もと)我(われ)は書生(しよせい)でありました、	元(もと)私は書生(しよせい)でありました、	12
477	此(この)商賣(しやうばい)を始(はじめ)したのは、	此(この)商賣(しやうばい)を始めたのは、	13
478	食詰(くひつ)めた譯(わけ)でも	食窮(くひつ)めた譯(わけ)でも	43 1
479	好(いい)商賣(しやうばい)は有(あ)りますよ。	好(いい)商賣(しやうばい)は有(あ)りますよ、	3
480	好(いい)商賣(しやうばい)は有(あ)りますよ。	好(いい)商賣(しやうばい)は有(あ)りますよ、	3
481	何(なに)を苦(くる)しむで	何を苦(くる)しんで	3
482	大事(だいじ)な人(ひと)の名誉(めいよ)を	大事(だいじ)な人(ひと)の名誉(めいよ)を	4
483	高利貸(かうりかし)など	高利貸(かうりかし)などを	5
484	擇(えら)むものですか。」	擇(えら)むものですか。」	5
485	益(ます)す酔(よひ)を冷(さま)されぬ。	益(ます)す酔(よひ)を冷(さま)されぬ。	6
486	當時(たうじ)敵(さき)を殺(ころ)して	當時(たうじ)敵手(さき)を殺(ころ)して	8
487	無念極(むねんきは)まる失望(しつぱう)をした	無念極(むねんきは)まる失望(しつぱう)をした	9
488	其(その)失望(しつぱう)と云(い)ふのは、	其(その)失望(しつぱう)と云(い)ふのは、	10
489	其人(ひと)達(たち)も	其(その)人(ひと)達(たち)も	11
490	頼(たの)まれなければ	頼(たの)まれなければ	11
491	私(わたくし)は見事(みごと)に	而(さう)して私は見事(みごと)に	13
492	火影(ひかげ)を避(さ)けんとしたる	火影(ひかげ)を避(さ)けんとしたる	44 1
493	火影(ひかげ)を避(さ)けんとしたる	火影(ひかげ)を避(さ)けんとしたる	1
494	一匹(いっぴき)の男子(だんし)たる	一匹(いっぴき)の男子(だんし)たる	4
495	者(もの)が	者(もの)が、	4
496	者(もの)が	者(もの)が、	4
497	金錢(かね)の為(ため)に見替(みか)へられたかと	金錢(かね)の為(ため)に見易(みか)へられたかと	5
498	其(その)無念(むねん)といふものは、	其(その)無念(むねん)といふものは、	5
499	一生(いつしやう)忘(わす)れることは出来(でき)んのですよ。	一生(いつしやう)忘(わす)れられんのですよ。	6

500	何故(なぜ)	何為(なぜ)	8
501	一思(ひとおも)ひに死(し)んで了(しま)はんか、	一思(ひとおも)ひに死(し)んで了(しま)はんか、	8
502	其無念(そのむねん)が	其の無念(むねん)が	9
503	那麼(そんな)	那樣(そんな)	10
504	復讐(しかへし)などは	復讐(ふくしう)などは	10
505	屹度(きつと)霽(はら)さなければ	屹(きつ)と霽(はら)さなければ	12
506	其恨(そのうらみ)を忘(わす)れることの	其の恨を忘れることの	13
507	それで高利貸(かうりがし)の	それで、高利貸(かうりかし)の	45 1
508	殆(ほとむ)ど	殆(ほとん)ど	2
509	人(ひと)を殺(ころ)すほどの	人を殺す程(ほど)の	2
510	辱(はづかし)められもした。	辱(はづかし)められもした、	5
511	其金銭(そのかね)が有(あ)つたら	其の金銭(かね)が有つたら	6
512	人(ひと)などを信(しん)じるよりは金銭(かね)を	人などを信(しん)じるよりは、金銭を	9
513	匁(はるか)頼(たのみ)になりますよ。	匁(はるか)頼(たのみ)になりますよ、	10
514	恁云(かうい)ふ考(かむがへ)で	恁云(かうい)ふ考(かむがへ)で	11
515	此(この)	此の	11
516	商賣(しやうばい)へ入(はい)つた	商賣(しやうばい)に入(はい)つた	11
517	仰(あふ)いで	仰(あほ)ぎて	46 1
518	仰(あふ)いで	仰(あほ)ぎて	1
519	高笑(たかわらひ)しながらも、	高笑(たかわらひ)しつゝも、	1
520	其面(そのおもて)は	其の面(おもて)は	1
521	(二)の七 然(さ)るべき所見(かむがへ)を	然(さ)るべき所見(かむがへ)を	3
522	[明30.9.16]然(さ)れども彼(かれ)は	然(さ)れども、彼は	4
523	此面白(このおもしろ)き世(よ)に	此面白(このおもしろ)き世(よ)に	5
524	暁(さと)らざるならむ。	暁(さと)らざるならん。	6
525	夫(そ)を教(をし)へむ。と	夫(そ)を教(をし)へん、と	7
526	望(のぞみ)を失(うしな)はざるなりけり。	望(のぞみ)を失(うしな)はざるなりき。	7
527	頼(たのみ)にならないと	依様(やはり)頼(たのみ)にならないと	8
528	「疑(うたが)ふ、疑(うたが)はむと云(い)ふのは	「疑(うたが)ふ、疑(うたが)はむと云(い)ふのは	10
529	二(に)の次(つぎ)で、	一(いち)の次(つぎ)で、	10
530	私(わたくし)は其失望(そのしつぼう)いらい	私は其の失望(そのしつぼう)いらい	10
531	此世(このよ)の中(なか)が	此の世(このよ)の中(なか)が	10
532	嫌(きら)ひで、	嫌(きら)ひで、	10
533	誠(まこと)も〜	誠(まこと)も〜——	12
534	命(いのち)を懸(か)けて	命懸(いのち)かけて	12
535	貴方(あなた)を思(おも)ふものがございしても？」	貴方(あなた)を思(おも)ふ者(もの)がございしても？」	12
536	今(いま)は取付(とりつ)く島(しま)も無(な)くて、	今は取附(とりつ)く島(しま)も無(な)くて、	47 5
537	「是(これは)は恐入(おそれい)ります。」	「これは恐入(おそれい)ります。」	8
538	醉(ゑひ)は在(あ)りながら、	醉(ゑひ)は有(あ)りながら、	9
539	醉(ゑ)へる躰(てい)は無(な)くて、	醉(ゑ)へる體(てい)も無(な)くて、	10
540	三盃目(さんばいめ)を代(か)へつ。	三盃目(さんばいめ)を易(か)へつ。	12
541	「間(はざま)さん、」と呼(よば)れし時(とき)、	「間(はざま)さん、」と、呼(よば)れし時(とき)、	13
542	邊(にはか)に應(こた)ふる	邊(にはか)に應(こた)ふる	13
543	口(くち)へ出(だ)します迄(まで)には、	口(くち)に出(だ)します迄(まで)には、	48 2
544	無(な)い時(とき)にはと	無(な)い時(とき)には、と	3
545	胸(むね)に疊(たゝ)むで	胸(むね)に疊(たゝ)んで	3
546	断(ことわり)を受(う)けては、	謝絶(ことわり)を受(う)けては、	5
547	断(ことわり)を受(う)けては、	謝絶(ことわり)を受(う)けては、	5
548	ハンカチーフを	ハンカチーフを	7
549	取(と)りて	取りて、	7
550	此座(このざ)が起(た)たれません。	此座(このざ)が起(た)たれません。	8
551	話(はなし)は？」	お話(はなし)は？」	13
552	「如何(どう)	「何(どう)	49 2
553	いふお話(はなし)ですか。」	云(い)ふお話(はなし)ですか。」	2
554	如何(どう)でも宜(よろ)しうございます。	奈何(どう)でも宜(よろ)しうございます。	3
555	私如何(わたくしどう)しても	私奈何(どう)しても	3
556	宜(よろ)しうございますから、	宜(よろ)しうございますから、	4
557	屹度(きつと)	屹(きつ)と	6
558	覚(おぼ)えて在(あ)らつしやいましよ。」	覚(おぼ)えて被在(あ)らつしやいましよ。」	6
559	覚(おぼ)えて在(あ)らつしやいましよ。」	覚(おぼ)えて被在(あ)らつしやいましよ。」	6
560	優(やさ)しいお言(ことば)を	優(やさ)しい言(ことば)を	8
561	聞(き)かして下(くだ)さいませう。	お聞(き)かせ下(くだ)さいませう。	8
562	是(これ)なら宜(よろ)しいでせう。」	是(これ)なら宜(よろ)しいでせう。」	12

563	其太股(そのふとも、)を	其の太股(ふとも、)を	50	2
564	した、か撮(つめ)れば、	絶(した、)か撮(つめ)れば、		2
565	覆(くつかへ)らむとするを支(さ、)へつ、	覆(くつかへ)らんとするを支(さ、)へつ、		3
566	身(み)を飛退(とびの)き、	身を開(ひら)きて、		4
567	手(て)を鳴(なら)して	手を打鳴(うちなら)して		4
568	婢(をんな)を呼(よ)びけり。	婢(をんな)を呼(よ)ぶなりけり。		5
569	(三)の壹 赤坂氷川(あかさかひかは)の邊(へん)に	赤坂氷川(あかさかひかは)の邊(ほとり)に	51	2
570	[明30.9.17]御前(ごぜん)と言(い)へば	御前(ごぜん)と言(い)へば		2
571	俚(くるま)に積(つ)みて	車に積(つ)みて		3
572	呼(よ)ばる、にぞありける。	呼(よ)ばる、にぞありける。		4
573	仔細(しさい)を	子細(しさい)を		4
574	貴族院(きぞくゑん)の椅子(いす)を占(し)めて	貴族院(きぞくゑん)の椅子(いす)を占(し)めて、		6
575	正(まさ)に出(いづ)るに	正(まさ)に出(いづ)るに		9
576	邸内(ていない)には	邸内(ていない)には、		11
577	昔(むかし)を摸(うつ)せる	昔(むかし)を摸(も)せる		11
578	三層(そう)の煉瓦造(れんぐわづくり)の	三層(さんそう)の煉瓦造(れんぐわづくり)の		12
579	此殿(このとの)の數寄(すき)にて	此の殿(との)の數寄(すき)にて、		12
580	閑日月(かんじつげつ)を、書(しよ)に耽(ふけ)り、	閑日月(かんじつげつ)をば、書(しよ)に耽(ふけ)り、	52	2
581	専(もは)ら寫真(しやしん)に遊(あそ)びて、	専(もつ)ら寫真(しやしん)に遊(あそ)びて、		3
582	自(おのづ)からなる	自(おのづ)からなる		5
583	五萬石(ごく)の品格(ひんかく)は、	七萬石の品格(ひんかく)は、		5
584	面白(おもしろ)う眉秀(まゆひい)で、	面(おもて)白(う)眉秀(まゆひい)で、		5
585	眼爽(まなこさはやか)に、	眼爽(はなこさはやか)に、		6
586	わたらせらる、とは、	わたらせらる、とは		8
587	誇(ほこ)る所(ところ)たり。	誇(ほこ)る所(所)なり。		8
588	空(むな)しからざること	空(むな)しからざること、		9
589	蝶(てふ)を捉(とら)へむとする	蝶(てふ)を捉(とら)へんとする		9
590	逸早(いちはや)き雅(みやび)に慰(なぐさ)み、	逸早(いちはや)き風流(みやび)に慰(なぐさ)み、		11
591	彼地(かのち)に	彼の地に		12
592	留学(りうがく)の日(ひ)	留学(りうがく)の日、		12
593	陸軍中佐(りくぐんちゆうさ)なる人(ひと)と娘(むすめ)と	陸軍中佐(りくぐんちゆうさ)なる人の娘と		13
594	月下(げつ)の小船(こぶね)に	月下(げつ)の小船(こぶね)に		13
595	此水(このみず)の	此の水の	53	1
596	終(つひ)に涸(か)る、日(ひ)は	終(つひ)に涸(か)る、日は		1
597	あらむとも、	あらんと、		2
598	我戀(わがこひ)の	我が戀(こひ)の		2
599	母君(は、きみ)に請(こ)ふことありしに、	母君(は、きみ)に請(こ)ふことありしに、		2
600	いといたう	いと太(いた)う		2
601	家(いへ)の大事(だいじ)なり。	家の大事(だいじ)ぞや。		4
602	かしこくも	畏(かしこ)くも		5
603	我(わ)が田鶴見(たづみ)の	我(わ)が田鶴見(たづみ)の		5
604	家(いへ)を	家をば		5
605	殿(との)も所為無(せむな)くて、	殿(との)も所為(せん)無(な)くて、		7
606	憂(う)きは死(し)な、むと味氣(あぢき)なく	憂(う)きは死(し)な、んと味氣(あぢき)なく		9
607	物思(ものおも)ふ積(つもり)にやありけむ、	物思(ものおも)ふ積(つもり)にやありけん、		10
608	益深(ますふか)く、	益(ますま)す深く、		13
609	世襲(せいしふ)の貴(たう)きも	世襲(せいしふ)の貴(たう)きも	54	1
610	何(なに)にかはせむと、	何(なに)にかはせんと、		1
611	筐(かたみ)こそ仇(あだ)ならず	形見(かたみ)こそ仇(あだ)ならず		2
612	壁(かべ)に掛(か)けて、無妻(むさい)の妻(さい)と姉(あね)	壁(かべ)に掛(か)けたる半身像(はんしんぞう)は、		2
613	苦(ねむごろ)に手寫(しゆしや)して、	苦(ねむごろ)に手寫(しゆしや)して、		3
614	(三)の二 此失望(このしつぼう)の極放肆遊惰(きよくはうしいうだ)の	此の失望(しつぼう)の極放肆遊惰(きよくはふしいうだ)の		4
615	[明30.9.18]其人(そのひと)迂(う)ならず、	其人(そのひと)迂(う)ならず、		7
616	田鶴見家(たづみ)も、	田鶴見家(たづみ)も、		8
617	容易(ようい)に支出(し)つする	容易(ようい)に支出(し)する		11
618	引受(ひきう)くる輩(とも)がらの	引受(ひきう)くる輩(はい)の		12
619	此(こ)に便(たよ)らむと	此(こ)に便(たよ)らんと		12
620	賢(かしこ)き畔柳(くろやなぎ)は	慧(さかし)き畔柳(くろやなぎ)は		13
621	其藩士(そのはんし)なる	其の藩士(はんし)なる	55	1
622	絶(た)えてあらざるなり。	絶(た)えてあらざるなりき。		4
623	鰐淵(わにぶち)が名(な)の	鰐淵(わにぶち)が名(な)の		5
624	此資本主(このしほんぬし)の	此の資本金(しほんぬし)の		6

625	才覚(さいかく)あるものなりければ、	才覚(さいかく)ある者なりければ、	8
626	賣買(ばいばい)を周旋(しゅうせん)し、	賣買(ばいばい)を周旋(しゅうせん)し、	9
627	茶(ちや)の	茶を	11
628	濁(にご)さずといふこと	濁(にご)さずといふと	11
629	首尾好(しゅびよ)く	首尾好(しゅびよ)く、	12
630	終(つひ)には	竟(つひ)には	12
631	警部(けいぶ)まで	警部(けいぶ)にまで	12
632	此種(このしゆ)の悪手段(あくしゆだん)に	此の種(しゆ)の悪手段(あくしゆだん)に	56 1
633	或(あるひ)は欺(あざむ)き、	或(ある)は欺(あざむ)き、	2
634	數萬(すまん)に上(のぼ)るとぞ	殆(ほとん)と數萬(すまん)に上(のぼ)るとぞ	5
635	聞(きこ)えたる。	聞えし。	6
636	六臂(ろくひ)の働(はたら)きは、	六臂(ろつひ)の働(はたら)きは、	9
637	其家(そのいへ)に	其の家に	12
638	(三)の三 八疊(でふ)の一間(ひとま)を	八疊(はちでふ)の一間(ひとま)を	13
639	[明30.9.19] 與(あた)へられて	與(あた)へられて、	13
640	彼(かれ)を出(いだ)すことを	彼を出(いだ)すを	57 2
641	傍若干(かたはらいくばく)の	傍若干(かたはらそくばく)の	4
642	我(わが)	我(わ)が	4
643	少額(こがね)をも	小額(こがね)をも	4
644	張(は)らむよりは、	張らんよりは、	5
645	疑(うたが)へり。	疑(うたが)ひしなり。	58 1
646	貫(くわん)一はおのれの	貫一は已(おのれ)の	1
647	暖簾(のふれん)を分(わ)けて	暖簾(のれん)を分(わ)けて	5
648	後見(うしろみ)は	後見(かうけん)は	6
649	して	為(して)	6
650	くれむと、	くれんと、	6
651	お峯(みね)は四十三なり。	お峯(みね)は四十六なり。	7
652	憂(うれひ)を見(み)ること	憂(うれひ)を見ること、	8
653	知(し)らざるに引替(ひきか)へて、	知らざるに引易(ひきか)へて、	9
654	心(こゝろ)は有(も)てるなりけり。	心は有(も)てるなり。	10
655	其執念(そのしふねん)の	其の執念(しふねん)の	59 1
656	駆(か)るまゝに	駆(か)るまゝに、	2
657	以(もつ)て聊(いさゝ)か	以(つ)て聊(いさゝ)か	2
658	枯腸(こちやう)を癒(いや)さむが為(ため)に、	枯腸(こちやう)を癒(いや)さんが為(ため)に、	3
659	温(あたゝ)かき憐愍(れんみん)とを	温(あたゝ)かき憐愍(れんみん)とを	5
660	被(かうむ)らむは、	被(かうむ)らんは、	5
661	乳(ち)を得(え)むとよりも	乳(ち)を得(え)んとよりも	6
662	乳(ち)を得(え)むとよりも	乳(ち)を得(え)んとよりも	6
663	喜(よろこび)なる哉(かな)。	喜(よろこび)なる哉(かな)、	6
664	彼(かれ)は此喜(このよろこび)を	彼は此の喜を	6
665	今(いま)は呵責(かしゃく)をも	呵責(かしゃく)をも	7
666	此信用(このしんよう)の	此の信用の	8
667	此憐愍(このれんみん)も	此の憐愍も	8
668	目前(もくぜん)なるを	目前(もくぜん)なるべきを	9
669	(三)の四 毒(どく)は毒(どく)を以(も)つて	毒(どく)は毒(どく)を以(も)て	11
670	[明30.9.20] 生殺(なまごろし)の關係(くわんけい)にて、	生殺(なまごろし)の關係(かんけい)にて、	12
671	之(これ)に懸(かゝ)りては	之に係(かゝ)りては、	60 2
672	血反吐(ちへど)を嘔(はか)さるゝもの	血反吐(ちへど)を嘔(はか)されし者	3
673	口惜(くちを)しければ、	口惜(くちをし)ければ、	5
674	再(ふたゝ)び那奴(しやつ)の翅(はがい)を	再び那奴(しやつ)の翅(はがい)を、	6
675	展(の)べしめざらむに	展(の)べしめざらんに	6
676	其家(そのいへ)に	其の家に	7
677	翻弄(ほんろう)せられけるを	翻弄(ほんらう)せられけるを、	8
678	内硬強(しんねりづよ)く	柔韌(しんねり)強(つよ)く	10
679	内硬強(しんねりづよ)く	柔韌(しんねり)強(つよ)く	10
680	仕込杖(しこみつゑ)を	仕込杖(しこみつゑ)を	11
681	白刃(しらは)を危(あやう)く	白刃(はくじん)を危(あやう)く	12
682	動(うご)かざりける折(をり)から、	動(うご)かざりしを、	13
683	乱拳(らんけん)に圍(かこ)まれて	乱拳(らんけん)に圍(かこ)まれて	13
684	之(これ)が為(ため)に彼(かれ)の	之(かゝ)るに彼の	61 1
685	恚(かゝ)る事(こと)	恚(かゝ)ること	4
686	ありける翌日(よくじつ)は	ありし翌日(よくじつ)は	4
687	其體(そのたい)の弱(よわ)く、	其の體(たい)の弱(よわ)く、	7

688	其情(そのじやう)の	其の情(じやう)の	7
689	此業(このげふ)に	此の業(げふ)に	8
690	此悪(このあく)を作(な)すに	此の悪(あく)を作(な)すに	11
691	爾来(じらい)終天(しゆうてん)の	爾来(じらい)終天(しうてん)の	12
692	其苦悶(そのくもん)の	其の苦悶(くもん)の	13
693	其失望(そのしつぱう)と恨(うらみ)とを	其の失望と恨とを	62 1
694	忘(わす)れむが為(ため)には、	忘れんが為には、	1
695	苦悶(くもん)をば	苦悶(くもん)を	2
696	辞(じ)せざるなりけり。	辞(じ)せざるなり。	2
697 (三)の五	残刻(ざんこく)を悔(く)み、	残刻(ざんこく)を悔(く)い、	3
698[明30.9.21]	雲(くも)のたゞずまひも匂(にほ)はしう、	雲の布置(たゞずまひ)匂(にほ)はしう、	6
699	雲(くも)のたゞずまひも匂(にほ)はしう、	雲の布置(たゞずまひ)匂(にほ)はしう、	6
700	瘦(や)せたる	瘦(やせ)せたる	8
701	貫一(くわんいち)は横(よこた)はれり。	貫一は横(よこた)はれり。	8
702	頬杖(ほ、づゑ)を倒(たふ)して、	頬杖(ほ、つゑ)を倒(たふ)して、	10
703	括囊(く、りまくら)に重(おも)き頭(かしら)を	枕囊(く、りまくら)に重(おも)き頭(かしら)を	10
704	折(をり)しも誰(たれ)ならむ、	折しも誰ならん、	12
705	目(め)を塞(ふた)ぎて居(ゐ)たり。	目を塞(ふた)ぎ居(ゐ)たり。	13
706	襖(ふすま)を	紙門(ふすま)を	13
707	「氣分(きぶん)は如何(どう)です。」	「氣分(きぶん)は奈何(どう)です。」	63 6
708	是(これ)は	これは	7
709	いろ〜御馳走様(ごちそうさま)でございます。」	色、御馳走様(ごちそうさま)でございます。」	7
710	「はあ、畔柳様(くろやなぎさん)ですか。」	「はあ、畔柳(くろやなぎ)さんですか。」	64 1
711	「それが、	「それが	2
712	如何(どう)だか	奈何(どう)だか	2
713	お峯(みね)は苦笑(くせう)しつ。	お峯(みね)は苦笑(にがわらひ)しつ。	3
714	其面(そのおもて)の	其の面(おもて)の	3
715	櫛(くし)の齒透(はとお)りて	櫛(くし)の齒通(はとほ)りて、	4
716	赤(あか)き方(かた)なれど、	赤(あか)き方(かた)なれど、	5
717	常(つね)に染(そ)めたるが、	常(つね)に涅(くろ)めたるが、	7
718	かゝるをや	慥(かゝ)るをや	7
719	茶縹(しやじま)の	茶柳條(じま)の	8
720	フランネルの	フラネルの	8
721	「何故(なぜ)ですか。」	「何為(なぜ)ですか。」	11
722	言(い)はむか、	言(い)はんか、	13
723	言(い)はざらむかを	言(い)はざらんかを	13
724	豫(ためら)へる	遅(ためら)へる	13
725	栗(くり)を取(と)りて剥(む)いて居(ゐ)たり。	栗(くり)を取りて剥(む)き居(ゐ)たり。	65 1
726	「あの、赤檜(あかがし)の	「あの赤檜(あかがし)の	3
727	有(あ)るぢやありませんか。	有(あ)るぢやありませんか、	4
728	首(くび)を傾(かたふ)けたり。	首(くび)を傾(かたむ)けたり。	7
729	思合(おもひあ)はするなるべし。	思合(おも)するなるべし。	7
730	「然(さ)うでせう。」	「然(さう)でせう。」	8
731	那麼事(そんなこと)は無(な)からうと	那樣(そんな)事は無(な)からうと	10
732	然(さ)う	然(さう)	12
733	いふ噂(うはさ)が	云(い)ふ噂(うはさ)が	12
734	「あれ、那麼(そんな)剥(む)きやうをしちや	「あれ、那樣(そんな)剥(む)きやうをしちや	66 2
735 (三)の六	其(その)言(い)はむとする所(ところ)を	其の言(い)はんとする所(ところ)を	5
736[明30.9.23]	言(い)はむとは、	言(い)はんとは、	5
737	手(て)を束(つか)ねて在(あ)らむより、	手を束(つか)ねて在(あ)らんより、	6
738	其頂(そのいたゞき)より	其の頂(いたゞき)より	7
739	「一寸(ちよいと)	「些(ちよいと)	8
740	「一寸(ちよいと)	「些(ちよいと)	8
741	「然(さ)う	「然(さう)	11
742	いふ事(こと)が	云(い)ふ事(こと)が	11
743	「だつて私(わたし)の	「だつて、私(わたし)の	12
744	皆(みんな)其話(そのはなし)を	皆(みんな)其の話を	67 2
745	成程(なるほど)	成程(なるほど)、	4
746	あゝ	那(あゝ)	4
747	いふ風(ふう)ですから、	云(い)ふ風(ふう)ですから、	4
748	其(それ)は	それは	4
749	然(さ)うかも	然(さう)かも	4
750	氣心(きごゝろ)も知合(しりあ)つて、	氣心(きごゝろ)も知り合(あ)つて	5

751	家内(うち)の族(ひと)も	家内(うち)の人も	6
752	如何(どう)したら	奈何(どう)したら	7
753	可(よ)からうと思(おも)つてね。」	可(よ)からうかと思つてね。」	7
754	「おや、是(これ)は	「おや、これは	10
755	此虫(このむし)は	此の虫は	10
756	如何(どう)でせう。」	奈何(どう)でせう。」	10
757	「や、非常(ひじやう)ですな。」	「非常(ひじやう)ですな。」	11
758	「然(さ)うです。」	「然(さう)です。」	13
759	心進(こゝろすす)まざらむやうに	心進(すす)まざらんやうに	68 1
760	愈(いよゝ)等閑(なほざり)なりき。	愈(いよいよ)等閑(なほざり)なりき。	2
761	「是(これ)は	「これは	3
762	本當(ほんとう)に	本當(ほんたう)に	3
763	此處(こゝ)きりの話(はなし)ですからね。」	此處(こゝ)限(ぎり)の話(はなし)ですからね。」	4
764	此處(こゝ)きりの話(はなし)ですからね。」	此處(こゝ)限(ぎり)の話(はなし)ですからね。」	4
765	食(くら)はむとせし栗(くり)を	食(く)はんとせし栗を	6
766	持直(もちなほ)して、	持ち直して、	6
767	秘密(ひみつ)を語(かた)らむとする	秘密(ひみつ)を語(かた)らんとする	7
768	其(それ)に違無(ちがひな)いの！」	其(それ)に違(ちがひ)無いの□」	11
769	馬鹿(ばか)な事(こと)が	馬鹿(ばか)な事が、	13
770	貴方(あなた)。」	貴方(あなた)……………」	13
771	女房(にようばう)の私(わたし)が……………」	女房(ほようばう)の私が……………」	69 1
772	塾(じ)と思入(おもひい)りて、	塾(じ)と思ひ入りて、	3
773	其一(そのひと)つを終(を)ふるまで	其の一つを終(を)ふるまで	11
774	さて徐(おもむ)ろに、	さて徐(おもむろ)に、	12
775	私(わたし)も何(なに)も言(い)ひはしませんけれど、	私は何も言(い)ひはしませんけれど、	70 1
776	赤檉(あかぎし)さんといふものが	赤檉(あかぎし)さんといふ者が	2
777	其上(そのうへ)に那(あ)の女(をんな)だ！	其の上に那(あ)の女(をんな)だ！	3
778	居(ゐ)た日(ひ)には末始終(すゑしじゆう)	居(ゐ)た日には、末始終(すゑしじゆう)	6
779	利根(りこう)で居(ゐ)ながら	利巧(りかう)で居(ゐ)ながら	7
780	如何(どう)したと	奈何(どう)したと	7
781	云(い)ふのでせう。」	云(い)ふのでせう。」	7
782 (三)の七	粧(しや)れてゐますわね。	冶(しや)れてゐますわね、	10
783 [明30.9.24]	粧(しや)れてゐますわね。	冶(しや)れてゐますわね、	10
784	仕立下(したておろ)しずくめで、	仕立下(したておろ)し渾成(ずくめ)で、	11
785	その綺麗事(き□ひごと)と	その奇麗事(きれいごと)と	11
786	謂(い)つたら。	謂(い)つたら、	11
787	知(し)れきつて	知(し)れ切つて	13
788	居(ゐ)るの。」	居(ゐ)るの」	13
789	「それが事實(じつ)なら	「それが事實(じつ)なら	71 1
790	貫一(くわんいち)の氣乗(きのり)せざるを	貫一(くわんいち)の氣乗(きのり)せぬを	4
791	彌(いよいよ)好(よ)くない。	彌(いよいよ)善(よ)くない。	5
792	那(あ)の女(をんな)に	あの女(をんな)に	5
793	思直(おもひなほ)せども貫一(くわん)一(が)	思(おも)ひ直(なほ)せども貫一(くわん)一(が)	9
794	「而(さう)して	「而(さう)して、	10
795	それは何頃(いつごろ)からの	それは何頃(いつごろ)からの	10
796	「然(しか)し	「然(しか)し、	12
797	何(なに)しろ	何(なに)しろ	12
798	「それに就(つ)いて	「其(それ)に就(つ)いて	13
799	私(わたし)も篤(とく)くり言(い)はうと	私も篤(とく)くり言(い)はうと	13
800	是(これ)と云(い)ふ	是(これ)といふ	72 1
801	證據(しやうこ)が無(な)くちや	證據(しやうこ)が無(な)くちや	1
802	口(くち)が出(だ)せませんから、	口(くち)が出(だ)せませんから、	1
803	突止(つきと)めたいのですけれど、	突止(つきと)めたいのだけれど、	2
804	お頼(たのみ)があるのです。	お頼(たのみ)があるのです。	5
805	お前(まへ)さん寝(ね)てお在(い)でないと、	お前(まへ)さんが寝(ね)てお在(い)でないと、	6
806	行(ゆ)けよ命(めい)ぜられたると	行(ゆ)けよ命(めい)ぜられたると	8
807	奚(なん)ぞ擇(えら)ばむ。	奚(なん)ぞ擇(えら)ばん、	8
808	差支(さしつかへ)ございません、	差支(さしつかへ)ございません。	10
809	如何(どう)いふ事(こと)ですか。」	奈何(どう)いふ事(こと)ですか。」	10
810	然(しか)し餘(あんま)りお氣(き)の毒(どく)ね。」	餘(あんま)りお氣(き)の毒(どく)ね。」	11
811	耀(かゞや)くばかりに喜(よろこ)びぬ。	耀(かゞや)くばかりに懽(よろこ)びぬ。	12
812	之(これ)に酬(むく)ゐるの	之(これ)に酬(むく)ゆるの	73 2
813	薄儀(はくぎ)に過(す)ぎたるが、	薄儀(はくぎ)に過(す)ぎたるを、	3

814	今更(いまさら)に可愧(はづかは)しきを	今更に可愧(はづか)しく	3
815	覚(おぼ)ゆるなりき。	覚(おぼ)ゆるなり。	3
816	何時頃行(いつごろい)つて	何頃(いつごろ)行つて	6
817	何時頃歸(いつごろかえ)つたか。	何頃歸つたか、	6
818	其様子(そのやうす)だけ解(わか)れば、	其の様子だけ解(わか)れば、	7
819	可(い)いのです。」「はあ、それだけで宜(よろ)	可いのです。それだけ知れ、ば	8
	し)いので。」「それだけ知(し)れ、ば、		8
820	帯(おび)を解(と)かむとすれば、	帯(おび)を解(と)かんとすれば、	11
821	今車(いまくるま)を呼(よ)びに遣(や)るから。」	今俵(くるま)を呼(よ)びに遣(や)るから。」	12
822	お峯(みね)は恹忙(あわた)しく	お峯は忙(せは)しく	13
823	階子(はしご)を下行(おりゆ)きけり。	階子(はしご)を下行(おりゆ)けり。	13
824	繰返(くりかへ)し〜	繰返(くりかへ)し、ゝゝゝ	74 1
825	居間(ゐま)を出(い)でむとしつゝ、	居間(ゐま)を出でんとしつゝ、	2
826	思浮(おもひうか)べては	思ひ浮(うか)べては	5
827	不覚(そゞろ)に獨(ひとり)り打笑(うちゑ)まれつ。	漫(そゞろ)に獨り打笑(うちゑま)れつ。	5
828 (四)の壹	車(くるま)を飛(とば)して	俵を飛(とば)して	75 2
829 [明30.9.25]	畔柳(くろやなぎ)の許(もと)に趣(おもむ)けり。	畔柳の許(もと)に赴(おもむ)けり。	2
830	其居宅(そのきよたく)は	其の居宅(きよたく)は	2
831	横長(よこなが)く	横長(よこなが)に	4
832	百坪約(つばばかり)を	三百坪約(つばばかり)を	4
833	二階建(にかいだて)なり。	二階建(にかいたて)なり。	5
834	結構(かまへ)の	構(かまへ)の	5
835	引替(ひきか)へて、	引易(ひきか)へて、	6
836	木口(きぐち)の撰擇(えらび)の	木口(きぐち)の撰擇(せんたく)の	6
837	其舊材(そのきうざい)を	其の舊材(きうざい)を	6
838	此家(このいへ)に	此家(このいへ)に	8
839	公然(おほやけ)の出入(でいり)を	公然(こうぜん)の出入(でいり)を	8
840	玄関側(げんくわんわき)なる格子口(かうしぐち)より	玄関側(げんかんわき)なる格子(かうし)口より	8
841	鰐淵(わにぶち)が履物(はきもの)は	鰐淵の履物(はきもの)は	10
842	思(おも)ひつゝ、案内(あない)すれば、	思ひつゝ、音(おと)なへば、	12
843	呼(よ)びたりしに	呼(よ)びたりしに、	76 1
844	答(こた)へざりければ、	答(こた)へざりければ	1
845	(なし)	旋(やが)て	1
846	病勝(やまいがち)に	病勝(やまいかち)に	3
847	瘦衰(やせおとろ)へたる	瘦衰(やせおとろ)へたる	3
848	五躰(たい)は	五體(ごたい)は	3
849	惨々(いた〜)しき姿(すがた)しながら、	惨々(いた〜)しながら、	4
850	何處(いづこ)より出(い)づる音(ね)ならむと	何處(いづこ)より出づる音(ね)ならんと、	5
851	化物(ばげもの)と謂(おも)へる	化物(はげもの)と謂(い)へる	6
852	其人(そのひと)なり。	其の人なり。	6
853	恭(うや〜)しく	恭(うや〜)しき	8
854	禮(れい)を為(な)して、	禮(れい)を作(な)して、	8
855	今日(こんにち)は急(いそ)ぎまするので、	今日(こんにち)は急(いそ)ぎますので、	9
856	一寸(ちよつと)呼(よ)びに	些(ちよつと)と呼(よ)びに	13
857	一寸(ちよつと)呼(よ)びに	些(ちよつと)と呼(よ)びに	13
858	此間(このひま)に	此間(このあひだ)に	77 3
859	此探偵一件(このたんでいつけん)を	此の探偵一件(たんでんいつけん)を	4
860	處置(しよち)せむかと	處置(しよち)せんかと	4
861	息喘(いきせ)き還來(かへりき)にける	息促(いきせ)き還來(かへりき)にける	5
862	旋(やが)て妻(つま)の出(い)で、例(れい)の	旋(やが)て妻の出で、例(れい)の	5
863	「あの、	「あの	7
864	唯今一寸(たゞいまちよつと)	唯今些(ちよつと)と	7
865	唯今一寸(たゞいまちよつと)	唯今些(ちよつと)と	7
866	手(て)が放(はな)せませんので、	手が放(はな)せまないので、	7
867	直(ちき)そこですよ、	直(ちき)其處(そこ)ですよ、	8
868	案内(あんない)を為(さ)せます。	案内(あんない)を為(さ)せます	8
869	あの、豊(とよ)や！」	あの豊(とよ)や！」	9
870	後(うしろ)さま	後(うしろ)さまに	11
871	玉川砂礫(じやり)を敷(し)きたる	玉川砂礫(ざり)を敷(し)きたる	12
872	三棟(みむね)並(なら)べる	三棟(むね)並(なら)べる	13
873	御膳籠昇入(ごぜんかごかきい)るゝは	御前籠昇(ごぜんかごかき)入るゝは	78 2
874	一間(ま)に導(みちび)かれぬ。	一間(ひとま)に導(みちび)かれぬ。	5
875 (四)の二	執持(とりもち)に召(め)されて、	執持(とりもち)に召(め)されて、	8

876(四)の三と誤植)	所望(しまう)ありければ、先(ま)づ	所望(しまう)ありければ先(ま)づ	9
877[明30.9.27]	三階(がい)に案内(あない)すとて、	三階(さんがい)に案内(あない)すとて、	10
878	迂曲階子(まはりばしご)の半(なかば)を	迂廻階子(まはりばしご)の半(なかば)を	10
879	其客(そのきやく)の	其の客の	11
880	珊瑚(さんご)の六分玉(ぶだま)の	珊瑚(さんご)の六分玉(ぶだま)の	12
881	類(たぐ)ふべくも無(な)く、	類(たぐ)ふべき無く、	79 1
882	繻珍(しゅちん)を高(たか)く負(お)ひたり。	七絲(しちん)を高く負(お)ひたり。	2
883	繻珍(しゅちん)を高(たか)く負(お)ひたり。	七絲(しちん)を高く負(お)ひたり。	2
884	緩(ゆる)く匂滴(にほひこぼ)して、	緩(ゆる)く匂(にほひ)零(こぼ)して、	3
885	先立(さきだ)ちけるが、彼(かれ)の	先立ちけるか、彼(かれ)の	6
886	見(み)えければ、弗(ふ)と其(それ)に	見えければ、ふと其(それ)に	7
887	あなや僵(たふ)れむと為(し)たり。	あなや僵(たふ)れんと為(し)たり。	8
888	御免遊(ごめんあそ)ばしまして。]	御免(ごめん)あそばしまして。]	13
889	こたびは薄氷(はくひよう)を	這度(こたび)は薄氷(はくひよう)を	80 2
890	其帯(そのおび)の解(と)けたるを見(み)て、	其の帯の解(と)けたるを見て、	2
891	「一寸(ちよいと)お待(ま)ちなさい。」	「些(ちよつ)とお待(ま)ちなさい。」	4
892	「一寸(ちよいと)お待(ま)ちなさい。」	「些(ちよつ)とお待(ま)ちなさい。」	4
893	「一寸(ちよいと)お待(ま)ちなさい。」	「些(ちよつ)とお待(ま)ちなさい。」	4
894	進寄(す、みよ)りて結(むす)ばむとするを、	進寄(す、みよ)りて結(むす)ばんとするを、	5
895	さあ、	さあ	7
896	凝(じつ)として。]	熟(じつ)として。]	7
897	手(て)を煩(わづらは)せし彼(かれ)の心(こゝろ)は	手を勞(わづらは)せし彼の心は、	9
898	此(この)	此の	10
899	慈(やさし)さを	優(やさ)しさを	10
900	櫻(さくら)の花(はな)の香(かをり)	櫻の花の薫(かをり)	10
901	あらむやうにも	あらんやうにも	10
902	覚(おぼ)ゆるなりけり。	覚(おぼ)ゆるなり。	11
903	彼(かれ)は女(おんな)四書(しよ)の	彼は女四書(ぢよし、よ)の	11
904	身(み)の華(はな)とは為(な)すに足(た)らず、	身の華(くわ)と為(な)すに足(た)らず、	12
905	めでたき人(ひと)にも	愛(め)でたき人にも	81 2
906	遇(あ)へるかなと、	遇(あ)へるかなと	2
907	したゝかに	絶(したゝ)かに	2
908	窓(まど)に寄行(よりゆ)きて、	窓に寄(よ)り行きて、	3
909	効々(かひ々)しく	効々(かひ々)しく	3
910	一番見晴(いちばんみはらし)が宜(よろ)しいので	一番見晴(みはらし)が宜(よろ)しいので	5
911	「まあ、好(い)い	「まあ、好(よ)い	7
912	氣色(けしき)ですことね!	景色(けしき)ですことね!	7
913	木犀(もくせい)が匂(にお)ひますね、	木犀(もくせい)か匂(にお)ひますね、	8
914 (四)の三	此秋霽(このしゅうせい)の朗(ほがらか)に	此の秋霽(しゅうせい)の朗(ほがらか)に	9
915[明30.9.28]	夢(ゆめ)など見(み)るらむ	夢(ゆめ)など見(み)らん	10
916	其姿(そのすがた)を照(てら)して、	其の姿(すがた)を照(てら)して、	11
917	真珠(しんじゆ)は焚(も)ゆるが如(ごと)く	真珠(しんじゆ)は焚(も)ゆる如く	11
918	澄(す)みに澄(す)みて、玉(たま)や延(の)べたと想(おも)はしむる添景(てんけい)を得(え)たる彼(かれ)の	澄(す)みに澄(す)みたる點景(てんけい)の中(うち)に立てる彼の	12
919	白(しろ)き花(はな)を活(い)けたる風情(ふぜい)あり。	白(しろ)き花(はな)を挿(さ)したらん風情(ふぜい)あり。	13
920	白(しろ)き花(はな)を活(い)けたる風情(ふぜい)あり。	白(しろ)き花(はな)を挿(さ)したらん風情(ふぜい)あり。	13
921	不束(ふつゝ、か)に眺入(ながめ)りたり。	不束(ふつゝ、か)に眺(ながめ)入りつ。	82 1
922	其目(そのめ)の爽(さはやか)にして	其の目の爽(さはやか)にして	2
923	滴(た)るばかり	滴(したゝ)るばかり	2
924	其眉(そのまゆ)の思(おも)へるまゝに	其の眉(まゆ)の思(おも)へるまゝに	2
925	其口元(そのくちもと)の蒼(つぼみ)ながら	其の口元の蒼(つぼみ)ながら	3
926	其鼻(そのはな)の似(に)るものも無(な)く	其の鼻(はな)の似(に)るものも無く	4
927	いと好(よ)く	最(い)も好(よ)く	4
928	瑩澤(つや、か)に	瑩澤(つや、か)に、	6
929	髮際(はつぎは)の少(すこ)しく	髮際(はへぎは)の少(すこ)しく	6
930	自(おのづ)から愁(うれ)はしう	自分(おのづ)から愁(うれ)はしう	8
931	可憐(いたは)しきことなり。	可傷(いたは)しきことなり。	9
932	心私(こゝろひそか)に驚(おどろ)きつゝ、	心に驚(おどろ)きつゝ、	10
933	其物(そのもの)を奪(うば)はむと覘(ねら)ふが如(ごと)く、	其の物を奪(うば)はんと覘(ねら)ふが如く、	11
934	我(われ)を失(う)しなへる	吾(われ)を失(う)へる	12
935	此貴婦人(このきふじん)の傍(かたはら)には	此の貴婦人(きふじん)の傍(かたはら)には	13
936	彼(かれ)は已(おのれ)の	彼は己(おのれ)の	83 1
937	思(おも)ひて已(や)まざりき。	思(おも)ひて止(や)まざりき。	2

938	實(げ)に此奥方(このおくがた)なれば、	實(げ)に此の奥方(おくがた)なれば、	2
939	金時計(きんどけい)を持(も)てるも、	金時計(きんとけい)持てるも、	2
940	真珠(しんじゆ)の襟留(えりどめ)も、	真珠(しんじゆ)の襟留(えりとめ)せるも、	3
941	真珠(しんじゆ)の襟留(えりどめ)も、	真珠(しんじゆ)の襟留(えりとめ)せるも、	3
942	指環(ゆびわ)を五つ迄(まで)穿(さ)せるも、	指環(ゆびわ)を五つまで穿(さ)せるも、	3
943	馬車(ばしや)に乗(の)りて行(ゆ)かむとも、	馬車に乗(の)りて行(ゆ)かんとも、	4
944	何(なに)をか愧(は)づべき。	何をか愧(は)づべき。	4
945	此婢娟(このあでやか)に	此の婢娟(あでやか)に	5
946	生得(うまれえて)、	生れ得て、	5
947	而(しか)も此(この)	而(しか)も此の	5
948	世(よ)の幸(さいはひ)とを	世(よ)の幸(さち)とを	5
949	恁(かく)もいみじき人(ひと)もあるもの乎(か)。	恁(かく)も痛(いみ)じき人もあるもの乎(か)。	6
950	恁(か)う生(うま)れたらむには、	恁(か)う生(うま)れたらんには、	8
951	其幸(そのさいはひ)は	其の幸(さいはひ)は	8
952	其(その)	其の	11
953	持成(もてなし)にとて	欸待(もてなし)にとて	11
954	佛蘭西(フランセエ)より	佛蘭西(フランス)より	12
955	持歸(もちかへ)られし	持ち歸られし	12
956	取出(とりいだ)して慌忙(あわたづ)しく薦(すゝ)めたり。	取出して薦(すゝ)めたり。	13
957	乳白色(にうはくしよく)の玉(ぎよく)もて	乳白色(にふはくしよく)の玉(ぎよく)もて	84 2
958 (四)の四	遠(とほ)き限(かぎ)りは	遠(とお)き限(かぎり)は	5
959 [明30.9.29]	彼(かれ)は此鏡(このグラス)の	彼は此の鏡(グラス)の	6
960	「彼處(あすこ)に遠(とほ)く些(ほん)の	「那處(あすこ)に遠(とほ)く些(ほん)の	7
961	顕然(はつきり)見(み)えて、	昭然(はつきり)見(み)えて、	8
962	宿(とま)つて居(ゐ)るのが、手(て)に取(と)るやう。」	宿(とま)つて居(ゐ)るのが手に取るやう。」	9
963	此位(このくらゐ)の	此の位の	10
964	眼鏡(めがね)は	眼鏡(めがね)は	10
965	多度(たんと)無(な)いのでございますうで、	多度(たんと)御座(ござ)いませんうで、	11
966	人形(にんぎやう)が能(よう)く見(み)えるのでございます。	人形(にんぎやう)か能(よ)く見(み)えるのでございます。	12
967	然(さ)やう思(おも)ふのでございますが、	然(さ)やう思(おも)ひますのでございますが、	13
968	然(さ)ぞ宜(よろ)しうございませう。	然(さ)ぞ宜(よろ)しうございませう。	13
969	混雜(ごちやゝ)になつて	紛雜(ごちやゝ)になつて	85 3
970	全然(すつかり)騙(だま)されましたのでございます。	全然(すつかり)騙(だま)されましたのでございます。	7
971	其眼鏡(そのめがね)を	其の眼鏡(めがね)を	9
972	仰(おほ)せられますので、……………」	仰(おほ)せられますので……………」	11
973	「何有(なにあ)に、ちつとも	「何有(な□)に、ちつとも	86 3
974	御親類方(ごしんるゐがた)も	御親類方(ごしんるゐかた)も	8
975	御出(おい)で	御在(おい)で	8
976	在(ゐら)つしやいましたが、	被居(ゐらつしや)いましたが、	8
977	皆遣(みなや)つて	皆為(みんななす)つて	8
978	忪(こら)へかねて失笑(しつせう)しつ。	忪(こら)へかねて失笑(しつせう)せり。	10
979	それで、推付(おしつ)けやうが悪(わる)い、	それで、未(ま)だ推付(おしつ)けやうが悪(わる)い、	11
980	仰(おほ)せられるものでございますから、	仰(おほ)せられるものでございませから、	12
981	泡田(あわだ)と	速水(はやみ)と	13
982	申(まを)す者(もの)は、	申(まを)す者は	13
983	彼(かれ)の喜(よろこ)べるを	彼の歎(よろこ)べるを	87 2
984	見(み)て、	見るより	2
985	薦(すゝ)めて、	薦(すゝ)めし後(のち)、	2
986	猶(なほ)語續(かたりつゞ)けつ。	さて語り続(つゞ)くるやう。	2
987	御自身(ごじん)に遊(あそ)ばして御覽(ごらん)で、なるほど	御自身(ごじしん)に遊(あそ)ばして御覽(ごらん)でなるほど	5
988	聞(きこ)えない、	聞(きこ)えない。	5
989	如何(どう)したのか	奈何(どう)したのか	5
990	知(し)らんなどゝ、それは、	知らんなんて、それは、	5
991	故(わざ)とお考(かむが)へ遊(あそ)ばして、	故(わざ)とお考(あそ)ばして、	7
992	仰(おほ)せられましたのを、	仰(おほ)せられたるのを、	9
993	其名器(そのめいき)を手(て)にし、	其の名器(めいき)を手(て)にし、	11
994	其耳(そのみゝ)に	其の耳に	11
995	親(したし)く睹(み)たらむにも	親(したし)く睹(み)たらんにも	12
996	お面白(おもしろ)い方(かた)で在(ゐら)つしやいますから、	お面白い(おもしろ)い方で被在(ゐらつしや)いますから、	13
997	お面白(おもしろ)い方(かた)で在(ゐら)つしやいますから、	お面白い(おもしろ)い方で被在(ゐらつしや)いますから、	13
998	「それでも此(この)二三年(ねん)は	それでも此(この)二三年(ねん)は	88 2
999	お顔(かほ)をして在(ゐら)つしやるので	お顔(かほ)をして被在(ゐらつしや)るので	3
1000	お顔(かほ)をして在(ゐら)つしやるので	お顔(かほ)をして被在(ゐらつしや)るので	3

1001(四)の五 貴婦人(きふじん)は徐(しづか)に	彼は徐(しづか)に	7
1002[明30.9.30]起上(たちあがり)けるが、	立ち上りけるが、	7
1003 此度(こたび)は	今回(こたび)は	7
1004 眺(なが)めむとて	眺(なが)めんとして	7
1005 双眼鏡(そうがんきやう)を	双眼鏡(さうがんきやう)を	7
1006 取直(とりなほ)してけり。	取り直してけり。	8
1007 筒(つゝ)の目標(あてど)も	筒(つゝ)の當所(あてど)も	8
1008 無(な)かりければ、	無かりければ、	8
1009 鏡面(レンズ)に入來(いりきた)りて、	鏡面(レンズ)に入り來て	9
1010 其儘(そのまゝ)仔細(しさい)に視(み)たりしに、	其儘(そのまゝ)子細(しさい)に視(み)たりしに、	10
1011 見(み)えけるを、	見ゆるを、	11
1012 見(み)えけるを、	見ゆるを、	11
1013 心(こゝろ)も無(な)くて	心とも無く	11
1014 貴婦人(きふじん)は差向(さしむ)けたる手(て)を	貴婦人(きふじん)は差し向けたる手を	13
1015 葉越(はこし)なれば左右(とかく)に遮(さへぎ)られて思(おも)ふ	枝葉(えだは)の遮(さへぎ)りて左右(とかく)に思ふ	89 1
1016 漸(やうや)く其顔(そのかほ)の	漸(やうや)く其顔の	2
1017 髪(かみ)は黒(くろ)けれど眞額(まつかう)の	髪(かみ)は黒けれども眞額(まつかふ)の	3
1018 肖(に)たりとは未(おろか)や、得忘(えわす)れぬ	肖たりとは未(おろか)や得忘れぬ	5
1019 其(そ)の面影(おもかげ)と、	其の面影なりと、	6
1020 戀(こひ)しさと可懐(なつかし)さの	戀(こひ)しさと可懐(なつかし)さとの	8
1021 其外(そのほか)ならざりし	其の外ならざりし	9
1022 月(つき)は朧(おぼろ)なりしかど。	月は朧(おぼろ)なりしかど、	10
1023 筐(かたみ)にして、	形見(かたみ)にして、	11
1024 心(こゝろ)はつゆも昔(むかし)に	心は毫(つゆ)も昔に	12
1025 然(さ)までは積(つ)みけむ、	然(さ)までは積(つ)みけん、	90 1
1026 異(あや)しくも物々(もの々)しき	異(あや)しうも物々しき	2
1027 幸薄(さいはひうす)く暮(くら)さるゝか、	幸薄(さちうす)く暮(くら)さるゝか、	2
1028 身(み)を寄(よ)せらるゝならむなど、	身を寄(よ)せらるゝならんなど、	4
1029 所為無(せむな)くハンカチフを	所為(せん)無くハンカチフを	8
1030 「あれ、如何(いかゞ)遊(あそ)ばしました。」	「あれ、如何(いか)が遊(あそ)ばしました。」	10
1031 「いえ、何有(なにあ)に、私(わたし)は	「いえ、何有(な□)に、私(わたくし)は	11
1032 餘(あま)り物(もの)を贖(みつ)めて居(を)ると、如何(どう)かすると	餘(あま)り物を贖(みつ)めて居ると、奈何(どう)かすると	11
1033 涙(なみだ)の出(で)ることが	涙(なみだ)の出ることが	12
1034 あるものです。」	あるので。」	12
1035 直(ぢき)に瘥(なほ)ります。	直(ぢき)に癒(なほ)ります。	91 1
1036 憚(はゞかり)ですが	憚(はゞかり)ですが	1
1037 驀地(ましぐら)に行(ゆ)かむとす。	驀地(ましぐら)に行かんとす。	3
1038 階子(はしご)を下行(おりゆ)くと	階子(はしご)を下り行くと	8
1039 再(ふたゝ)び眼鏡(そうがんきやう)を取(と)りて、	再(ふたゝ)び鏡(グラス)を取りて、	8
1040 面影(おもかげ)を望(のぞ)みけるが、	面影(おもかげ)を望(のぞ)みしが、	9
1041 文色(あいろ)も分(わ)かずなりぬ。	忽ち文色(あいろ)も分(わ)かずなりぬ。	9
1042 彼(かれ)□□□□椅子(いす)に	彼(かれ)は静無(しどな)く椅子(いす)に	10
1043 (四)の六 此(こ)の貴婦人(きふぢん)こそ	此の貴婦人こそ	13
1044[明30.10.1]今日(けふ)夫(を)つと唯繼(たゞつぐ)と俱(とも)に	今日(けふ)夫(を)つと唯繼(たゞつぐ)と俱(とも)に	13
1045 シヤンペーンを酌交(くみかは)す	シヤンペンなど酌交(くみかは)す	92 1
1046 シヤンペーンを酌交(くみかは)す	シヤンペンなど酌交(くみかは)す	1
1047 遊覽(いうらん)せむとて	遊覽(いうらん)せんとして	2
1048 遊覽(いうらん)せむとて	遊覽(いうらん)せんとして	2
1049 出(い)でたるにぞありける。	出(い)でしにぞありける。	2
1050 日本寫眞會員(にっぽんしゃしんくわいゐん)たるに因(よ)れり。	日本寫眞會々員(にっぽんしゃしんくわいゐん)たるに因(よ)れり。	4
1051 二人(ふたり)の語(かた)り興(きよう)ずるは、	二人(ふたり)の興(きよう)に入れるは、	4
1052 其(その)	其の	5
1053 事(こと)なるべし。	物語(ものがたり)なるべし。	5
1054 富山(とみやま)は此殿(このと)と	富山(とみやま)は此の殿(このと)と	5
1055 親友(しんいう)たらむことを	親友(しんいう)たらんことを	5
1056 親友(しんいう)たらむことを	親友(しんいう)たらんことを	5
1057 其意(そのこゝろ)を獲(え)むと力(つと)めけるより、	其の意(そのこゝろ)を獲(え)んと力(つと)めけるより、	6
1058 交(まじ)はるべき人(ひと)とは思(おも)はざれど、	交(まじ)はるべき人(ひと)とも思(おも)はざれど、	7
1059 鑒定(かんてい)を請(こ)ふを名(な)として、	鑒定(かんてい)を乞(こ)ふを名(な)として、	9
1060 (なし)	曩(さき)に	9
1061 饗(もてな)しければ、其(その)	饗(もてな)す事(こと)ありければ、其(その)	10
1062 夫婦(ふうふ)を招待(せうだい)せるなりけり。	夫婦(ふうふ)を招待(せうだい)せるなり。	11
1063 其心(そのこゝろ)を	其の心を	12

1064	測(はか)りかねつ。	測(はか)りかねて、	12
1065	彼為(かれため)にする所(と□ろ)	彼為(かれため)にする所	13
1066	あるらむなど	あらんなど	13
1067	其實(そのじつ)	其の實(じつ)	93 1
1068	敢(あへ)て為(ため)にせむにも	敢(あへ)て為(ため)にせんとにも	1
1069	其友(そのとも)を擇(えら)べり。	其の友を擇(えら)べり。	1
1070	其地位(そのちゐ)に於(おいて)、	其の地位(ちゐ)に於(おいて)、	2
1071	其名聲(そのめいせい)に於(おいて)、	其の名聲(めいせい)に於て、	2
1072	其家柄(そのいへがら)に於(おいて)、	其の家柄(いへがら)に於て、	3
1073	或(ある)は其資産(そのしさん)に	或(ある)は其の資産(しさん)に	3
1074	取(と)るべき者(もの)にあらざれば	取(と)るべき者ならざれば	3
1075	其友(そのとも)を利用(りよう)せし事(こと)など	其の友を利用(りよう)せし事など	6
1076	利用(りよう)せむにはあらで、	利用(りよう)せんとにはあらで、	8
1077	交(まじはり)は求(もと)むるならむ。	交(まじはり)は求(もと)むるならん。	9
1078	其名簿(そのめいぼ)の中(うち)に	其名簿(めいぼ)の中(うち)に	9
1079	一箇(か)の	一箇(いつか)の	9
1080	憂(うれひ)を同(おなじ)うせむとは	憂を同うせんとには、	11
1081	此理(このり)に外(ほか)ならず。	此の理(り)に外ならず。	13
1082	其友(そのとも)に	其の友に	94 2
1083	満足(まんぞく)するとも、	満足(まんぞく)すとも、	2
1084	其妻(そのつま)に於(お)けるも	其の妻に於(お)けるも	2
1085	今彼(いまかれ)の最愛(さいあい)の妻(つま)は、	彼が最愛(さいあい)の妻は、	3
1086	其一人(そのひとり)を	其の一人(ひとり)を	3
1087	打俯(うちふ)したる悲歎(なげき)の足(た)らざるを、	打俯(うちふ)したりし悲歎(なげき)の足(た)らざるを	7
1088	此(こゝ)に続(つ□)がむと	此(こゝ)に続(つ□)かんと	7
1089	此(こゝ)に続(つ□)がむと	此(こゝ)に続(つ□)かんと	7
1090	卓子(テーブル)の周圍(めぐり)を	卓子(テエブル)の周圍(めぐり)を	9
1091	懷中藥(くわいちゆうぐすり)など	懷中藥(くわいちゆうぐすり)など	10
1092	外方(とのかた)を打眺(うちなが)めたりしが、	外方(とのかた)を眺(なが)めたりしが、	11
1093	「ちよいと、彼處(あすこ)に、それ、	「ちよいと、那處(あすこ)に、それ、	12
1094	話(はなし)をして居(を)る所(ところ)も	話をしてお在(いで)の所も	12
1095	御殿(ごてん)の續(つゞ)きでございますか。」	御殿(ごてん)の續(つゞ)きなのでござい。」	12
1096	恁(かく言(い)ひて直(ぢき)に静緒(しづ)の覺(さと)り顔(がほ)に 領(うなづ)くを、宮(みや)は見(み)てぞ心(こゝろ)に領(うなづ)ける。	(二行ヌケ)	
1097 (四)の七	「はい、お邸内(やしきうち)なのでございます。	「はい、お邸内(やしきうち)でございます。	95 3
1098 [明30.10.2]	此(こ)の下(した)から直(づつ)とお宅(たく)の方(ほう)へ	此の下(した)から直(すぐ)とお宅の方(ほう)へ	6
1099	「あゝ、然(さ)うですか。では些(ち)とお庭(には)の	「あゝ、然(さ)うですか。では些(ちつ)とお庭の	9
1100	御覽遊(ごらんあそ)ばすやうな所(ところ)は	御覽(ごらん)あそばすやうな所は	11
1101	此(こゝ)を去(さ)らむとして	此(こゝ)を去(さ)らんとして	13
1102	彼處(あすこ)にお父様(とうさま)の	那處(あすこ)にお父様(とつさま)の	96 1
1103	お話(はなし)をして在(あ)らつしやるのは、	お話をして被在(あらつしやる)のは	2
1104	明(あか)さざりき。	明(あか)さざれば、	3
1105	「あれは、番町(ばんちやう)の方(ほう)の	「他(あれ)は番町(ばんちやう)の方(ほう)の	5
1106	「あれは、番町(ばんちやう)の方(ほう)の	「他(あれ)は番町(ばんちやう)の方(ほう)の	5
1107	其違(そのたが)へるを訝(いぶか)るやうに	其の違(たが)へるを訝(いぶか)るやうに	8
1108	此物語(このものがたり)に因(よ)りて	此の物語(ものがたり)に因(よ)りて	97 1
1109	便(たより)はあらむと、	便(たより)はあらんと、	2
1110	心地(こゝち)せるなりけり。	心地(こゝち)せるなり。	3
1111	此後(このゝち)相見(あいみ)むことは	此後(このゝち)相見んことは	4
1112	餘所(よそ)ながら見(み)て別(わか)れむは	餘所(よそ)ながら見て別(わか)れんは	5
1113	設(よ)し	設(も)し	6
1114	彼(かれ)の眼(まなこ)に睨(にら)まれむとも、	彼の眼(まなこ)に睨(にら)まれんとも、	6
1115	附添(つきそへ)さへある寶(まらうど)の身(み)にして、	附添(つきそひ)さへある寶(まらうど)の身にして、	9
1116	手代風情(てだいふぜい)と而(しか)も其邸内(そのていない)の	手代風情(てだいふぜい)と、而(しか)も其の邸内の	10
1117	恥辱(ちじよく)を受(う)くるならむ。	恥辱(ちじよく)を受(う)くるならん。	12
1118	恥辱(ちじよく)ならむには、	恥辱(ちじよく)ならんには、	12
1119	此面(このおもて)に	此の面(おもて)に	13
1120	覚悟(かくご)はあれど、奇遇(きぐう)は	覚悟(かくご)なれど、奇遇(きぐう)は	13
1121	愚(おろか)に躁(はやま)るべき。	愚(おろか)に躁(はやま)るべきや。	98 2
1122	辛(つら)くとも思止(おもひや)まむと胸(むね)は	辛(つら)くとも思止(おもひや)まんと胸は	3
1123	邸内(ていない)を一周(ひとめぐり)	邸内を一周(いつしう)	4
1124	せむと、	せんと、	4
1125	詰所(つめしよ)の軒端(のきば)を指(ゆびさ)して、	詰所(つめしよ)の軒端(のきば)を指(さ)して、	6

1126	「彼處(あすこ)が唯今(たゞいま)の客(きやく)の	「那處(あすこ)が唯今の客の	7
1127	参(まゐ)つて居(を)る	参つて居ります	7
1128	處(ところ)でございます。」	所でございます。」	7
1129 (四)の八	此(こゝ)に出来(いできた)らば	此に出で来らば	11
1130[明30.10.1]	歩(あゆみ)は運(はこ)べども地(ち)を	歩(あゆみ)は運(はこ)べど地(ち)を	12
1131	遊覧(いうらん)せむとありしには似(に)で、	遊覧(いうらん)せんとありしには似(に)で、	99 1
1132	お悪(わる)くて	お悪(わる)う	4
1133	在(ゐら)つしやいますか。」	被在(ゐらつしや)いますか。」	4
1134	在(ゐら)つしやいますか。」	被在(ゐらつしや)いますか。」	4
1135	胸(むね)が	胸が少し	5
1136	不快(わるい)ので。」	悪(わる)いので。」	5
1137	「それはお宜(よろ)しうございませぬ。	「それはお宜(よろし)うございませぬ。	7
1138	お歸(かへ)り遊(あそ)ばしました方(ほう)が	お歸(かへ)り遊(あそ)ばしました方(ほう)が	8
1139	お宜(よろ)しうございませう。」	お宜(よろし)うございませう。」	8
1140	未(ま)だ可(よ)いので、	未(ま)だ可(いい)ので、	9
1141	もう少(すこ)し歩(ある)いて	もう些(ち)と歩(ある)いて	9
1142	此(こゝ)がお宅(たく)ですか。」	此方(こちら)がお宅(たく)ですか。」	10
1143	「まあ、綺麗(きれい)な!	「まあ、奇麗(きれい)な!	12
1144	前(さき)は道(みち)あれども賓(まらうど)の足(あし)を	前(さき)は道(みち)あれども、賓(まらうど)の足を	100 1
1145	犬(いぬ)の睡(ねむ)れるなど見(み)るも	犬(いぬ)の睡(ねむ)れるなど見るも	4
1146	急(いそ)ぎ引返(ひきかへ)さむとせるなり。	急(いそ)ぎ返(かへ)さんとせるなり。	4
1147	急(いそ)ぎ引返(ひきかへ)さむとせるなり。	急(いそ)ぎ返(かへ)さんとせるなり。	4
1148	はや返(かへ)さむとすると與(とも)に	はや返(かへ)さんとすると與(とも)に	5
1149	其心(そのこゝろ)を	其の心を	5
1150	襲(おそ)ひぬ。	襲(おそ)へり。	5
1151	此一筋道(このひとすぢみち)を行(ゆ)くなれば、	此の一筋道(ひとすぢみち)を行(く)なれば、	7
1152	遁(のが)れむやうはあらで	遁(のが)れんやうはあらで	8
1153	如何(いか)にせむ。	如何(いか)にせん。	9
1154	見付(みつ)けて驚(おどろ)かざらむ。	見付けて驚(おどろ)かざらん。	10
1155	恨(うらみ)を負(お)へる我身(わがみ)なれば、	恨(うらみ)を負(お)へる我が身(み)なれば、	11
1156	其驚(そのおどろき)は	其の驚駭(おどろき)は	13
1157	如何(いか)ならむ、	如何(いか)ならん、	13
1158	其(その)	其の	13
1159	憤(いきどほり)は	憤懣(いきどほり)は	13
1160	如何(いか)ならむ。	如何ならん。	13
1161	凄(すさま)しく激(げき)せるを見(み)ば、	凄(すさま)しう激(げき)せるを見(み)ば、	101 1
1162	我(われ)を怪(あやし)むらむ。	我(われ)を怪(あやし)むらん。	2
1163	恸(か)く思浮(おもひうか)ぶると	恸(か)く思(おも)ひ浮(うか)ぶると	2
1164	身内(みうち)は熱(ね)して	身内(みうち)は熱(ね)つして	2
1165	脇道(わきみち)もあらば	脇道(わきみち)もあらば	4
1166	避(さ)けむと、	避(さ)けんと、	4
1167	有(あ)らずと云(い)ふ。	有(あ)らずと言(い)ふ。	5
1168	此死地(このしち)に	此の死地(しち)に	5
1169	目(め)を側(そば)めたり、	目(め)を側(そば)めたり。	7
1170	其目(そのめ)を	其の目を	7
1171	心(こゝろ)も不壹(そゞろ)に	心(こゝろ)も漫(そゞろ)に	8
1172	無事(ぶじ)に過(す)ぎなばと	無事(ぶじ)に過(す)ぎなば、と	9
1173	其角(そのかど)より	其の角(かど)より	9
1174	頭(あ)られたり。	頭(あ)らはれつ。	9
1175 (四)の九	是(これ)より歸(かへ)りて	之(これ)より歸(かへ)りて	11
1176[明30.10.4]	お峯(みね)が前(まへ)は好(よ)きやうに	お峯(みね)か前(まへ)は好(よ)きやうに	11
1177	私(ひそか)に為(せ)むやうあらむなど	私(ひそか)に為(せ)んやうも有(あ)らんなど	12
1178	貫(くわん)一(いち)は	貫(くわん)一(いち)は	12
1179	通学(つうがく)に馴(なら)されたる	通学(つうがく)に馴(なら)されし	13
1180	早足(はやはし)を	疾足(はやはし)を	13
1181	塗籠(ぬりごめ)の角(かど)より	塗籠(ぬりごめ)の角(かど)より	102 1
1182	一間(けん)ばかりに近(ちかつ)けば、	一間(いつけん)ばかりに近(ちかつ)けば、	6
1183	宵月(よづき)の	宵月(よづき)の	8
1184	映(うつ)る如(ごと)く、	映(うつ)る如(ごと)く、	8
1185	自(みづか)ら分(わ)かぬ心地(こゝち)なりけり。	自(みづか)ら分(わ)かぬ心地(こゝち)してき。	12
1186	行過(ゆきす)ぎむとする際(きは)に、	行過(ゆきす)ぎんとする際(きは)に、	13
1187	貴婦人(きぶじん)を一瞥(いちべつ)せり。	貴婦人(きぶじん)を一瞥(いちべつ)せり。	103 1
1188	合(あ)ひぬ。	合(あ)へり。	1

1189	可懐(なつ□し)さと	可懐(なつかし)さと	5
1190	可恐(おそろし)さと	(ナシ)	5
1191	可耻(はづかし)さと	可耻(はづかし)さとを	5
1192	何(なに)に喩(たと)へむやうも無(な)く、	何に喩(たと)へんやうも無く、	5
1193	思(おも)ふまゝに苛(さいな)まれむをと、	思ふまゝに苛(さいな)まれんをと、	7
1194	此誠(このまこと)は通(つう)ぜよかしと、	此の誠(まこと)は通(つう)ぜよかしと、	8
1195	事(こと)の秘密(ひみつ)なるべきを思(おも)へば、	事の秘密(ひみつ)なるを思へば、	12
1196	問出(とひい)でむも可(よし)や否(あし)やを	問出(とひい)でんも可(よし)や否(あし)やを	104 1
1197	行(ゆ)くのみ。然(さ)れど恚(か)くて猶(なほ)そあるき。せむは悪(あし)からむ、と有(あ)り。然(さ)すがに彼(かれ)は氣遣(きづかは)しくて、庭口(には)はぐち)に來(き)にける時(とき)漸(やうや)く口(くち)を開(ひら)きつ。	行くのみなりしが、漸(やうや)く庭口(には)はぐち)に來(き)にける時、	1
1198	お悪(わる)くて在(ゐら)つしやいますが、	お悪(わる)くて被在(ゐらつしや)いますが、	3
1199	お悪(わる)くて在(ゐら)つしやいますが、	お悪(わる)くて被在(ゐらつしや)いますが、	3
1200	お座敷(ざしき)へお出遊(いであそ)ばしまして、	お座敷(ざしき)へお出あそばして、	3
1201	「はい、お蒼(あを)くて	「はい、眞蒼(まつさを)で	6
1202	在(ゐら)つしやいます。」	被在(ゐらつしや)います。」	6
1203	在(ゐら)つしやいます。」	被在(ゐらつしや)います。」	6
1204	「あ、然(さ)うですか、	「あ、然(さう)ですか、	7
1205	然(しか)し今日(けふ)は	然(しか)し、今日(けふ)は	9
1206	お世話(せわ)になりまして、お蔭様(かげさま)で	お世話(せわ)になりましてお蔭様(かげさま)で	10
1207	「あれ、飛(と)んでもない事(こと)を	「あれ、取(と)んでもない事を	11
1208	「あれ、飛(と)んでもない事(こと)を	「あれ、取(と)んでもない事を	11
1209	其(その)	其の	12
1210	無名指(むな指)より	無名指(むめいし)より	12
1211	金(きん)の指環(ゆびわ)を抜取(ぬきと)りて、	黄金(きん)の指環(ゆびわ)を抜取(ぬきと)りて、	12
1212	懐紙(ふところ)がみに包(つゝ)みたるを、	懐紙(ふところ)かみに包(つゝ)みたるを、	13
1213	お父様(とつさま)にも	阿父様(おとつさま)にも	105 5
1214	お母様(つかさま)にも、	阿母様(おつかさま)にも、	5
1215	手込(てごめ)に	手籠(てごめ)に	7
1216	取(と)らせて	取(と)らせて	7
1217	(四)の十 此散歩(このさんぽ)の	此の散歩(さんぽ)の	10
1218	[明30.10.5] 人目(ひとめ)を遣(のが)れむと計(はか)れるなり。	人目を遣(のが)れんと計(はか)れるなり。	11
1219	醉(よ)はざらむと欲(ほつ)するに	醉(よ)はざらんと欲(ほつ)するに	12
1220	胸(むね)に鏤(ゑ)られたらむやうに	胸に鏤(ゑ)られたらんやうに	13
1221	朽(く)ちも果(は)てざりし	朽(く)ちも果(は)てざりし	106 1
1222	募(つの)りに募(つの)らむとする	募(つの)りに募(つら)んとする	2
1223	苦痛(くるしみ)を齋(もたら)して、	痛苦(くるしみ)を齋(もたら)して、	2
1224	盡(ことへ)く	盡(ことへ)く	3
1225	其(その)	其の	3
1226	念頭(ねんとう)に	心頭(しんとう)に	3
1227	我家(わが)いへに	我が家(や)に	5
1228	我家(わが)いへに	我が家(や)に	5
1229	唯獨(たゞひとり)	獨(ひとり)	5
1230	居(ゐ)たるぞ可(よ)き。	居(ゐ)たらんぞ可(よ)き。	5
1231	強(し)ひて楽(たの)しまむなど、	強(し)ひて楽(たの)しまんなど、	6
1232	あな可煩(わづらは)しと	あな可煩(わづらは)しと、	6
1233	築山(つきやま)の	築山(つきやま)	8
1234	陰(かげ)に野路(のち)を	陰(かげ)の野路(のち)を	8
1235	葛(くづ)の花咲(はな)きて、	葛(くづ)の乱(みだ)れ生(お)ひて、	8
1236	水引(みづひき)、	金線草(みづひき)、	9
1237	おしろいの色々(いろ々々)、	紫茉莉(おしろい)の色々、	9
1238	茅萱(ちがや)、	茅萱(かや)、	9
1239	汀(みぎは)に、	汀(みぎは)なる	10
1240	汀(みぎは)に、	汀(みぎは)なる	10
1241	胡麻竹(ごまだけ)の一叢(ひとむら)	胡麻竹(ごまたけ)の一叢(ひとむら)	10
1242	生茂(おひしげ)れるに	茂(しげ)れるに	10
1243	見(み)え隠(かく)れして、	隠(みえ)かくれして、	11
1244	見(み)え隠(かく)れして、	隠(みえ)かくれして、	11
1245	苔蒸(こけむ)す	苔蒸(こけむ)す	11
1246	艱(なや)ましげに	艱(なやま)しげに	12
1247	憇(いこ)ひたり。	憇(いこ)へり。	12
1248	静緒(しづを)の	彼は静緒の	13
1249	「あなたも	貴方(あなた)も	107 1

1250	お掛(か)けなさい。	お掛(か)けなさいな。	1
1251	其色(そのいろ)の	其の色の	3
1252	先(さき)にも	前(さき)にも	3
1253	何(なに)に傷(きづ)きてや少(すこ)しく	何に傷(きづ)きてや、少しく	3
1254	何(なに)に傷(きづ)きてや少(すこ)しく	何に傷(きづ)きてや、少しく	3
1255	太(いた)く驚(おどろ)けり。	太(いた)く驚(おどろ)きて、	4
1256	太(いた)く驚(おどろ)けり。	太(いた)く驚(おどろ)きて、	4
1257	懐中鏡(くわいちゆうかづみ)を取出(とりいだ)して、	懐鏡(ふところかづみ)取出して、	7
1258	過(す)ぎし故(ゆゑ)なりと知(し)りぬ。	過(す)ぎし故ぞと知りぬ。	7
1259	此色(このいろ)を隠(かく)さむと	此の色を隠(かく)さんと	9
1260	為(す)らむ、	為(す)らん、	9
1261	己(おのれ)を	己(おのれ)を	10
1262	嘲(あざけ)るなりけり。	嘲(あざけ)るなりき。	10
1263	静緒(しづを)は	彼は	13
1264	走(はし)り行(ゆ)きて、	走り行き、	13
1265	木隠(こがくれ)に語(かた)らふ氣勢(けはひ)して、	木隠(こがくれ)に語(かたら)ふ氣勢(けはひ)して、	13
1266	返(かえ)し來(く)ると	返(かえ)り來(く)ると	108 1
1267	お座敷(ざしき)で先程(さきほど)からお待兼(まちかね)で	「先程(さきほど)からお座敷ではお待兼(まちかね)で	2
1268	お座敷(ざしき)で先程(さきほど)からお待兼(まちかね)で	「先程(さきほど)からお座敷ではお待兼(まちかね)で	2
1269	在(ゐら)つしやいますから、	被在(ゐらつしや)いますさうで御座(ござ)いますから、	2
1270	在(ゐら)つしやいますから、	被在(ゐらつしや)いますさうで御座(ござ)いますから、	2
1271	在(ゐら)つしやいますから、	被在(ゐらつしや)いますさうで御座(ござ)いますから、	2
1272	在(ゐら)つしやいますから、	被在(ゐらつしや)いますさうで御座(ござ)いますから、	2
1273	「おや、然(さ)うでしたか。	「おや、然(さう)でしたか。	4
1274	席(せき)に着(つ)きて居(ゐ)たり。	席(せき)に着(つ)き居(ゐ)たり。	7
1275	一寸(ちよつと)	些(ちよつと)	10
1276	一寸(ちよつと)	些(ちよつと)	10
1277	お出下(いでくだ)さいませんか。	お出下(いでくだ)さいませんか。	10
1278	一枚寫(まいと)らして戴(いたゞ)きたい。」	一枚像(いちまいとら)して戴(いたゞ)きたい。」	10
1279	一枚寫(まいと)らして戴(いたゞ)きたい。」	一枚像(いちまいとら)して戴(いたゞ)きたい。」	10
1280	(四)の十一 いでや	いでや、	109 1
1281	[明30.10.6] 事(こと)の様(やう)を	事の様(やう)を	1
1282	見(み)むとて、	見んとて、	1
1283	ゆら〜と	慢々(ゆら〜)と	1
1284	葉卷(はまき)の半(なかば)燻(くゆ)りしを	葉卷(シガア)の半(なかば)燻(くゆ)りしを	2
1285	「あ、お前(まへ)其處(そこ)に	「あ、おまへ其處(そこ)に	4
1286	可(い)かんよ。	可(い)かんよ、	4
1287	何故(なぜ)歩(ある)いて	何為(なぜ)歩(ある)いて	4
1288	ついと躰(あらは)れたり。	衝(ついと)と躰(あらは)れたり。	6
1289	「可(い)けない! 彼處(あすこ)に	「可(い)けない! 那處(あすこ)に	7
1290	お手間(てま)は取(と)らせませんからさ、	お手間(てま)は取(とら)せませんから、	8
1291	お手間(てま)は取(と)らせませんからさ、	お手間(てま)は取(とら)せませんから、	8
1292	何卒(どうぞ)。」	どうぞ。」	8
1293	お手間(てま)は取(と)らせません、	お手間は取(と)らせません	9
1294	お手間(てま)は取(と)らせません、	お手間は取(と)らせません	9
1295	「此位(このくらゐ)に言(い)つて	「此の位(このくらゐ)に言(い)つて	11
1296	彼處(あすこ)へお連(つ)れ申(まを)して。」	那處(あすこ)へお連(つ)れ申(まを)して。」	13
1297	目(め)を以(も)て示(しめ)して、	目もて示(しめ)して、	110 1
1298	目(め)を以(も)て示(しめ)して、	目もて示(しめ)して、	1
1299	支度(したく)を	御支度(ごしたく)を	2
1300	なすつて下(くだ)すつたのに。	なすつて下(くだ)すつたのに、	2
1301	是非願(ぜひねが)ひな、	是非願(ぜひねが)ひな。	3
1302	此機械(このきかい)は	此の機械(きかい)は	4
1303	然(さ)うとも、	然(さう)とも、	5
1304	羞含(はにか)むことは無(な)いとも。	羞含(はにか)むことは無(な)いとも、	5
1305	見(み)て遣(や)るから、	見て遣(や)るから	7
1306	早(はや)くお出(いで)。	早くおいで。	7
1307	頬杖(ほ、づゑ)でも支(つ)いて、	頬杖(ほ、づゑ)でも拄(つ)いて、	7
1308	強(ひ)ひて否(いな)むべくも	強(し)ひて否(いな)むべくも	10
1309	唯繼(たゞつぐ)は望見(のぞみ)て、	唯繼(たゞつぐ)は望(のぞ)み見て、	11
1310	棒立(ぼうだち)になつて	棒立(ぼうだち)ちになつて	12
1311	眩(つぶや)きながら庭下駄(にはげた)を	眩(つぶや)きつゝ庭下駄(にはげた)を	111 1
1312	燈籠(とうろう)に倚(よ)らしめ、	燈籠(とうろう)に倚(よ)らしめ、	2

1313	頬杖(ほ、づゑ)を支(つ)かしめ、	頬杖を拄(つか)しめ、	2
1314	皺(しわ)める袂(たもと)を	袂(たもと)の皺(しわ)めるを	2
1315	伸(の□)し、	展(の)べ、	2
1316	伸(の□)し、	展(の)べ、	2
1317	伸(の□)し、	展(の)べ、	2
1318	裾(すそ)の振(よち)れを	裾(すそ)の縫(もつれ)を	3
1319	引繕(ひきつくろ)ひ、	引直(ひきなお)し、	3
1320	好(よ)しと	好(よ)しと、	3
1321	少(すこ)しく	少(すこ)しく	3
1322	其面(そのおもて)の可□(なやまし)げに	其の面(おもて)の可惱(なやまし)げに	4
1323	直(たゞち)に寄來(よりき)つ。	直(たゞち)に寄り來(よ)つ。	5
1324	「如何(どう)したのだい、	「奈何(どう)したのだい、	6
1325	お前(まへ)、	おまへ、	6
1326	其顔色(そのかほいろ)は?	其の顔色(かほいろ)は?	6
1327	何處(どこ)が	何處(どこ)か	6
1328	不快(わるい)、	不快(わるい)のか、	6
1329	え、?	え、。	6
1330	如何(どう)した。」	奈何(どう)した。」	7
1331	頭痛(づ、う)が致(いた)すので。」	頭痛(づつう)がいたすので。」	8
1332	立(た)つて居(ゐ)るのは苦(くる)しいだらう。」	立つて居るのは苦(くる)しいだらう。」	9
1333	「苦(くる)しいやうなら我慢(がまん)をせんとも、	「苦(くる)しいやうなら我慢(がまん)をせんとも、	11
1334	私(わたし)が理由(わけ)を	私が譯(わけ)を	11
1335	「然(さ)うか。」	「然(さ)うか、	112 3
1336	然(しか)し非常(ひじやう)な	然(しか)し非常に	3
1337	待兼(まちか)ねたる	待ちかねたる	4
1338	子爵(ししやく)は呼(よ)びぬ。	子爵(ししやく)は呼(よ)べり。	4
1339	其邇(そのちかき)を避(さ)けたり。	其の邇(ちかき)を避(さ)けたり。	10
1340	目(め)の中(□□)には焚(も)ゆらむやうに	目(め)の中には焚(も)ゆらんやうに	11
1341	秋高(あきたか)う清遠(せいゑん)の空(そら)は	秋高(あきたか)清遠(せいゑん)の空(そら)は	13
1342	其後(そのうしろ)に舖(し)き	其の後(うしろ)に舖(し)き	13
1343	前(まへ)に進出(す、みい)で、	前に進み出(で)、	113 3
1344	鏡面(レンズ)を開(ひら)かむと	鏡面(レンズ)を開(か)んと	4
1345 (五)の一	却(かへ)つて日本周航會社(につぼんしうかうくわいしや)に	却(かへ)りて日本周航會社(につぼんしうかうくわいしや)に	114 3
1346 [明30.10.9]	高利(かうり)を背負(せお)ひて艱(なや)まさるゝと	高利(かうり)の為(ため)に艱(なやま)さるゝと	4
1347	風流債(ふうりうさい)ならむと	風流債(ふうりうさい)ならんと	6
1348	印(いん)を假(か)せしが	印(いん)を假(か)せしが、	9
1349	形(かた)の如(ごと)く腐込(くされこ)みて、	形(かた)の如(ごと)く腐(く)れ込みて、	9
1350	苦(く)を受(う)くとも知(し)りて、	苦(く)を受(う)くると知りて、	10
1351	苦(く)を受(う)くとも知(し)りて、	苦(く)を受(う)くると知りて、	10
1352	不幸(ふかう)を悲(かな)しむものは	不幸(ふかう)を悲(かな)しむものは、	10
1353	高利(かうり)の術(じゆつ)たるや	高利(かうり)の術(じゆつ)たるや、	13
1354	渴(くわつ)の甚(はなは)だしく	渴(くわつ)の甚(はなは)だしく	13
1355	其肉(そのにく)を	其の肉(にく)を	115 1
1356	此急(このきふ)に乗(じよう)じて	此(こ)の急(きふ)に乗(じよう)じて	2
1357	其值(そのあたひ)	其の値(あたひ)	2
1358	盛(も)るに異(こと)なるなし。	盛(も)るに異(こと)なる無し。	3
1359	其渴(そのくわつ)の	其の渴(くわつ)の	4
1360	癒(い)ゆるに及(およ)びては、	癒(い)ゆるに及(およ)びては、	4
1361	喜(よろこ)びて吃(きつ)せしものは、	喜(よろこ)びて吃(きつ)せしものは、	4
1362	痛悔(つうくわい)すと雖(いへど)も	痛悔(つうくわい)すと雖(いへど)も、	5
1363	其鮮血(そのせんけつ)に搾(しぼ)り、	其の鮮血(せんけつ)に搾(しぼ)り、	6
1364	其健肉(そのけんにく)に	其の活肉(くわつにく)に	6
1365	為(な)さゞらむや。	為(な)さゞらんや。	8
1366	是(こゝ)を以(も)て	是(こゝ)を以(も)て、	8
1367	此憂(このうれひ)を	此の憂(うれひ)を	13
1368	秋季大会(しゅうきたいくわい)	秋季大会(しゅうきたいくわい)	116 1
1369	あらむとて、	あらんとて、	1
1370	委員會(ゐ、んくわ□)のありし	委員會(ゐ、んくわい)のありし	1
1371	歸途(かへさ□)を	歸(かへる)さを	1
1372	遊佐(ゆさ)が手弄(てまさぐ)る	遊佐(ゆさ)が弄(まさぐ)れる	6
1373	熏豚(ハム)の鑿詰(くわんづめ)も	熏豚(ハム)の鑿詰(くわんづめ)も、	6
1374	途(みち)に求(もと)めたるなり。	途(みち)に求(もと)めしなり。	6
1375	蒲田(かまだ)の聲(こゑ)は期々(らうゝ)として聽(き)くに快(よろ)く、	(一行ヌケ)	

1376	「それは	蒲「それは	8
1377	然(さ)う泊(しまり)が知(し)れて	然(さ)う泊(とまり)が知れて	8
1378	どうだね、一ゲーム。	どうだね、一ゲエム。	9
1379	其長足(そのちやうそく)の	其の長足の	10
1380	御愁傷(ごしゆうしやう)のやうな	御愁傷(ごしうしやう)のやうな	13
1381	皺嗔聲(しわがれごゑ)して	皺嗔聲(しわかれこゑ)して	117 3
1382	「更(さら)に	風「更(さら)に	4
1383	「三(み)たび	蒲「三たび	6
1384	「へ、ゝ此頃(このごろ)の	風「へ、ゝ、此頃の	8
1385	遊佐(ゆさ)が笑(わら)ひぬ。	遊佐が笑へり。	9
1386 (五)の二	此間(この)彼處(このあひだ)あすこの	此間(この)那處(このあひだ)あすこの	10
1387[明30.10.10]	三度(さんど)なさんと	三度(さんど)なさんと、	11
1388	新(あた)らしいチヨークが	新(あた)らしいチヨオクが	11
1389	風「チヨークの多少(たせう)は	風「チヨオクの多少(たせう)は	118 1
1390	巧拙(かうせつ)には	巧拙(こうせつ)には	1
1391	杖(キユヅ)を取替(とりか)へるのだつて、	杖(キユヅ)を取易(とりか)へるのだつて、	2
1392	蒲田(か□だ)に八十で	蒲田(かまだ)に八十で	5
1393	風「八十の事(こと)が有(あ)るものか。」	風「八十の事があるものか。」	6
1394	「五とは情無(なさけ)ない、	「五とは情(なさけ)無い!	9
1395	一ゲーム行(い)かう。」	一ゲエム行(い)かう。」	10
1396	「行(い)かうとは何(なに)?	「行かうとは何だ!	11
1397	「行(い)かうとは何(なに)?	「行かうとは何だ!	11
1398	強(つよ)く撞(つ)くから	強(つよ)く撞(つ)くから	13
1399	蒟蒻玉(こんにやくだま)。	蒟蒻玉(こんにやくたま)。	119 2
1400	それで二人(ふたり)の	それで、二人(ふたり)の	2
1401	「え、ゝ、	風「え、ゝ、	4
1402	劣(おと)う、	蒲「然(さ)う、	5
1403	劣(おと)らじと諍(あらそ)ひし末(すゑ)、	劣(おと)らじと諍(あらが)ひし末(すゑ)、	6
1404	飲(の)んでからに為(せ)う。	飲(の)んでからに為(し)やう。	8
1405	徐徐々(そろそろ〜)始(は)じめやうよ。」	徐々(そろ〜)始めやうよ。」	9
1406	其(その)二分(ぶん)の一	其(その)二分の一	10
1407	店(みせ)も交(ま)じりながら	店(みせ)も雜(ま)じりながら	11
1408	家並(やなみ)整(と□)のへる	家並(やなみ)整(と、)のへる	11
1409	遊佐(ゆさ)が住居(すまひ)なる。	遊佐が居住(すまひ)なる。	13
1410	遊佐(ゆさ)が住居(すまひ)なる。	遊佐が居住(すまひ)なる。	13
1411	彼(か□)の美(うつく)しき妻(つま)は	彼(かれ)の美(うつく)しき妻(つま)は	120 1
1412	一寸(ちよつと)	些(ちよい)と	6
1413	一寸(ちよつと)	些(ちよい)と	6
1414	一寸(ちよつと)	些(ちよい)と	6
1415	塞(ふさが)つてをりますから。」	塞(ふさが)つてをりますから」	6
1416	従々(づか〜)と	従々(づが〜)と	8
1417	従々(づか〜)と	従々(づが〜)と	8
1418	長(なが)四疊(でふ)を	長四疊(ながよでふ)を	8
1419	通(とほ)りて行(ゆ)く迹(あと)に、	通(とほ)りて行(ゆ)く迹(あと)に、	8
1420	一寸(ちよつと)お會(あ)ひなすつて	些(ちよい)とお會(あ)ひなすつて、	13
1421	一寸(ちよつと)お會(あ)ひなすつて	些(ちよい)とお會(あ)ひなすつて、	13
1422	一寸(ちよつと)お會(あ)ひなすつて	些(ちよい)とお會(あ)ひなすつて、	13
1423	「松茸(まつだけ)は如何(どう)した。」	「松茸(まつだけ)は奈何(どう)した。」	121 2
1424	此暢氣(この、んき)なる	此の暢氣(のんき)なる	3
1425	松茸(まつだけ)もございますから、早(はや)く	松茸(まつだけ)もございますから早く	6
1426	彼(あれ)を還(かへ)して	他(あれ)を還(かへ)して	6
1427	(なし)	然(さ)も	9
1428	氣楽(きらく)さうに	氣楽(きらく)に	9
1429	高笑(たかわらひ)するを、	高笑(たかわらひ)するを	9
1430 (五)の三	遊佐(ゆさ)は	少間(しばし)ありて遊佐は	10
1431[明30.10.11]	蒲「湯(ゆ)に一(ひと)つ	蒲「浴(ゆ)に一つ	11
1432	遊「ま、待(ま)ち給(たま)へ、	遊「ま、待(ま)ち給(また)へ、	12
1433	心穩(こゝろやす)からず	心穩(おだや)かならず	13
1434	心穩(こゝろやす)からず	心穩(おだや)かならず	13
1435	座(すわ)りたまへ。	坐(すわ)りたまへ。	122 1
1436	如何(どう)したのかい。」	奈何(どう)したのかい。」	1
1437	遊「座(すわ)つても居(を)られんのだ、	遊「坐(すわ)つても居(を)られんのだ、	2
1438	來(き)て居(を)るのだよ。」	來て居(を)るのだよ	2

1439	來(き)て居(を)るのだよ。」	來て居るのだよ	2
1440	蒲「那物(□)てものが來(き)たのか。」	蒲「那物(えてもの)か來たのか。」	3
1441	柱(はしら)に倚(よ)りつ。	柱(はしら)に倚(よ)れり。	5
1442	靱紵(しにくね)した皮肉(ひにく)な	陰忍(ひねくね)した皮肉(ひにく)な	7
1443	靱紵(しにくね)した皮肉(ひにく)な	陰忍(ひねくね)した皮肉(ひにく)な	7
1444	叩(た、)きつけて遣(や)るさ。」	叩(た、)き付けて遣(や)るさ。」	9
1445	心苦(こ、ろぐる)しくて、	心苦(くる)しくて、	12
1446	君(きみ)の辯(べん)を揮(ふる)つて。」	君の辨(べん)を奮(ふる)つて。」	13
1447	辯(べん)の揮(ふる)ひやうが無(な)いよ。	辨の奮ひやうが無いよ。	123 2
1448	飛(とん)で火(ひ)に入(い)る夏(なつ)の虫(むし)と	飛んで火に入る夏の虫と	2
1449	立聞(たちきぎ、)して、	立聞(たちきぎ、)して、	4
1450	助太刀(すけだち)を為(す)るから。」	助太刀(すけだち)を為(す)るから。」	4
1451	恚(か)くては果(は)てじと、	恚(かく)ては果(は)てじと、	6
1452	下行(おりゆ)くなりけり。	下(お)り行くなりけり。	7
1453	高(たか)が金銭(きんせん)の貸借(かしかり)だ、	高(たか)が金銭(かね)の貸借(かしかり)だ、	12
1454	借りる(●●●)のだから、	借(か)りるのだから、	124 4
1455	復(はるか)に以(も)つて	復(はるか)に以(も)つて	5
1456	金(かね)に窮(こま)らんと云ふ	金銭(かね)に窮(こま)らんと云ふ	6
1457	限(かぎり)は無(な)い。	限(かぎり)は無(な)い、	6
1458	名誉(めいよ)に於(お)いて	名誉(めいよ)に於(お)いて	7
1459	「恐入(おそれい)りました。高利(アイス)を	「恐入(おそれい)りました、高利(アイス)を	9
1460	借(か)りるなどは	借りるなどは、	11
1461	紳士(しんし)たるものゝいと慚(は)づべき	紳士(しんし)たるものゝ慚(は)づべき	12
1462	それを借(か)りた	既(すで)に借りた	13
1463	對(たい)せむとするも能(あた)はざるなりだらう。	對(たい)せんとするも能(あた)はざるなりだらう。	125 1
1464	乱(らん)が興(おこ)つた。	何か乱(らん)が興(おこ)つた。	2
1465	師(いくさ)を	是(は)帥(いくさ)を	3
1466	河上(かじやう)へ遣(つか)はして	河上(かじやう)へ遣(つか)はして、	4
1467	孝経(かうきやう)を讀(よ)ませられた事(こと)ならば、	孝経(かうきやう)を讀(よ)ませられた事(こと)ならば、	4
1468	自(おのづ)から消滅(せうめつ)せむ、	自(おのづ)から消滅(せうめつ)せん、	5
1469	天引(てんびき)四割(わり)と吃(く)つて、	天引(てんびき)しわりと吃(く)つて	7
1470	三月目(みつきめごと)に血(ち)を	一月隔(ひとつきおき)に血(ち)を	7
1471	吮(す)はれる、	吮(す)はれる。	7
1472	吮(す)はれる、	吮(す)はれる。	7
1473	良心(りやうしん)を有(も)つて	良心(りやうしん)を持つて	8
1474	快辯(くわいべん)流(なが)るゝ如(ごと)く	快辨(くわいべん)流(かか)るゝ如(ごと)く、	11
1475	息(いき)をも継(つ)がせず	息(いき)をも継(つ)がせず	11
1476	(五)の四 大(おほき)な	大きな	126 1
1477	[明30.10.12]誤(あやまり)だ。	悞(あやまり)だ。	1
1478	借(か)りた後(のち)の	借りたる後の	2
1479	境遇(きやうぐう)に應(おう)じて魂(たましひ)とも	境遇(きやうぐう)に應(おう)じた魂(たましひ)とも	4
1480	身(み)が立(た)たない。	身(み)か立たない。	9
1481	けれども紳士(しんし)が	けれども、紳士(しんし)が	11
1482	状(じやう)を為(な)して、	状(じやう)を作(な)して、	13
1483	「時(とき)にもう下(した)へ	「時に、もう下(した)へ	127 2
1484	「どれ、一七(いつひ)深(ふか)く	どれ、一七(いつひ)深(ふか)く	3
1485	氣遣(きづか)はれて、	氣遣(きづか)はれて、	6
1486	無聊(ぶりやう)に堪(た)へざる	無聊(ぶれう)に堪(た)へざる	6
1487	持來(もちきた)りぬ。	持ち來(もちきた)りぬ。	7
1488	其美(そのうつく)しき顔(かほ)を	其の美(そのうつく)しき顔を	10
1489	少(すこ)しく赤(あか)めて、	少(すこ)しく赧(あか)めて、	10
1490	襖越(ふすまごし)に様子(やうす)を	紙門越(ふすまごし)に様子(やうす)を	11
1491	聴(き)いて在(ゐ)らつしやいます。	聴(き)いて被在(ゐらつしや)います。	11
1492	聴(き)いて在(ゐ)らつしやいます。	聴(き)いて被在(ゐらつしや)います。	11
1493	お可恥(はづかし)くてなりません。」	お可恥(はづか□)くてなりません。」	12
1494	「何有(なにあ)、他人(たにん)ぢやなし、	「何有(なにあ)、他人(たにん)ぢやなし、	128 1
1495	「私(わたくし)はもう彼奴(あいつ)が參(まゐ)りますと、	「私はもう彼奴(あいつ)が參(まゐ)りますと、	3
1496	強慾(がうよく)の事(こと)を	強慾(がうよく)な事を	4
1497	強慾(がうよく)の事(こと)を	強慾(がうよく)な事を	4
1498	人相(にんさう)が別(べつ)でございます。	人相(にんさう)が別(べつ)でございます。	4
1499	陰氣(いんき)な、陰忍(ねち)した、	陰氣(いんき)な朝々(ねち)した、	5
1500	過(すぐ)るとて、	過(すぐ)るとて	9
1501	したゝか	絶(したゝ)か	9

1502	其足(そのあし)を踏付(ふみつ)けたり。	其足を踏付(ふんづ)けたり。	9
1503	「是(これ)は失禮(しつれい)を。	「これは失禮を。	10
1504	見(み)かねたりけむ、	見かねたりけん、	12
1505	「落付(おちつ)かれる譯(わけ)の	「落付(おちつか)れる譯(わけ)の	129 3
1506	「是(これ)は失禮(しつれい)。」	「これは失禮。」	7
1507	足(あし)を踏(ふ)んだのだが、	足を踏(ふ)んだのだが、	8
1508 (五)の五	蒲「其(その)の苦(くる)しめて	蒲「其の苦しめて	13
1509[明30.10.13]	聞(き)きけむやうに	聞きけんやうに	130 2
1510	眼(まなこ)を□(みは)りしが、	眼(まなこ)を瞪(みは)りしか、	5
1511	眼(まなこ)を□(みは)りしが、	眼(まなこ)を瞪(みは)りしか、	5
1512	「然(さ)うです。	「然(さ)うです。	12
1513	居(を)りましたけれど、	居ましたけれど、	131 2
1514	居(を)りましたけれど、	居ましたけれど、	2
1515	所(ところ)が下(した)に	ところが、下に	4
1516	驚(おどろ)く。」	驚くぢやありませんか。」	5
1517	「さあ因(そこで)	「さあ、因(そこで)	8
1518	「ほんに	「本(ほん)に	9
1519	然(さ)うで	然(さ)うで	9
1520	歸來(かへりきた)れり。	歸り來れり。	10
1521	「如何(どう)だ、	「奈何だ、	11
1522	如何(どう)だ。」	奈何だ。」	11
1523	彼奴(あいつ)が	彼奴(あいつ)か	132 1
1524	高利貸(アイス)を	高利貸(アスイ)を	1
1525	如何(どう)したのだらう。	奈何(どう)したのだらう。	2
1526	さあ、那(あれ)で	「さあ、那(あれ)で	3
1527	其美(そのうつく)しき顔(かほ)を	其の美しき顔を	5
1528	談判(だんぱん)しやうぢやないか。	談判(だんぱん)せうぢやないか。	10
1529	彼奴(あいつ)なら恐(おそ)れることは無(な)い。」	那奴(あいつ)なら恐(おそ)れることは無い。」	13
1530	些(ちつ)と氣凜(きり)と	些(ちつ)と氣凜(きり)と	133 3
1531	為(する)が可(いい)、	するが可(いい)、	3
1532	お取(と)んなさいましな。」	お取りなさいましな。」	7
1533	「是(これ)は憚(は)りさまです。	「これは憚(は)りさまです。	8
1534	一寸(ちよつと)身支度(みじたく)に	些(ちよつ)と身支度(みじたく)に	8
1535	一寸(ちよつと)身支度(みじたく)に	些(ちよつ)と身支度(みじたく)に	8
1536	安兵衛(やすべゑ)と	安兵衛(あすべゑ)と	9
1537	云(い)ふ役(やく)だ。	いふ役(やく)だ。	9
1538	用意(ようい)は可(いい)よ。」	用意(ようい)は好(いい)よ。」	13
1539 (六)の一	消(き)えむとすれど	消(き)えんとすれど	135 3
1540[明30.10.14]	肺病患者(はいびやうやみ)と	肺病患者(はいびやうくわんじや)と	4
1541	書替(かきかへ)の連帯(れんたい)を	書替(かきかへ)の連帯(れんたい)を	7
1542	「敢(あへ)て困(こま)らせる	「敢(あへ)て困(こま)らせるの、何のと云ふ	12
1543	何方(どつち)とも	何方(どちら)とも	13
1544	其連帯者(そのれんたいしや)に	其の連帯者(れんたいしや)に	136 6
1545	言譯(いひわけ)がありません。	言譯(いひわけ)がありません。	8
1546	句切(くぎり)が付(つ)くのでありますから、	句切(くぎり)が付(つ)くのでありますから、	9
1547	然(さ)う致(いた)すと	然(さ)う致(いた)すと、	137 1
1548	手段(しゆだん)を取(と)らんければなりません。」	手段(しゆだん)も取らんければなりません。」	2
1549	「如何(どう)せうと言(い)ふのかね。」	「奈何(どう)せうと言(い)ふのかね。」	3
1550	貴方(あなた)の名誉(めいよ)を	貴方(あなた)の御名誉(ごめいよ)を	8
1551	けれども此方(こちら)の	けれども、此方(こちら)の	10
1552	已(や)むを得(え)るので、	已(や)むを得(え)るので、	11
1553	「今更(いまさら)那樣言(そんなこと)を！」	「今更(いまさら)那樣事(そんなこと)を！」	138 11
1554	其横顔(そのよこがほ)を	其の横顔(よこがほ)を	12
1555 (六)の二	遊佐(ゆさ)も道(のが)れ難(がた)き	彼も道(のが)れ難(がた)き	13
1556[明30.10.15]	己(おのれ)に	己(おのれ)に	139 1
1557	懲(こ)りたれば、	懲(こ)りてければ、	1
1558	連帯(れんたい)を頼(たの)みて	連帯を頼(たの)みて、	2
1559	獲物(えもの)の如(ごと)く、	獲物(えもの)の如(ごと)く	6
1560	所以無(いはれな)き責苦(せめく)を	謂(いはれ)無(な)き責苦(せめく)を	6
1561	一点(いつてん)の人情無(にんじやうな)き	一點(いつてん)の人情無(な)き	8
1562	引裂(ひきさ)けむとす。	引裂(ひきさ)けんとするなり。	9
1563	下(くだ)さるべきのを未(いま)だに	下(くだ)さるべきのを、未(いま)だに	11
1564	「然(さ)う	「然(さふ)	140 1

1565	いふ	云(い)ふ	1
1566	怪(け)しからん	怪(□)しからん	1
1567	お拂(はらひ)が無(な)い、	お拂(はらひ)か無い、	3
1568	空(むな)しく歸(かへ)る、	空(むな)しく歸る	3
1569	其日當(そのにつたう)及(および)車代(くるまだい)として	其の日當(につたう)及(および)俵代(くるまだい)として	3
1570	ですから	ですから、	4
1571	若(も)し	若(も)し那(あれ)に	4
1572	其日(そのひ)の	其の日の	5
1573	今申(いま、を)す通(とほ)り	今申す通り、	10
1574	日當(につたう)でありますから、	日當(□つたう)でありますから、	11
1575	宜(よろ)しい	宜(よろ)しい	12
1576	理(わけ)なのです。	譯(わけ)なのです。	12
1577	如何(どう)あつても	奈何(どう)あつても	141 2
1578	「で金(きん)も	「で、金(きん)も	5
1579	身(み)の危(あやう)きに	身の危(あやふ)きに	9
1580	何日頃(いつごろ)御都合(ごつがふ)が	何頃(いつごろ)御都合(ごつがふ)が	12
1581	相違御坐(さうゐござ)いませんか。」	相違(さうゐ)ございませんか。」	142 2
1582	「宜(よろ)しい事(こと)も無(な)い……………」	「宜(よろ)しい事も無い……………」	8
1583	其代(そのかは)り	其の代(かは)り	9
1584	宜(よろ)しいので、	宜(よろ)しいので、	13
1585	「日當(につたう)、車代(くるまだい)なども	日當、俵代なども	143 2
1586	「それちや、どうも。」	「それちや、どうも、」	4
1587	三圓(さん)ばかり出(だ)さう。」	三圓ばかり出さう、」	6
1588 (六)の三	襖(ふすま)の開(ひら)きけるを	紙門(ふすま)の開(ひら)きけるを	7
1589[明30.10.16]	各々(おのゝ)〜	各(おのゝ)〜	9
1590	心得顔(こゝろえがほ)なるは、	心得顔(こゝろえかほ)なるは、	9
1591	必(かなら)ず仔細(しさい)あるべしと	必(かなら)ず子細(しさい)あるべしと	9
1592	禮(れい)を為(な)せり。	禮(れい)を作(な)せり。	11
1593	先(さき)から	曩(さき)から	12
1594	見(み)たやうだ〜と	見たやうだ、見たやうだと	12
1595	見(み)たやうだ〜と	見たやうだ、見たやうだと	12
1596	是(これ)は	「是は	144 5
1597	お珍(めづ)らしい。	お珍(めづら)しい。	5
1598	如何(どう)ですか、	奈何(どう)ですか、	7
1599	聊(いさ、か)も愧(は)づる色無(いろな)きを	毫(いさ、か)も愧(は)づる色無(いろな)きを	11
1600	恁(か)くては	恁(かく)ては	12
1601	思(おも)ふなるべし。	思(へ)るなるべし。	12
1602	此家業(このかけふ)が	此の家業(かけふ)が	145 1
1603	此破廉耻(このはれんち)の	此(こ)の破廉耻(はれんち)の	4
1604	憎(にく)しと思(おも)ひぬ。	憎(にく)しと思(おも)へり。	5
1605	「私(わたくし)のやうな者(もの)が	「私(わたし)のやうな者が	7
1606	此商賣(このしやうばい)を	此の商賣を	9
1607	會(あ)つてゐる間(うち)だけは、	會(あ)つてゐる間(あひだ)だけは、	11
1608	矢張(やはり)眞人間(まにんげん)で	依舊(やはり)眞人間(まにんげん)で	11
1609	聒(やかま)しかつた。何(なん)とか	聒(やかま)しかつた、何とか	13
1610	其舊友(そのきういう)の前(まへ)に	其の舊友(きういう)の前に	146 5
1611	面(おもて)を赤(あか)めざる貫一(くわんいち)も、	面(おもて)を赧(あか)めざる貫一も	5
1612	「もう昔話(むかしはなし)は	「もう昔話(むかしはなし)は	9
1613	金額(きんがく)を	金額(きんかく)を	11
1614	書入(かきい)れむとするを、	書入(かきい)れんとするを、	11
1615	風「あ、	風「あ、	12
1616	風「あ、	風「あ、	12
1617	一寸(ちよつと)。その	些(ちよつ)と、その	12
1618	一寸(ちよつと)。その	些(ちよつ)と、その	12
1619	一寸(ちよつと)。その	些(ちよつ)と、その	12
1620	其始末(そのしまつ)を	其の始末(しまつ)を	13
1621	如何(いか)に辯(べん)ずるかを	如何(いか)に辨(べん)するかを	147 2
1622	聴(き)かむと、	聴(き)かんと、	3
1623 (六)の四	如何(どう)か特別(とくべつ)の	奈何(どう)か特別(とくべつ)の	5
1624 ((六)の五と誤植)	「如何(どう)かね、君(きみ)。」	「奈何(どう)かね、君(きみ)。」	9
1625[明30.10.18]	「勘辨(かんべん)と申(まを)しますと。」	「勘辨(かんべん)と申(まを)しますと？」	10
1626	知(し)つての通(とほ)り、	知(し)つての通(とほ)り、	12
1627	元此借金(もとこのしやくきん)は	元此(こ)の借金(しやくきん)は	12

1628	實際頼(じつさいた□)まれて	實際頼(じつさいたのま)れて	12
1629	實際頼(じつさいた□)まれて	實際頼(じつさいたのま)れて	12
1630	印(ゐん)を貸(か)したゞけの	印(いん)を貸(か)したゞけの	12
1631	倒(たふ)れて來(き)たといふ事情(わけ)なので、	倒(たふ)れて來(き)たといふ譯(わけ)なので、	13
1632	如何(どう)でも可(い)いのだから、	奈何(どう)でも可(い)いのだから、	148 1
1633	所(ところ)で圖(はか)らずも	ところで、圖(はか)らずも	4
1634	所(ところ)で圖(はか)らずも	ところで、圖(はか)らずも	4
1635	間(はざま)として實(じつ)は	間(はざま)として、實(じつ)は	7
1636	此(この)三百圓(ゑん)の	此(この)三百圓(の)	12
1637	貫一(くわんいち)は冷笑(れいせう)せるなり。	貫一(くわんいち)は冷笑(れいせう)せり。	149 1
1638	三百九十圓(ゑん)の丸損(まるぞん)だから、	三百九十圓(の)全損(まるぞん)だから、	6
1639	短(みじか)しと謂(い)はむやうに、	短(みじか)しと謂(い)はんやうに、	9
1640	金額(きんがく)を書入(かきい)れたり。	金額(きんかく)を書入(かきい)れたり。	10
1641	宜(よろ)しうございますか。]	宜(よろ)しうございますか。]	150 1
1642	此(この)借金(しやくきん)は	此(この)借金(しやくきん)は	6
1643	方(ほう)が付(つ)かんのだから、	方(ほう)か付(つ)かんのだから、	7
1644	浮沈(ふちん)に關(かゝ)る大事(だいじ)なので、	浮沈(ふちん)に關(かゝ)る大事(たいじ)なので、	8
1645	心配(しんぱい)はして居(ゐ)る	心配(しんぱい)して居(ゐ)る	9
1646	力(ちから)が足(た)らんで	力(ちから)か足(た)らんで	9
1647	手(て)の着(つ)けやうがない、	手の着(つ)けやうが無い。	10
1648	手(て)の着(つ)けやうがない、	手の着(つ)けやうが無い。	10
1649	相手(あひて)が君(きみ)であつたのが	對手(あひて)か君(きみ)であつたのが	10
1650	相手(あひて)が君(きみ)であつたのが	對手(あひて)か君(きみ)であつたのが	10
1651	僕(ぼく)の難(なん)を拯(すく)ふと	僕等(ぼくら)の難(なん)を拯(すく)ふと	11
1652	然(さ)う無理(むり)な	決(け)して然(さ)う無理(むり)な	13
1653	如何(どう)かね、君(きみ)。」	奈何(どう)かね、君(きみ)。」	13
1654	三圓頂戴(ゑんちやうだい)して、之(これ)に	三圓頂戴(ちやうだい)して之(これ)に	151 3
1655	(六)の五 獨(ひとり)に	其(この)獨(ひとり)に	5
1656	[明30.10.19]蒲田(かまだ)が怒(いかり)は	蒲田(かまだ)の怒(いかり)は	6
1657	風早(かざはや)が口(くち)を酸(す)くして	風早(かざ)か口(くち)を酸(す)くして	7
1658	錢(ぜ)にもらひが門(かど)に	錢(ぜ)に賞(もらひ)か門(かど)に	8
1659	人(ひと)の言(い)ふ事(こと)が解(わか)らんと	人の言(い)ふ事(こと)か解(わか)らんと	12
1660	誰(だれ)が其(その)話(はなし)に	誰(だれ)が其(その)話(はなし)に	12
1661	拳動(きよどう)が無禮(ぶれい)だから	拳動(きよどう)か無禮(ぶれい)だから	13
1662	一つも為(す)ることが、	一つも為(す)ることか、	152 3
1663	一枚(まい)の證文(しょうもん)を	一枚(まい)の證文(しょうもん)を	5
1664	此(この)有様(ありさま)を、	此(この)有様(ありさま)を、	6
1665	見(み)せて遣(やり)たい !!	見(み)せて遣(やり)たい!	6
1666	貴様(きさま)を失(う)しなつた方(ほう)が悲(かな)しいと	貴様(きさま)を失(う)しなつた方(ほう)が悲(かな)しいと	9
1667	其(その)一言(いちごん)に	其(その)一言(いちごん)に	10
1668	中(なか)に入(はい)るからは、決(けつ)して	中(なか)に入(はい)るからは決(けつ)して	11
1669	今日(けふ)は大人(おとな)しく歸(かへ)れ、歸(かへ)れ。」	今日(けふ)は順(おとな)しく歸(かへ)れ、歸(かへ)れ。」	12
1670	此(この)約束(やくそく)てがたは	此(この)約束(やくそく)てがたは	153 2
1671	此(この)方(ほう)の形(かた)は	此(この)方(ほう)の形(かた)は	3
1672	それで一先(ひとまづ)付(つ)くのですから、	それで一先(ひとまづ)附(つ)くのですから、	3
1673	此(この)手段(しゆだん)を	此(この)手段(しゆだん)を	6
1674	「うん、宜(よろ)しい。」	「うん、宜(よろ)しい。」	7
1675	為(な)すつて下(くだ)さるか。」	為(な)すつて下(くだ)さるか。」	8
1676	「うん、宜(よろ)しい。」	「うん、宜(よろ)しい。」	9
1677	有(あ)仰(おつ)しやるで	有(あ)仰(おつ)しやるで、	154 4
1678	此(この)手形(てがた)は	此(この)手形(てがた)は	5
1679	貴(お)貴(も)らつて歸(かへ)ります。	お貴(も)らひ申(ま)して歸(かへ)ります。	6
1680	遊(あ)佐(さ)さん	遊(あ)佐(さ)さん、	7
1681	御(ご)印(いん)を	御(ご)印(いん)を	7
1682	蒲(あ)「疫(えき)病(びやう)神(かみ)やくびやうがみ)が戸(と)惑(まど)ひしたやうに	蒲(あ)「疫(えき)病(びやう)神(かみ)やくびやうがみ)か戸(と)惑(まど)ひしたやうに	10
1683	蒲(あ)「金(きん)一百十七圓(ゑん)……………」	蒲(あ)「金(きん)壹(いち)百(ひゃく)七(しち)圓(えん)……………」	13
1684	蒲(あ)「金(きん)一百十七圓(ゑん)……………」	蒲(あ)「金(きん)壹(いち)百(ひゃく)七(しち)圓(えん)……………」	13
1685	遊(あ)「百十七圓(ゑん)?」	遊(あ)「百(ひゃく)七(しち)圓(えん)?」	155 1
1686	蒲(あ)「金(きん)一百十七圓(ゑん)と	蒲(あ)「金(きん)壹(いち)百(ひゃく)七(しち)圓(えん)と	2
1687	(六)の六 「何(なに)を為(な)さるのです。」	「何(なに)を為(な)さるのです。」	13
1688	[明30.10.21]非常(ひじやう)手段(しゆだん)を執(と)らむとするよ、	非常(ひじやう)手段(しゆだん)を取(と)らんとするよ、	156 3
1689	非常(ひじやう)手段(しゆだん)を執(と)らむとするよ、	非常(ひじやう)手段(しゆだん)を取(と)らんとするよ、	3
1690	と心陰(こゝろに)すに	と心陰(ひそか)に	3

1691	「いや、	「いや	4
1692	然(さ)う	然(さ)う	4
1693	いふ譯(わけ)ぢやない……………」	云(い)ふ譯(わけ)ぢやない……………」	4
1694	膝(ひざ)	膝(ひざ)を	5
1695	立直(たてなほ)して、	前(すゝ)めて、	5
1696	「いや、然(さ)う	「いや、然(さ)う	6
1697	いふ	云(い)ふ	6
1698	譯(わけ)だ！」	譯(わけ)だ！」	6
1699	最少(もうすこ)し男(をとこ)らしい	最少(もうすこ)し男(をとこ)らしい	10
1700	「おゝ、俺(おれ)が	「おゝ、俺(おれ)が	12
1701	如何(どう)した。」	如何(どう)した。」	12
1702	「何遍(なんべん)でも言(い)ひます。	「何遍(なんべん)でも言(い)ひます。	157 2
1703	所業(しよげふ)をなさい、」	所業(しよげふ)を為(な)さい、」	2
1704	蒲田(かまた)が腕(かひな)は	蒲田(かまた)が腕(うで)は	3
1705	電光(でんくわう)の如(ごと)く	電光(でんくわう)の如(ごと)く	3
1706	猶(なほ)言(い)はむと	猶(なほ)言(い)はんと	3
1707	諸摑(もろづかみ)に	諸摑(もろづかみ)に	4
1708	二本筋(にほんすぢ)の	二本筋(にほんすぢ)の	8
1709	帽子(ぼうし)を	帽(ぼう)を	8
1710	煖爐(ストーブ)の前(まへ)に	煖爐(ストオブ)の前に	8
1711	嗚呼(ああ)、	嗚呼(あゝ)、	9
1712	大人(おとな)しい間(はざま)を、	順(おとな)しい間(はざま)を、	9
1713	貴様(きさま)、	貴様	10
1714	是(これ)が	これが	10
1715	人情(にんじやう)だよ。」	人情(にんじやう)だよ。」	10
1716	「蒲田(かまた)の言(い)ふ通(とほり)だ。	「蒲田(かまた)の言(い)ふ通(とほり)だ。	13
1717	僕(ぼく)等(ら)も	僕等(ぼくら)も	13
1718	「さあ、間(はざま)、如何(どう)だ。」	「さあ、間(はざま)、如何(どう)だ。」	158 3
1719	別問題(べつもんだい)……………」	別問題(べつもんだい)……………」	5
1720	呼吸(いき)が止(とま)るぞ。」	呼吸(いき)か止(とま)るぞ。」	7
1721	振釋(ふりほど)かむと	振釋(ふりほど)かんと	8
1722	振釋(ふりほど)かむと	振釋(ふりほど)かんと	8
1723	其(そ)の為(な)すに	なか〜其(そ)の為(な)すに	9
1724	「おい、蒲田(かまた)、	「おい蒲田、	11
1725	死(し)にはしないか。」	死(し)にはしなな。」	11
1726	哄然(くわうぜん)として大笑(たいせう)せり。	哄然(くわうげん)として大笑(たいせう)せり。	13
1727	抑(そ)も誰(たれ)の手(て)で	抑(そも)も誰(たれ)の手(て)で	159 4
1728	公明正大(こうめいせいだい)に	(なし)	4
1729	曰(いは)く戦(たゝかひ)！」	曰(いは)く戦(たゝかひ)！」	5
1730	(六)の七(ひと)の言(ことば)に	他(ひと)の言(ことば)に	11
1731	明30.10.24]出(だ)す聲(ね)は	出す音(ね)は	13
1732	絶(したゝ)か吃(くらは)すれば、	絶(したゝ)か吃(くらは)すれば、	160 6
1733	顔(かほ)を	顔(かほ)も	7
1734	得拳(えあ)げぬなりけり。	得拳(えあ)げざりき。	7
1735	談(だん)じると	談(だん)すると	10
1736	せう。」	為(せ)う。」	10
1737	酒(さけ)が仕舞(しまひ)になつて	酒(さけ)か仕舞(しまひ)になつて	161 1
1738	是(こゝ)ばかり残(のこ)られたら	是(こゝ)ばかり遺(のこ)られたら	1
1739	「宜(よろ)しい、	「宜(よろ)しい、	3
1740	僕(ぼく)が一所(いつしよ)に	僕(ぼく)が一所(いつしよ)に	3
1741	間(はざま)、間(はざま)、おい、間(はざま)と言(い)ふのに。」	間(はざま)、おい、間(はざま)と言(い)ふのに。」	4
1742	横手(よこで)を拍(う)つて	横手(よこで)を拍(う)ちて	7
1743	不意(ふい)に叫(さ)げば、	不意(ふい)に叫(さ)げば、	7
1744	吃驚(びつくり)する。何(なん)だ。」	吃驚(びつくり)する、何(なん)だ。」	8
1745	許婚(いひなづけ)はお宮(みや)といつた。」	許婚(いひなづけ)はお宮(みや)、お宮(みや)。」	9
1746	「あ、然(さ)うか。お宮(みや)、お宮(みや)。」	(一行ヌケ)	
1747	「此頃(このごろ)は彼(あれ)と一所(いつしよ)かい。	「此頃は他(あれ)と一所(いつしよ)かい。	10
1748	高利貸(アイス)などは	高利貸(アイス)などは、	12
1749	是(これ)で却(かへ)つて	これで却(かへ)つて	12
1750	女子(をんな)には和(やさ)しいとね。	女子(をんな)には温(やさ)しいとね、	13
1751	女子(をんな)には和(やさ)しいとね。	女子(をんな)には温(やさ)しいとね、	13
1752	矢張(やはり)旨(うま)いものを	依様(やはり)旨(うま)いものを	162 1
1753	唯其(たゞそれ)だけの	唯(ただ)それだけの	2

1754	然(さ)うなのね。	然(さう)なのかね。	3
1755	然(さ)うなのね。	然(さう)なのかね。	3
1756	目的(もくてき)があつて	目的(もくてき)があつて	4
1757	譬(たと)へば、	譬(たと)へば、	5
1758	軍用金(ぐんようきん)を彙(あつ)めるとか、	軍用金(ぐんようきん)を聚(あつ)めるとか、	5
1759	己(おのれ)の慾(よく)を	己(おのれ)の慾(よく)を	6
1760	充(みた)さうばかりで、	充(みた)さうばかりで、	6
1761	仕事(しごと)が出来(でき)るものではないと	仕事(しごと)が出来(でき)るものではないと	7
1762	間貫一(はざまくわんいち)に於(お)いては	間貫一(はざまくわんいち)に於(お)いては	8
1763	運出(はこびい)だされぬ。	運び出されぬ。	12
1764	宜(よろ)しく	宜(よろ)しく	13
1765	お頼申(たのみまを)しますよ。	お頼み申(たのみまを)しますよ。	13
1766	うゝ、好(よ)い松茸(まつだけ)だ。	うゝ、好(い)い松茸(まつだけ)だ、	163 1
1767	庖丁(ほうちやう)が軋(きし)むやうでなくては。	庖丁(ほうちやう)か軋(きし)むやうでなくては。	2
1768	虫(むし)が	虫(むし)が	3
1769	多(おほ)い。	多い、	3
1770	那(あ)の雨(あめ)が障(さは)つたのさ。	那(あ)の雨(あめ)か障(さは)つたのさ。	3
1771	「唯貨(ただかね)が欲(ほし)いのですよ。」	「唯貨(かね)が欲(ほし)いのです。」	4
1772	「で、其貨(そのかね)を奈何(どう)する。」	「で、其の貨(そのかね)を奈何(どう)する。」	5
1773	「満(つま)らん事(こと)を！」	「満(つま)らん事を！」	6
1774	酒(さけ)はいかんのです。」	酒(さけ)は不可(いかん)のんです。」	11
1775(六)の八	行(い)かんのですから。」	不可(いかん)のですから。」	13
1776[明30.10.25]	行(い)かんのですから。」	不可(いかん)のですから。」	13
1777	やをら起(た)たむと為(す)る所(ところ)を、	やをら起(た)たんと為(す)る所を、	164 6
1778	仰様(のけざま)に	仰様(のけさま)に	7
1779	打轉(うちこ)けたり。	打僵(うちこ)けたり。	7
1780	蒲田(かまだ)は此隙(このひま)に	蒲田(かまだ)は此の隙(ひま)に	7
1781	と組付(くみ)つくを、	と組み付(く)くを、	9
1782	其中(そのうち)に君(きみ)の	其の中(そのうち)に君(きみ)の	11
1783	證書(しようしょ)が在(あ)るに違(ちが)ひないから、	證書(しようしょ)が在(あ)るに違(ちが)ひ無いから、	11
1784	身(み)を揉(も)むと、	身を揉(も)むを、	165 2
1785	踏跨(ふんまた)がりて振上(ねぢあ)げ〜、	踏跨(ふんまた)がりて振揚(ねぢあ)げ〜、	2
1786	聲(こゑ)を勵(はげ)まして、	聲(こゑ)を勵(はげ)まして、	2
1787	何事(なに)も僕(ぼく)が引受(ひきう)けたから、	何事(なに)も僕(ぼく)が引受(ひきう)けたから、	4
1788	風(かぜ)「そりや餘(あま)り	風(かぜ)「それは餘(あま)り	10
1789	僕(ぼく)が引受(ひきう)けたから	僕(ぼく)が引受(ひきう)けたから	11
1790	構(かま)はんよ。	管(かま)はんよ。	11
1791	蒲田(かまだ)が	蒲田(か)が	13
1792	腕立(うでだて)の紳士(しんし)に	腕立(うでだて)の紳士(しんし)に	13
1793	諫(いさ)めむとも思(おも)へるなり。	諫(いさ)めんとも思(おも)へるなり。	166 1
1794	山(やま)に入(い)りながら	山(やま)に入りながら	2
1795	僕(ぼく)が獨(ひとり)で	僕(ぼく)が獨(ひとり)で	5
1796	おのれの帯(おび)を	己(おのれ)の帯(おび)を	7
1797	解(と)かむとすれば、	解(と)かんとすれば、	7
1798	生憎(あやにく)に絡(から)まるを、	生憎(あやにく)に絡(から)まるを、	8
1799	引放(ひきはな)さむとす。	引放(ひきはな)さんとす。	8
1800	手(て)を假(か)さむと	手(て)を假(か)さんと	10
1801	寄進(よりすす)みつ。	寄り進(すす)みつ。	10
1802	「何(なに)が此奴(こいつ)の	「何か此奴(こいつ)の	167 1
1803	聲(こゑ)を絞(しぼ)りて、	聲(こゑ)を搾(しぼ)りて、	2
1804	「屹度(きつと)話(はなし)を付(つ)けるから、	「屹(きつ)と話を付けるから、	3
1805	「屹度(きつと)話(はなし)を付(つ)けるから、	「屹(きつ)と話を付けるから、	3
1806	風(かぜ)「屹度(きつと)話(はなし)を付(つ)けるな——	風(かぜ)「屹(きつ)と話を付けるな——	4
1807	風(かぜ)「屹度(きつと)話(はなし)を付(つ)けるな——	風(かぜ)「屹(きつ)と話を付けるな——	4
1808	詐(いつはり)とは知(し)りたれど、	詐(いつはり)とは知(れ)ど、	6

『金色夜叉』本文の国語学的研究

——前編・中編について——

A Textual Critical Study of “Konjiki-Yasha”

北 澤 尚 ・ 許 哲

KITAZAWA Takashi, HO Chol

日本語・日本文学*

要約

明治の文豪尾崎紅葉の代表作である長編小説『金色夜叉』には、諸々の本文が存在しており、それらの本文の間には、少なからぬ異同があることが先行研究によって既に指摘されている。しかし、先行研究は語句や語法の異同のみを取り上げているだけで、漢字表記の異同・句読点の異同・送り仮名の異同・語形の異同・仮名遣いの異同・漢字表記か平仮名表記かの異同、濁音符の有無の異同、ルビの有無、誤植、などについては、取り上げていない。

そこで、本稿は、読売新聞初出本文と春陽堂初版本文とを、初版単行本全五冊のうち『金色夜叉 前編』『金色夜叉 中編』という最初の二冊分について調査範囲とし、語句の異同だけではなく句読点や文字表記上の異同をも広く取り上げ、その全ての異同箇所を対照表として示し、その調査結果に基づいて、本文異同の偏りや特徴について考察しようとするものである。なお、本稿の執筆者は、今後もこの調査分析を継続し、できるだけ早い時期に『金色夜叉』全編の本文異同の様相を明らかにしたいと考えている。なお、本稿では、本文異同の種類を「1 符号の異同」「2 表記の異同」「3 語法の異同」「4 語句の異同」の四種類に大別し、更に、その各々を下位分類した。

キーワード：尾崎紅葉，金色夜叉，本文批評，テキスト，読売新聞，初出本文，初版本，本文の異同

* Department of Japanese Linguistics